

平成22年度

函館市公営企業会計
決算審査意見書

函館市監査委員

函 監

平成 2 3 年 8 月 2 9 日

函館市長 工 藤 壽 樹 様

函館市監査委員 近 江 茂 樹

函館市監査委員 植 松 直

函館市監査委員 福 島 恭 二

函館市監査委員 佐 古 一 夫

平成 2 2 年度函館市公営企業会計決算審査意見について

地方公営企業法第 3 0 条第 2 項の規定により審査に付された各企業会計の決算および附属書類を審査したので、次のとおり意見を提出します。

目 次

| | ページ |
|--------------------|-----|
| [意見書編] | |
| 1 審査の対象 | 1 |
| 2 審査の期間 | 1 |
| 3 審査の要領 | 1 |
| 4 決算の概要 | 1 |
| 5 審査の結果 | 4 |
| 函館市水道事業会計 | 5 |
| 函館市温泉事業会計 | 16 |
| 函館市公共下水道事業会計 | 29 |
| 函館市交通事業会計 | 42 |
| 函館市病院事業会計 | 54 |
| [資料編] | |
| 決算審査資料 | |

[注 記]

- 1 文中に用いた金額は、千円未満を切り捨て、千円単位で表示した。
- 2 文中および各表中の比率は、小数点第2位を四捨五入した。
- 3 上記のように表記している結果、文中および各表中の数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 4 予算の執行に係わる計数は、消費税および地方消費税込みで、財務諸表に係わる計数は、消費税および地方消費税抜きで表示している。
- 5 経営成績で用いた職員給与費は、給料、手当等、報酬、賃金および法定福利費の合計である。

平成22年度函館市公営企業会計決算審査意見

1 審査の対象

- 平成22年度 函館市水道事業会計決算
- 平成22年度 函館市温泉事業会計決算
- 平成22年度 函館市公共下水道事業会計決算
- 平成22年度 函館市交通事業会計決算
- 平成22年度 函館市病院事業会計決算

2 審査の期間

平成23年6月7日から平成23年7月25日まで

3 審査の要領

審査にあたっては、提出された資料に基づき決算状況の聴取を行うとともに、各企業会計の決算書類および決算附属書類について関係法令の規定に準拠して作成されているかを確認、さらに事業の経営成績および財政状態が適正に表示されているかについて、会計諸帳簿および証書類との照合を行い、あわせて年度比較により事業の推移を把握することにより、その経営内容を分析した。

なお、証書類の検証、現金・預金の残高の確認については、地方自治法第235条の2の規定に基づき、別に例月現金出納検査において実施し、その結果も踏まえて審査した。

4 決算の概要

平成22年度各企業会計決算の概要は別表（2・3ページ）のとおりである。

別表 平成22年度各企業会計決算の概要

| 区 分 | | 水 道 事 業 | 温 泉 事 業 | 公 共 下 水 道 事 業 | 交 通 事 業 | |
|-----------------------|---------|--|--|---------------|-----------------|---------------|
| 収 益 的 収 支 | 入 | 営 業 収 益 | 4,450,562,841 | 246,598,023 | 5,986,214,222 | 980,700,835 |
| | | 営 業 外 収 益 | 14,502,061 | 5,717,527 | 11,174,290 | 280,596,773 |
| | | 特 別 利 益 | 35,438 | | 27,512,500 | 118,000,000 |
| | | 計 (A) | 4,465,100,340 | 252,315,550 | 6,024,901,012 | 1,379,297,608 |
| | | (うち他会計負担金・補助金) | (60,194,946) | (1,888,271) | (1,385,369,385) | (395,501,540) |
| | 出 | 営 業 費 用 | 3,840,536,452 | 254,353,367 | 3,759,513,063 | 1,183,017,874 |
| | | 営 業 外 費 用 | 461,191,634 | 11,800,673 | 1,608,103,221 | 41,049,200 |
| | | 特 別 損 失 | 34,645,756 | 330,671,664 | 55,151,923 | |
| | | 計 (B) | 4,336,373,842 | 596,825,704 | 5,422,768,207 | 1,224,067,074 |
| | | | 当 年 度 純 利 益 ・ 純 損 失 (C) = (A) - (B) | 128,726,498 | 344,510,154 | 602,132,805 |
| | | 未処分利益剰余金・未処理欠損金 | 198,200,223 | 872,354,513 | 1,320,701,771 | 2,095,012,725 |
| 資 本 的 収 支 | 入 | 企 業 債 | 644,300,000 | 58,900,000 | 2,419,200,000 | 75,100,000 |
| | | 出 資 金 | | | | |
| | | 国 道 補 助 金 | 34,288,572 | | 506,940,150 | 17,500,000 |
| | | 他 会 計 負 担 金 ・ 補 助 金 | 121,529,168 | | 131,347,553 | 60,070,000 |
| | | 寄 付 金 | | | | |
| | | 固 定 資 産 売 却 代 金 | | | 133,875 | |
| | | 貸 付 返 還 金 | 156,762,973 | | 96,834,930 | |
| | | 受 益 者 負 担 金 | | | 45,807,862 | |
| | | 工 事 負 担 金 | | | | |
| | | 工 事 補 償 金 | | | | |
| | | 計 (D) | 956,880,713 | 58,900,000 | 3,200,264,370 | 152,670,000 |
| | 出 | 建 設 改 良 費 | 875,974,717 | 67,864,267 | 1,564,110,870 | 118,451,037 |
| | | 企 業 債 償 還 金 | 1,279,378,652 | 61,188,073 | 3,779,059,200 | 177,880,615 |
| | | 貸 付 金 | | | 37,704,000 | |
| | | 他会計からの長期借入金償還金 | | 156,762,973 | | |
| | 計 (E) | 2,155,353,369 | 285,815,313 | 5,380,874,070 | 296,331,652 | |
| | | 資 本 的 収 支 差 引 額 (F) = (D) - (E) | 1,198,472,656 | 226,915,313 | 2,180,609,700 | 143,661,652 |
| | | 内 部 留 保 資 金 (G) | 2,952,200,672 | 344,961,400 | 2,649,854,284 | 991,062,860 |
| | | 固 定 負 債 (他 会 計 借 入 金) (H) | | 181,000,000 | | |
| | | 運 転 資 金 残 額 ・ 不 足 額 (C) + (F) + (G) + (H) | 1,882,454,514 | 45,464,067 | 1,071,377,389 | 979,493,978 |
| | | 企 業 債 ・ 他 会 計 借 入 金 未 償 還 残 高 | 19,524,408,345 | 862,168,431 | 65,528,661,590 | 1,333,380,357 |
| | | 一 般 会 計 繰 入 金 | 181,724,114 | 1,888,271 | 1,516,716,938 | 455,571,540 |

- (注) 1 資本的収支は、消費税および地方消費税を含む数値であり、収益的収支、当年度純利益（純損失）、未処分利益剰余金、未処理欠損金を含む。
- 2 内部留保資金とは、利益剰余金などの利益留保や減価償却費などの現金の支出を伴わない費用など企業の経営活動に必要とする資金を指す。
- 3 病院事業会計の営業外収益および営業外費用には、高等看護学院分を含む。
- 4 (H)の固定負債は、資金運用に伴う数値である。

(単位：円)

| 病 院 事 業 | 合 計 | 2 1 年 度 決 算 額 | 対 前 年 度 増 減 額 | 増 減 率 % | 区 分 | |
|-----------------|-----------------|-----------------|---------------|---------|--|-------|
| | | | | | 入 | 出 |
| 15,964,734,002 | 27,628,809,923 | 26,687,036,334 | 941,773,589 | 3.5 | 営 業 収 益 | 収 益 的 |
| 2,032,650,197 | 2,344,640,848 | 2,186,406,709 | 158,234,139 | 7.2 | 営 業 外 収 益 | |
| 280,460,760 | 426,008,698 | 70,594,574 | 355,414,124 | 503.5 | 特 別 利 益 | |
| 18,277,844,959 | 30,399,459,469 | 28,944,037,617 | 1,455,421,852 | 5.0 | 計 (A) | |
| (2,009,704,167) | (3,852,658,309) | (3,353,928,941) | (498,729,368) | (14.9) | (うち他会計負担金・補助金) | |
| 16,696,054,039 | 25,733,474,795 | 26,248,971,275 | 515,496,480 | 2.0 | 営 業 費 用 | 支 出 的 |
| 1,066,300,988 | 3,188,445,716 | 3,337,506,511 | 149,060,795 | 4.5 | 営 業 外 費 用 | |
| 108,625,016 | 529,094,359 | 150,560,297 | 378,534,062 | 251.4 | 特 別 損 失 | |
| 17,870,980,043 | 29,451,014,870 | 29,737,038,083 | 286,023,213 | 1.0 | 計 (B) | |
| 406,864,916 | 948,444,599 | 793,000,466 | 1,741,445,065 | 219.6 | 当 年 度 純 利 益 ・ 純 損 失 (C) = (A) - (B) | |
| 11,174,601,721 | 12,623,066,965 | 14,411,733,285 | 1,788,666,320 | 12.4 | 未 処 分 利 益 剰 余 金 ・ 未 処 理 欠 損 金 | |
| | 3,197,500,000 | 4,359,020,000 | 1,161,520,000 | 26.6 | 企 業 債 | 収 入 的 |
| | 0 | 237,500,000 | 237,500,000 | 皆 減 | 出 資 金 | |
| 2,160,000 | 560,888,722 | 674,525,039 | 113,636,317 | 16.8 | 国 道 補 助 金 | |
| 938,606,351 | 1,251,553,072 | 1,556,124,721 | 304,571,649 | 19.6 | 他 会 計 負 担 金 ・ 補 助 金 | |
| | 0 | 10,000,000 | 10,000,000 | 皆 減 | 寄 付 金 | |
| 3,150,000 | 3,283,875 | 1,670,025 | 1,613,850 | 96.6 | 固 定 資 産 売 却 代 金 | |
| 3,010,000 | 256,607,903 | 147,861,834 | 108,746,069 | 73.5 | 貸 付 返 還 金 | |
| | 45,807,862 | 49,545,432 | 3,737,570 | 7.5 | 受 益 者 負 担 金 | |
| | 0 | 43,374,277 | 43,374,277 | 皆 減 | 工 事 負 担 金 | |
| | 0 | 7,394,000 | 7,394,000 | 皆 減 | 工 事 補 償 金 | |
| 946,926,351 | 5,315,641,434 | 7,087,015,328 | 1,771,373,894 | 25.0 | 計 (D) | |
| 4,940,250 | 2,631,341,141 | 3,566,096,643 | 934,755,502 | 26.2 | 建 設 改 良 費 | 支 出 的 |
| 1,509,686,702 | 6,807,193,242 | 7,637,219,069 | 830,025,827 | 10.9 | 企 業 債 償 還 金 | |
| 50,100,000 | 87,804,000 | 139,024,000 | 51,220,000 | 36.8 | 貸 付 金 | |
| | 156,762,973 | 21,170,964 | 135,592,009 | 640.5 | 他 会 計 からの 長 期 借 入 金 償 還 金 | |
| 1,564,726,952 | 9,683,101,356 | 11,363,510,676 | 1,680,409,320 | 14.8 | 計 (E) | |
| 617,800,601 | 4,367,459,922 | 4,276,495,348 | 90,964,574 | 2.1 | 資 本 的 収 支 差 引 額 (F) = (D) - (E) | |
| 931,138,467 | 4,024,815,029 | 3,729,957,988 | 294,857,041 | 7.9 | 内 部 留 保 資 金 (G) | |
| | 181,000,000 | 67,000,000 | 114,000,000 | 170.1 | 固 定 負 債 (他 会 計 借 入 金) (H) | |
| 1,142,074,152 | 786,799,706 | 1,272,537,826 | 2,059,337,532 | 161.8 | 運 転 資 金 残 額 ・ 不 足 額 (C) + (F) + (G) + (H) | |
| 25,447,792,346 | 112,696,411,069 | 116,281,867,284 | 3,585,456,215 | 3.1 | 企 業 債 ・ 他 会 計 借 入 金 未 償 還 残 高 | |
| 2,948,310,518 | 5,104,211,381 | 5,145,246,026 | 41,034,645 | 0.8 | 一 般 会 計 繰 入 金 | |

余金（未処理欠損金）、内部留保資金、運転資金残額（不足額）は、消費税および地方消費税抜きの数値である。
を通じて企業内に留保された資金をいう。

5 審査の結果

各企業会計の決算書類および決算附属書類は、いずれも関係法令の規定に準拠して作成されており、表示された計数は、会計諸帳簿等と照合の結果、符合し、平成22年度の経営成績および年度末における財政状態を正確に表示しているものと認められた。

地方公営企業は、住民に身近な社会資本を整備して、必要なサービスを提供するという重要な役割を果たしているが、将来にわたりその本来の目的である公共の福祉を増進していくためには、その経営環境の変化に適切に対応しながら、これまでも増して、費用の削減や事業の効率化を推進し、中長期的な視点に立って、計画的に事業を行うことが求められている。

さらに、平成21年4月から、地方公共団体の財政の健全化に関する法律が全面施行されたことを踏まえ、当市の各企業においても、更なる経営の健全化を図るため、新たな経営計画や組織の抜本的な見直しなど、財政面の自立性の強化や事業の健全化を目指してきたところである。

具体的な取り組みとして、平成20年度に策定した「函館市病院事業改革プラン」および平成21年度に策定した「函館市交通事業経営計画（第2次）」に基づき、病院および交通事業においては、計画的に不良債務の解消に向け事業に取り組んでいるほか、水道、温泉、公共下水道事業においては、各事業の計画的・効率的な経営を推進するため、中長期的な経営計画の策定に向けた検討を行っている。

このような経営努力のもと、当年度の公営企業会計の単年度収支については、温泉事業では344,510千円の赤字を生じているものの、他の4事業においては黒字経営となっていることから、企業会計全体では948,444千円の黒字を生じ、さらに運転資金についても786,799千円のプラスとなるなど、一定の改善が図られたものと認められるところである。

しかしながら、公営企業全体では、当年度未処理欠損金として12,623,066千円を抱えており、依然として厳しい財務状況が続いていることから、未処理欠損金を生じている事業については、未収金の縮減や事務事業の見直しによる経費節減はもとより、さらなる経営の合理化等により財政基盤の強化を図り、その早期解消に努めることが急務となっている。

今後においても、各公営企業においては、財政面における自立性の強化や事業の健全化に向けた取り組みを不断に実行することが不可欠であることから、経営計画等に基づく事業を着実に進め、一層の効率的かつ効果的な事業経営に努められるよう要望するものである。

以下、各企業会計の決算に関し、事業の概要、予算の執行状況、経営成績および財政状態について審査した結果は、次のとおりである。

函館市水道事業会計

1 事業の概要

当年度の水道事業の業務状況は、次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | 対前年度比較 | |
|---------|----------------|------------|------------|---------|------|
| | 予 定 | 実 績 | 実 績 | 増 減 | 増減率 |
| 行政区域内人口 | 人 | 280,035 | 282,459 | △2,424 | △0.9 |
| 給水区域内人口 | 人 | 280,017 | 282,438 | △2,421 | △0.9 |
| 給水人口 | 人 | 279,549 | 281,946 | △2,397 | △0.9 |
| 普及率 | % | 99.8 | 99.8 | 0.0 | — |
| 給水戸数 | 戸 | 142,056 | 141,579 | 477 | 0.3 |
| 配水量 | m ³ | 34,456,000 | 34,262,218 | 922,407 | 2.7 |
| 有収水量 | m ³ | 31,317,382 | 31,081,271 | 236,111 | 0.8 |
| 有収率 | % | 89.0 | 90.7 | △1.7 | — |
| 配水管延長 | m | 1,231,509 | 1,226,901 | 4,608 | 0.4 |

当年度末における給水人口は279,549人となり、前年度に比べ2,397人（0.9%）減少し、普及率は前年度と同率の99.8%となっている。

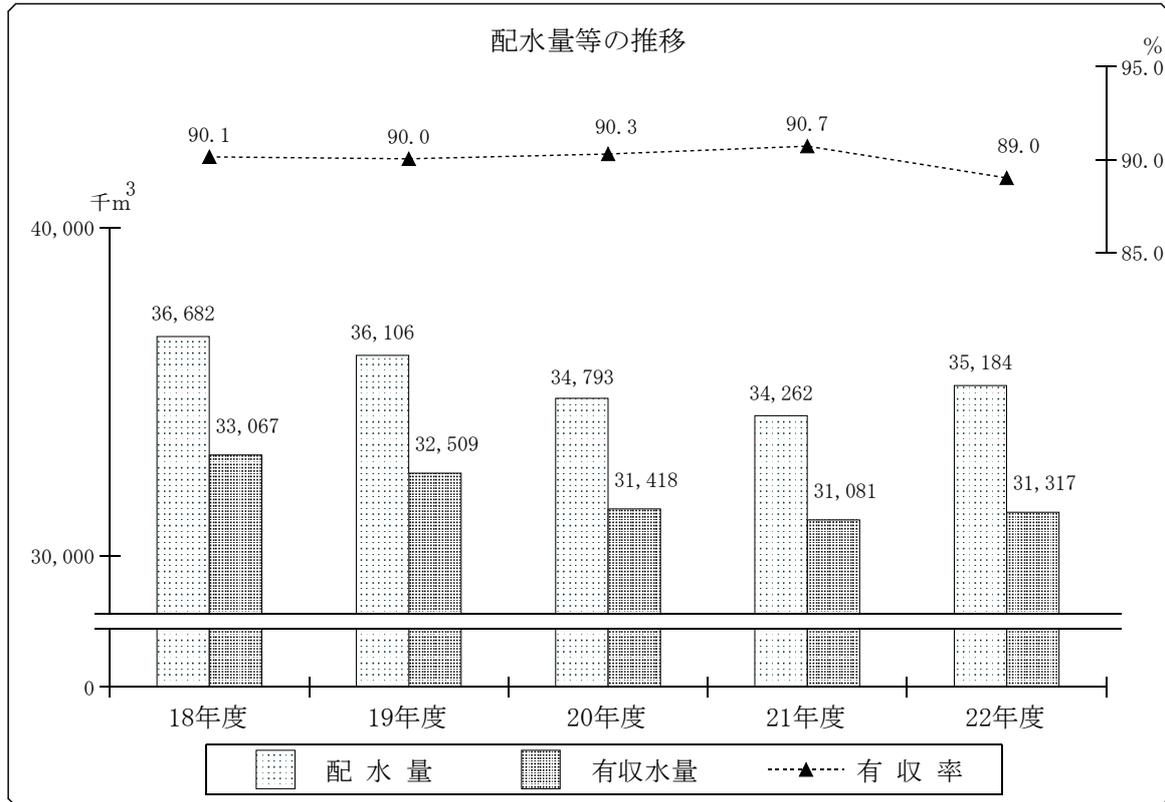
また、給水戸数は142,056戸となり、前年度に比べ477戸（0.3%）増加している。

配水量は、予定量を上回る34,456,000m³となり、前年度に比べ922,407m³（2.7%）増加している。

有収水量は31,317,382m³となり、前年度に比べ236,111m³（0.8%）増加したものの、有収率は89.0%となり、前年度に比べ1.7ポイント減少している。

また、当年度の建設改良事業の主なものは、次のとおりである。

| 内 容 | 予 定 | 実 績 |
|-----------------------|--------|----------|
| 原水及び浄水施設事業 赤川高区浄水場整備 | 1式 | 1式 |
| 配水管整備事業 配水管布設 | 6,009m | 6,509.1m |
| 簡易水道施設事業 日ノ浜浄水場ろ過設備整備 | 1式 | 1式 |



2 予算の執行状況

当年度の予算の執行状況は、次のとおりである。

(1) 収益的収入及び支出

収 入

| 科 目 | 予算現額 | 決算額 | 対予算増減額 | 対予算比率 |
|--------|---------------|---------------|------------|-------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 水道事業収益 | 4,676,513,000 | 4,683,021,159 | 6,508,159 | 100.1 |
| 営業収益 | 4,656,109,000 | 4,668,236,552 | 12,127,552 | 100.3 |
| 営業外収益 | 20,402,000 | 14,748,697 | △5,653,303 | 72.3 |
| 特別利益 | 2,000 | 35,910 | 33,910 | 激增 |

支 出

| 科 目 | 予算現額 | 決算額 | 不用額 | 対予算比率 |
|--------|---------------|---------------|-------------|-------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 水道事業費用 | 4,643,662,000 | 4,514,510,060 | 129,151,940 | 97.2 |
| 営業費用 | 4,030,514,000 | 3,905,444,788 | 125,069,212 | 96.9 |
| 営業外費用 | 572,760,834 | 572,760,834 | 0 | 100.0 |
| 特別損失 | 36,916,000 | 36,304,438 | 611,562 | 98.3 |
| 予備費 | 3,471,166 | — | 3,471,166 | — |

決算額について、予算現額と比較すると次のとおりである。

営業収益は12,127千円の増収となっているが、これは、他会計負担金7,639千円などの減があったものの、給水収益21,130千円の増があったためである。

営業外収益は5,653千円の減収となっているが、これは、雑収益4,163千円などの増があったものの、工事補償金11,087千円の減があったためである。

営業費用は125,069千円の不用額を生じているが、これは、原水費21,537千円、浄水費41,258千円、配水費27,654千円、業務費13,402千円の減などによるものである。

(2) 資本的収入及び支出

収 入

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 対 予 算 増 減 額 | 対 予 算 比 率 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 資 本 的 収 入 | 993,296,000 | 956,880,713 | △36,415,287 | 96.3 |
| 企 業 債 | 678,800,000 | 644,300,000 | △34,500,000 | 94.9 |
| 固定資産売却代金 | 1,000 | — | △1,000 | — |
| 国 庫 補 助 金 | 34,289,000 | 34,288,572 | △428 | 100.0 |
| 他 会 計 負 担 金 | 98,443,000 | 98,443,168 | 168 | 100.0 |
| 他 会 計 補 助 金 | 25,000,000 | 23,086,000 | △1,914,000 | 92.3 |
| 長期貸付金返還金 | 156,763,000 | 156,762,973 | △27 | 100.0 |

支 出

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 不 用 額 | 対 予 算 比 率 |
|-------------|---------------|---------------|------------|-----------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 資 本 的 支 出 | 2,191,957,000 | 2,155,353,369 | 36,603,631 | 98.3 |
| 建 設 改 良 費 | 912,578,000 | 875,974,717 | 36,603,283 | 96.0 |
| 企 業 債 償 還 金 | 1,279,379,000 | 1,279,378,652 | 348 | 100.0 |

収 支 差 引

| | |
|------------|-----------------|
| 資本的収支資金不足額 | 1,198,472,656 円 |
|------------|-----------------|

決算額について、予算現額と比較すると次のとおりである。

企業債は34,500千円の減収となっているが、これは、原水及び浄水施設事業費企業債14,100千円、配水施設事業費企業債20,000千円などの減によるものである。

他会計補助金は1,914千円の減収となっているが、これは、地域活性化交付金事業として実施した笹流貯水池構内整備事業費の減に伴うものである。

建設改良費は36,603千円の不用額を生じているが、これは、原水及び浄水施設事業費8,539千円、配水施設事業費26,933千円などの減によるものである。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額1,198,472千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額39,784千円、減債積立金1,295千円および過年度分損益勘定留保資金1,157,393千円で補てんしている。

3 経営成績

(1) 収益

収益について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項目 | 22年度 | | 21年度 | | 対前年度比較 | |
|---------|---------------|-------|---------------|-------|------------|-------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 営業収益 | 4,450,562,841 | 99.7 | 4,412,279,767 | 99.5 | 38,283,074 | 0.9 |
| 給水収益 | 4,281,520,746 | 95.9 | 4,239,342,582 | 95.6 | 42,178,164 | 1.0 |
| 他会計負担金 | 149,292,395 | 3.3 | 148,349,085 | 3.3 | 943,310 | 0.6 |
| その他営業収益 | 19,749,700 | 0.4 | 24,588,100 | 0.6 | △4,838,400 | △19.7 |
| 営業外収益 | 14,502,061 | 0.3 | 22,769,251 | 0.5 | △8,267,190 | △36.3 |
| 特別利益 | 35,438 | 0.0 | 27,842 | 0.0 | 7,596 | 27.3 |
| 総収益 | 4,465,100,340 | 100.0 | 4,435,076,860 | 100.0 | 30,023,480 | 0.7 |

営業収益は38,283千円の増収となっているが、これは、その他営業収益4,838千円の減があったものの、給水収益42,178千円などの増によるものである。

営業外収益は8,267千円の減収となっているが、これは、工事補償金1,052千円の増があったものの、受取利息及び配当金2,713千円、雑収益6,606千円の減があったためである。

総収益では30,023千円（0.7%）増加し4,465,100千円となった。

(2) 費用

費用について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項目 | 22年度 | | 21年度 | | 対前年度比較 | |
|-------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|-------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 営業費用 | 3,840,536,452 | 88.6 | 3,903,650,457 | 88.5 | △63,114,005 | △1.6 |
| 職員給与費 | 1,125,766,248 | 26.0 | 1,170,549,828 | 26.5 | △44,783,580 | △3.8 |
| 退職給与金 | 75,366,022 | 1.7 | 114,546,266 | 2.6 | △39,180,244 | △34.2 |
| 経費 | 1,298,166,262 | 29.9 | 1,297,958,074 | 29.4 | 208,188 | 0.0 |
| 減価償却費 | 1,327,193,265 | 30.6 | 1,306,185,907 | 29.6 | 21,007,358 | 1.6 |
| 資産減耗費 | 14,044,655 | 0.3 | 14,410,382 | 0.3 | △365,727 | △2.5 |
| 営業外費用 | 461,191,634 | 10.6 | 471,055,120 | 10.7 | △9,863,486 | △2.1 |
| 特別損失 | 34,645,756 | 0.8 | 34,478,183 | 0.8 | 167,573 | 0.5 |
| 総費用 | 4,336,373,842 | 100.0 | 4,409,183,760 | 100.0 | △72,809,918 | △1.7 |

営業費用は63,114千円の減少となっているが、これは、減価償却費21,007千円などの増があったものの、職員給与費44,783千円、退職給与金39,180千円などの減があったためである。

営業外費用は9,863千円の減少となっているが、これは、支払利息及び企業債取扱諸費の減によるものである。

総費用では72,809千円（1.7%）減少し4,336,373千円となった。

(3) 損益の状況

損益の状況について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | 2 1 年 度 | 対前年度比較 | |
|---------------|---------------|---------------|-------------|-------|
| | | | 増 減 額 | 増減率 |
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 営 業 収 益 A | 4,450,562,841 | 4,412,279,767 | 38,283,074 | 0.9 |
| 営 業 費 用 B | 3,840,536,452 | 3,903,650,457 | △63,114,005 | △1.6 |
| 営 業 損 益 A-B | 610,026,389 | 508,629,310 | 101,397,079 | 19.9 |
| 営 業 外 収 益 C | 14,502,061 | 22,769,251 | △8,267,190 | △36.3 |
| 営 業 外 費 用 D | 461,191,634 | 471,055,120 | △9,863,486 | △2.1 |
| 営 業 外 損 益 C-D | △446,689,573 | △448,285,869 | 1,596,296 | △0.4 |
| 経 常 収 益 E=A+C | 4,465,064,902 | 4,435,049,018 | 30,015,884 | 0.7 |
| 経 常 費 用 F=B+D | 4,301,728,086 | 4,374,705,577 | △72,977,491 | △1.7 |
| 経 常 損 益 E-F | 163,336,816 | 60,343,441 | 102,993,375 | 170.7 |
| 特 別 利 益 G | 35,438 | 27,842 | 7,596 | 27.3 |
| 特 別 損 失 H | 34,645,756 | 34,478,183 | 167,573 | 0.5 |
| 特 別 損 益 G-H | △34,610,318 | △34,450,341 | △159,977 | 0.5 |
| 総 収 益 I=A+C+G | 4,465,100,340 | 4,435,076,860 | 30,023,480 | 0.7 |
| 総 費 用 J=B+D+H | 4,336,373,842 | 4,409,183,760 | △72,809,918 | △1.7 |
| 純 損 益 I-J | 128,726,498 | 25,893,100 | 102,833,398 | 397.1 |
| 当年度未処分利益剰余金 | 198,200,223 | 69,473,725 | 128,726,498 | 185.3 |

(注) 当年度未処分利益剰余金の21年度の額は、翌年度繰越利益剰余金である。

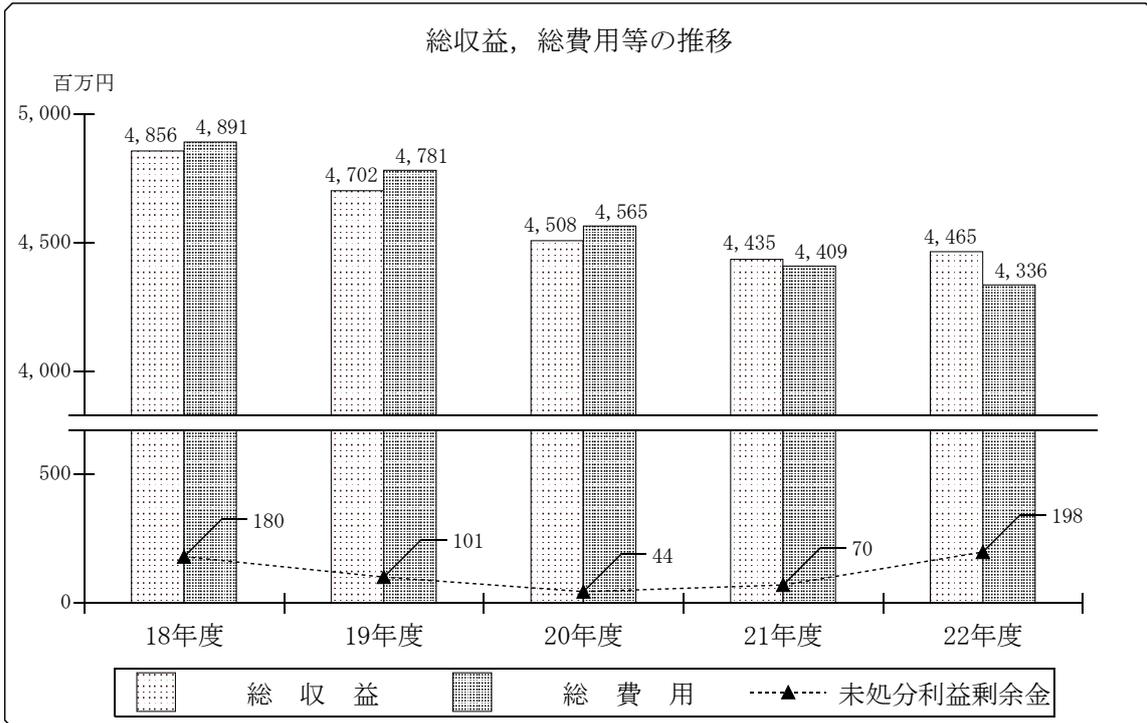
営業損益は610,026千円の利益となっており、利益が101,397千円（19.9%）増加しているが、これは、営業収益における給水収益の増に加え、営業費用における職員給与費の減などによるものである。

営業外損益は446,689千円の損失となっており、損失が1,596千円（0.4%）減少しているが、これは、営業外費用における支払利息及び企業債取扱諸費の減などによるものである。

このため、経常損益は、利益が102,993千円（170.7%）増加し163,336千円となっている。

特別損益は34,610千円の損失となっており、損失が159千円（0.5%）増加しているが、これは、過年度損益修正損の増などによるものである。

この結果、利益が102,833千円（397.1%）増加し、純損益は128,726千円の利益となったことから、当年度未処分利益剰余金は198,200千円となっている。



これら損益の状況を収支比率等の推移で見ると、次のとおりである。

| 項目 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 備考 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| 営業収支比率 | 112.1 | 112.5 | 111.4 | 113.0 | 115.9 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$ |
| 経常収支比率 | 98.2 | 99.0 | 99.5 | 101.4 | 103.8 | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ |
| 総収支比率 | 99.3 | 98.3 | 98.8 | 100.6 | 103.0 | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ |
| 総資本利益率 | △0.1 | △0.2 | △0.2 | 0.1 | 0.4 | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ |

営業収支比率は、利益が発生していることから100%以上で推移している。

経常収支比率および総収支比率は、平成21年度以降利益が発生していることから100%以上で推移している。

総資本利益率は、平成21年度以降プラスとなっている。

(4) 単位当たり経常収支

当事業における有収水量 1 m³当たり経常収支の推移は、次のとおりである。

(単位：円)

| 項 目 | | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|--------------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常 収 益 | 給 水 収 益 | 135.89 | 136.05 | 136.77 | 136.40 | 136.71 |
| | 負 担 金 | 2.30 | 2.08 | 1.83 | 1.71 | 1.92 |
| | そ の 他 | 6.19 | 6.51 | 4.91 | 4.59 | 3.94 |
| | 計 | 144.39 | 144.63 | 143.51 | 142.69 | 142.57 |
| 経常 費 用 | 人 件 費 | 46.33 | 43.54 | 44.07 | 41.35 | 38.35 |
| | 経 費 | 42.43 | 44.40 | 43.94 | 41.76 | 41.45 |
| | 減 価 償 却 費 | 38.12 | 38.39 | 39.87 | 42.49 | 42.83 |
| | 支 払 利 息 | 20.22 | 19.71 | 16.32 | 15.16 | 14.73 |
| | そ の 他 | — | — | 0.00 | — | 0.00 |
| 計 | 147.10 | 146.04 | 144.19 | 140.75 | 137.36 | |
| 経 常 損 益 | | △2.71 | △1.40 | △0.69 | 1.94 | 5.22 |

- (注) 1 負担金＝一般会計繰入分
2 人件費＝職員給与費＋退職給与金
3 減価償却費＝減価償却費＋資産減耗費

有収水量 1 m³当たりの経常損益は、平成 21 年度以降黒字で推移している。

4 財 政 状 態

(1) 資産、負債および資本

資産、負債および資本について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | 対前年度比較 | |
|-----------|----------------|-------|----------------|-------|--------------|-------|
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | 増 減 額 | 増減率 |
| 資 産 | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 資 産 | 32,534,730,973 | 100.0 | 32,901,567,858 | 100.0 | △366,836,885 | △1.1 |
| 固定資産 | 30,376,631,951 | 93.4 | 30,998,491,749 | 94.2 | △621,859,798 | △2.0 |
| 流動資産 | 2,158,099,022 | 6.6 | 1,903,076,109 | 5.8 | 255,022,913 | 13.4 |
| 負 債 ・ 資 本 | 32,534,730,973 | 100.0 | 32,901,567,858 | 100.0 | △366,836,885 | △1.1 |
| 流動負債 | 275,644,508 | 0.8 | 331,897,958 | 1.0 | △56,253,450 | △16.9 |
| 資本金 | 26,150,966,571 | 80.4 | 26,784,750,223 | 81.4 | △633,783,652 | △2.4 |
| 自己資本金 | 6,626,558,226 | 20.4 | 6,625,263,226 | 20.1 | 1,295,000 | 0.0 |
| 借入資本金 | 19,524,408,345 | 60.0 | 20,159,486,997 | 61.3 | △635,078,652 | △3.2 |
| 剰余金 | 6,108,119,894 | 18.8 | 5,784,919,677 | 17.6 | 323,200,217 | 5.6 |

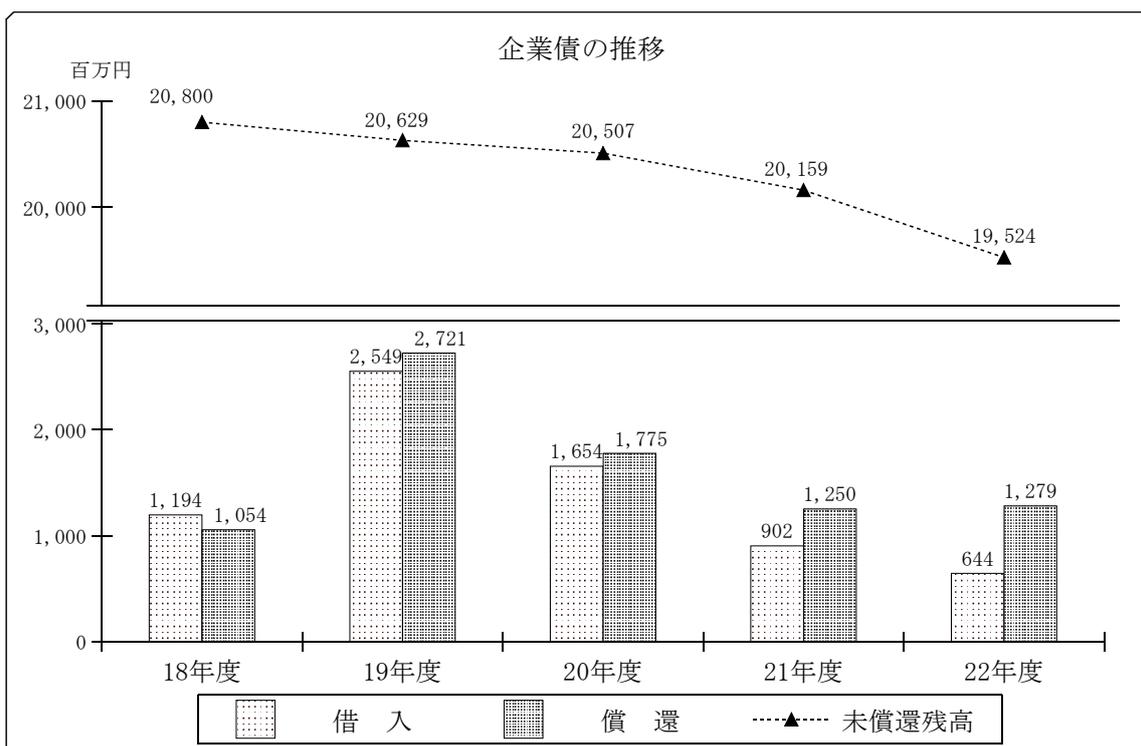
固定資産は621,859千円の減少となっているが、これは、建設改良費836,190千円、受贈財産評価額39,950千円の増があったものの、減価償却および除却による1,341,238千円、長期貸付金156,762千円の減があったためである。

流動資産は255,022千円の増加となっているが、これは、未収金92,619千円の減があったものの、現金預金347,115千円などの増があったためである。

流動負債は56,253千円の減少となっているが、これは、未払金44,476千円などの減によるものである。

資本金は633,783千円の減少となっているが、これは、自己資本金において、減債積立金1,295千円の組み入れによる増があったものの、借入資本金において、新たに企業債644,300千円を借り入れ1,279,378千円を償還したため635,078千円の減となったためである。

剰余金は323,200千円の増加となっているが、これは、資本剰余金195,768千円、利益剰余金127,431千円の増によるものである。



(注) 企業債は、固定負債と借入資本金である。

また、財政状態に関する主な財務比率の推移は、次のとおりである。

| 項 目 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 備 考 |
|----------|-------|---------|-------|-------|-------|--|
| 流 動 比 率 | 404.8 | 1,230.0 | 849.2 | 573.4 | 782.9 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ |
| 固定長期適合率 | 96.2 | 94.8 | 95.1 | 95.2 | 94.2 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{固定負債}} \times 100$ |
| 自己資本構成比率 | 35.6 | 36.3 | 36.7 | 37.7 | 39.1 | $\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$ |
| 固定負債構成比率 | 63.2 | 63.2 | 62.6 | 61.3 | 60.0 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$ |

(注) 1 自己資本＝自己資本金＋剰余金
2 固定負債＝固定負債＋借入資本金

流動比率は100%を大きく上回っており、引き続き短期の支払能力が安定していることを示している。

固定長期適合率は90%台で推移している。

自己資本構成比率は30%台で推移し上昇傾向を示している。

固定負債構成比率は60%台で推移し下降傾向を示している。

(2) 資金運用および運転資金

資金運用および運転資金の状況は、次のとおりである。

資金運用表

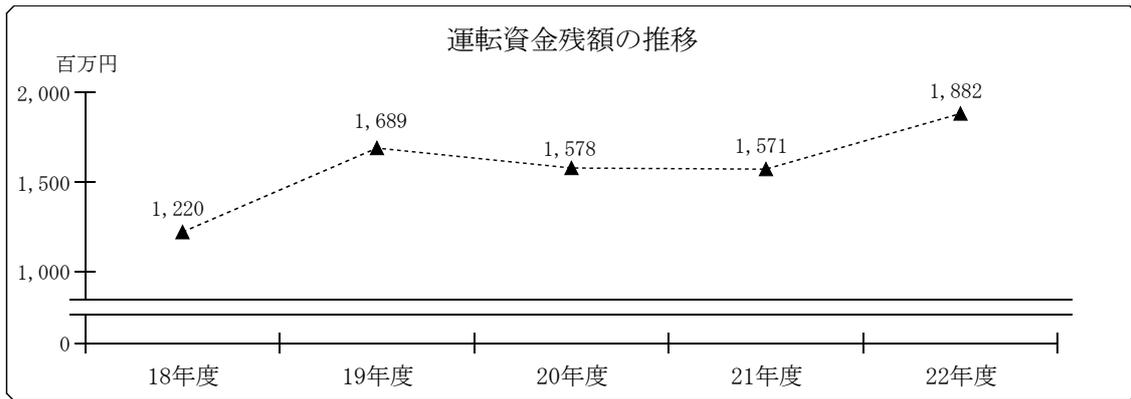
| 資 金 の 運 用 | | 資 金 の 源 泉 | |
|----------------------------|---------------|----------------------------|---------------|
| 円 | | 円 | |
| | | 当年度純利益 | 128,726,498 |
| | | 減価償却費 | 1,327,193,265 |
| | | 固定資産除却費 | 14,044,655 |
| | | 消費税及び地方消費税 | 39,784,601 |
| | | 資本的収支調整額 | |
| | | 小 計 | 1,509,749,019 |
| ----- | | ----- | |
| (収益的収支の資金剰余 1,509,749,019) | | | |
| 建設改良費 | 875,974,717 | 企業債 | 644,300,000 |
| 企業債償還金 | 1,279,378,652 | 国庫補助金 | 34,288,572 |
| | | 他会計負担金 | 98,443,168 |
| | | 他会計補助金 | 23,086,000 |
| | | 長期貸付金返還金 | 156,762,973 |
| 小 計 | 2,155,353,369 | 小 計 | 956,880,713 |
| | | (資本的収支の資金不足 1,198,472,656) | |
| 運転資金の増加 | 311,276,363 | | |
| 計 | 2,466,629,732 | 計 | 2,466,629,732 |

運転資金明細表

| 科 目 | 2 2 年度 | 2 1 年度 | 運 転 資 金 | |
|-----------|---------------|---------------|-------------|------------|
| | | | 増 | 減 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 流 動 資 産 | 2,158,099,022 | 1,903,076,109 | 255,022,913 | |
| 現 金 預 金 | 1,502,474,964 | 1,155,359,338 | 347,115,626 | |
| 未 収 金 | 654,997,458 | 747,616,771 | | 92,619,313 |
| 前 払 金 | 526,600 | — | 526,600 | |
| その他流動資産 | 100,000 | 100,000 | | |
| 流 動 負 債 | 275,644,508 | 331,897,958 | 56,253,450 | |
| 未 払 金 | 254,993,955 | 299,470,518 | 44,476,563 | |
| 下水道使用料預り金 | 11,471,429 | 21,326,265 | 9,854,836 | |
| その他流動負債 | 9,179,124 | 11,101,175 | 1,922,051 | |
| 運 転 資 金 | 1,882,454,514 | 1,571,178,151 | 311,276,363 | |

当年度の資金運用の状況は、収益的収支で1,509,749千円の資金剰余、資本的収支で1,198,472千円の資金不足となっている。

この結果、当年度の運転資金は311,276千円増加し、当年度末における運転資金残額は1,882,454千円となっている。



5 審査意見

これまで、水道事業会計決算の概要について述べてきたが、当年度の純損益は128,726千円の黒字を生じ、前年度繰越利益剰余金69,473千円があることから、当年度未処分利益剰余金は198,200千円となった。

当年度の純損益を前年度と比較すると、前年度の純損益は25,893千円の黒字であったので、さらに102,833千円増益となっている。

これは、営業収益における給水収益の増に加え、営業費用における職員給与費の減などによるものである。

建設改良事業については、原水及び浄水施設事業では赤川高区浄水場薬品沈でん池機械設備整備等を実施したほか、配水管整備事業では配水管布設事業等を、簡易水道施設事業では日ノ浜浄水場ろ過設備整備等を実施した。

水道事業は、市民生活や都市の諸活動を支える重要な社会基盤施設であるとともに、災害時においても、市民の生命に関わる重要な都市機能であることから、安全で良質な水を安定的に供給することが求められている。

本市水道事業においては、函館水道ビジョン（平成20年3月策定）に定めた基本構想、基本計画に基づき、上水道の基幹施設や簡易水道施設の改良・更新を推進しており、当年度においては、夏の猛暑の影響による給水需要の伸びにより、水道料金収入が昨年に比べ増加し経営状況は良好となっている。

しかしながら、今後は人口の減少等により安定した収入の確保が難しくなるなど、厳しい経営状況になることが予測される。

これらを踏まえ、今後の事業経営にあたっては、早期に経営計画を策定し、有収率の向上に努めるほか、水道料金の収納率向上など、効率的な事務事業の執行により、安定的な経営に努められたい。

また、安全・安心な水の安定供給に向けて、引き続き災害や事故に強いライフラインの確立と危機管理体制の強化などに努められるよう要望するものである。

函館市温泉事業会計

1 事業の概要

当年度の温泉事業の業務状況は、次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | 対前年度比較 | |
|-----------------------|---------|---------|---------|---------|----------|
| | 予 定 | 実 績 | 実 績 | 増 減 | 増減率 % |
| 温泉供給事業 | | | | | |
| 温泉供給量 (年度末現在1日当たり) | | 4,369 | 4,392 | △23 | △0.5 |
| 温泉供給量 (年間1日平均) | 4,115 | 4,341 | 4,431 | △90 | △2.0 |
| 供給管延長 | | 6,946 | 6,946 | 0 | 0.0 |
| 公衆浴場事業 | | | | | |
| 公衆浴場入浴人員 | 370,600 | 375,386 | 399,426 | △24,040 | △6.0 |

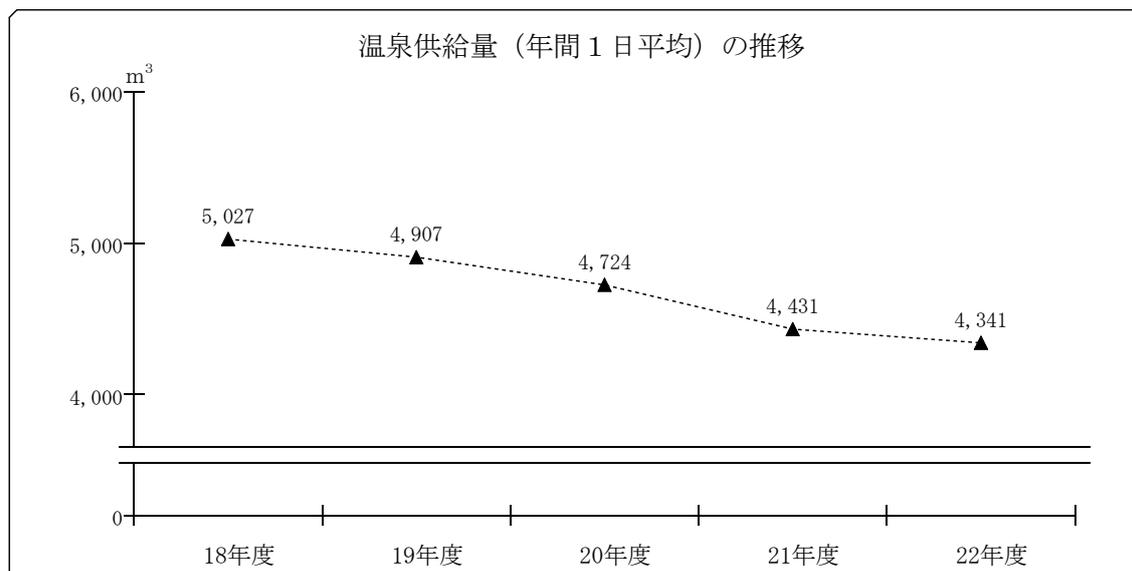
当年度における温泉供給量（年間1日平均）は、予定量を上回る4,341^m³となっているが、前年度に比べ90^m³（2.0%）減少している。

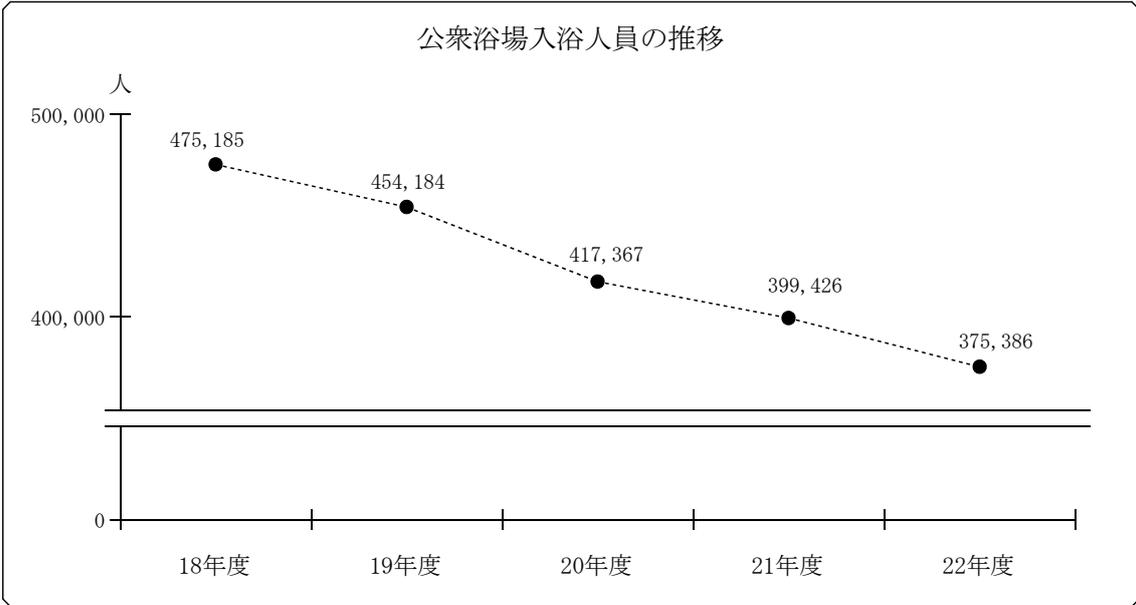
公衆浴場入浴人員は、予定人員を上回る375,386人となったものの、前年度に比べ24,040人（6.0%）減少している。

なお、平成22年4月1日において市営熱帯植物園を一般会計へ移管している。

また、当年度の建設改良事業の主なものは、次のとおりである。

| 内 容 | 予 定 | 実 績 |
|-----------|------|------|
| 温泉供給事業 | | |
| ポンプ揚湯設備整備 | 1式 | 1式 |
| 温泉井整備 | 3井 | 3井 |
| 供給管布設替 | 168m | 168m |





2 予算の執行状況

当年度の予算の執行状況は、次のとおりである。

(1) 収益的収入及び支出

収 入

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 対予算増減額 | 対予算比率 |
|--------|-------------|-------------|-----------|-------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 温泉事業収益 | 258,971,000 | 264,675,561 | 5,704,561 | 102.2 |
| 営業収益 | 253,312,000 | 258,896,294 | 5,584,294 | 102.2 |
| 営業外収益 | 5,659,000 | 5,779,267 | 120,267 | 102.1 |

支 出

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 不 用 額 | 対予算比率 |
|--------|-------------|-------------|------------|-------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 温泉事業費用 | 618,124,000 | 605,989,931 | 12,134,069 | 98.0 |
| 営業費用 | 265,196,000 | 261,327,284 | 3,868,716 | 98.5 |
| 営業外費用 | 17,872,000 | 13,769,973 | 4,102,027 | 77.0 |
| 特別損失 | 331,056,000 | 330,892,674 | 163,326 | 100.0 |
| 予備費 | 4,000,000 | — | 4,000,000 | — |

決算額について、予算現額と比較すると次のとおりである。

営業収益は5,584千円の増収となっているが、これは、温泉供給収益3,884千円、公衆浴場収益1,686千円の増などがあったためである。

営業外収益は120千円の増収となっているが、これは、雑収益の増などによるものである。

営業費用は3,868千円の不用額を生じているが、これは、温泉供給費5,791千円の減などによるものである。

営業外費用は4,102千円の不用額を生じているが、これは、支払利息及び企業債取扱諸費によるものである。

(2) 資本的収入及び支出

収 入

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 対 予 算 増 減 額 | 対 予 算 比 率 |
|-----------|------------|------------|-------------|-----------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 資 本 的 収 入 | 58,900,000 | 58,900,000 | 0 | 100.0 |
| 企 業 債 | 58,900,000 | 58,900,000 | 0 | 100.0 |

支 出

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 不 用 額 | 対 予 算 比 率 |
|-----------------------------|-------------|-------------|--------|-----------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 資 本 的 支 出 | 285,882,000 | 285,815,313 | 66,687 | 100.0 |
| 建 設 改 良 費 | 67,930,000 | 67,864,267 | 65,733 | 99.9 |
| 企 業 債 償 還 金 | 61,189,000 | 61,188,073 | 927 | 100.0 |
| 他 会 計 か ら の 長 期 借 入 金 償 還 金 | 156,763,000 | 156,762,973 | 27 | 100.0 |

収 支 差 引

| | |
|------------|---------------|
| 資本的収支資金不足額 | 226,915,313 円 |
|------------|---------------|

決算額について、予算現額と比較したところ、収入においては同額となっているほか、支出においては概ね同額となっている。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額226,915千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額3,195千円で補てんし、一時借入金等223,719千円で措置している。

3 経営成績

(1) 収益

収益について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項目 | 22年度 | | 21年度 | | 対前年度比較 | |
|---------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|-------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 営業収益 | 246,598,023 | 97.7 | 273,987,560 | 97.8 | △27,389,537 | △10.0 |
| 温泉供給収益 | 103,587,161 | 41.1 | 105,716,000 | 37.7 | △2,128,839 | △2.0 |
| 公衆浴場収益 | 142,378,262 | 56.4 | 151,431,248 | 54.0 | △9,052,986 | △6.0 |
| 熱帯植物園収益 | — | — | 15,175,276 | 5.4 | △15,175,276 | 皆減 |
| 他会計負担金 | 560,000 | 0.2 | 810,255 | 0.3 | △250,255 | △30.9 |
| その他営業収益 | 72,600 | 0.0 | 854,781 | 0.3 | △782,181 | △91.5 |
| 営業外収益 | 5,717,527 | 2.3 | 6,285,000 | 2.2 | △567,473 | △9.0 |
| 総収益 | 252,315,550 | 100.0 | 280,272,560 | 100.0 | △27,957,010 | △10.0 |

営業収益は27,389千円の減収となっているが、これは、温泉供給収益2,128千円、公衆浴場収益9,052千円などの減、および熱帯植物園収益15,175千円の皆減によるものである。

総収益では27,957千円（10.0%）減少し252,315千円となった。

(2) 費用

費用について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項目 | 22年度 | | 21年度 | | 対前年度比較 | |
|-------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|-------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 営業費用 | 254,353,367 | 42.6 | 323,655,415 | 95.5 | △69,302,048 | △21.4 |
| 職員給与費 | 47,873,542 | 8.0 | 56,402,559 | 16.6 | △8,529,017 | △15.1 |
| 経費 | 140,046,362 | 23.5 | 182,530,788 | 53.8 | △42,484,426 | △23.3 |
| 減価償却費 | 58,492,870 | 9.8 | 82,424,764 | 24.3 | △23,931,894 | △29.0 |
| 資産減耗費 | 7,940,593 | 1.3 | 2,297,304 | 0.7 | 5,643,289 | 245.6 |
| 営業外費用 | 11,800,673 | 2.0 | 15,321,765 | 4.5 | △3,521,092 | △23.0 |
| 特別損失 | 330,671,664 | 55.4 | — | — | 330,671,664 | 皆増 |
| 総費用 | 596,825,704 | 100.0 | 338,977,180 | 100.0 | 257,848,524 | 76.1 |

営業費用は69,302千円の減少となっているが、これは、職員給与費8,529千円、経費42,484千円、減価償却費23,931千円の減などによるものである。

営業外費用は3,521千円の減少となっているが、これは、支払利息及び企業債取扱諸費の減によるものである。

特別損失は330,671千円の皆増となっているが、これは、市営熱帯植物園を一般会計へ移管したことに伴うその他特別損失などの増によるものである。

総費用では257,848千円（76.1%）増加し596,825千円となった。

(3) 損益の状況

損益の状況について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | 2 1 年 度 | 対前年度比較 | |
|-------------|--------------|-------------|--------------|-------|
| | | | 増 減 額 | 増減率 |
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 営業収益 A | 246,598,023 | 273,987,560 | △27,389,537 | △10.0 |
| 営業費用 B | 254,353,367 | 323,655,415 | △69,302,048 | △21.4 |
| 営業損益 A-B | △7,755,344 | △49,667,855 | 41,912,511 | △84.4 |
| 営業外収益 C | 5,717,527 | 6,285,000 | △567,473 | △9.0 |
| 営業外費用 D | 11,800,673 | 15,321,765 | △3,521,092 | △23.0 |
| 営業外損益 C-D | △6,083,146 | △9,036,765 | 2,953,619 | △32.7 |
| 経常収益 E=A+C | 252,315,550 | 280,272,560 | △27,957,010 | △10.0 |
| 経常費用 F=B+D | 266,154,040 | 338,977,180 | △72,823,140 | △21.5 |
| 経常損益 E-F | △13,838,490 | △58,704,620 | 44,866,130 | △76.4 |
| 特別利益 G | — | — | — | — |
| 特別損失 H | 330,671,664 | — | 330,671,664 | 皆増 |
| 特別損益 G-H | △330,671,664 | — | △330,671,664 | 皆増 |
| 総収益 I=A+C+G | 252,315,550 | 280,272,560 | △27,957,010 | △10.0 |
| 総費用 J=B+D+H | 596,825,704 | 338,977,180 | 257,848,524 | 76.1 |
| 純損益 I-J | △344,510,154 | △58,704,620 | △285,805,534 | 486.9 |
| 当年度未処理欠損金 | 872,354,513 | 527,844,359 | 344,510,154 | 65.3 |

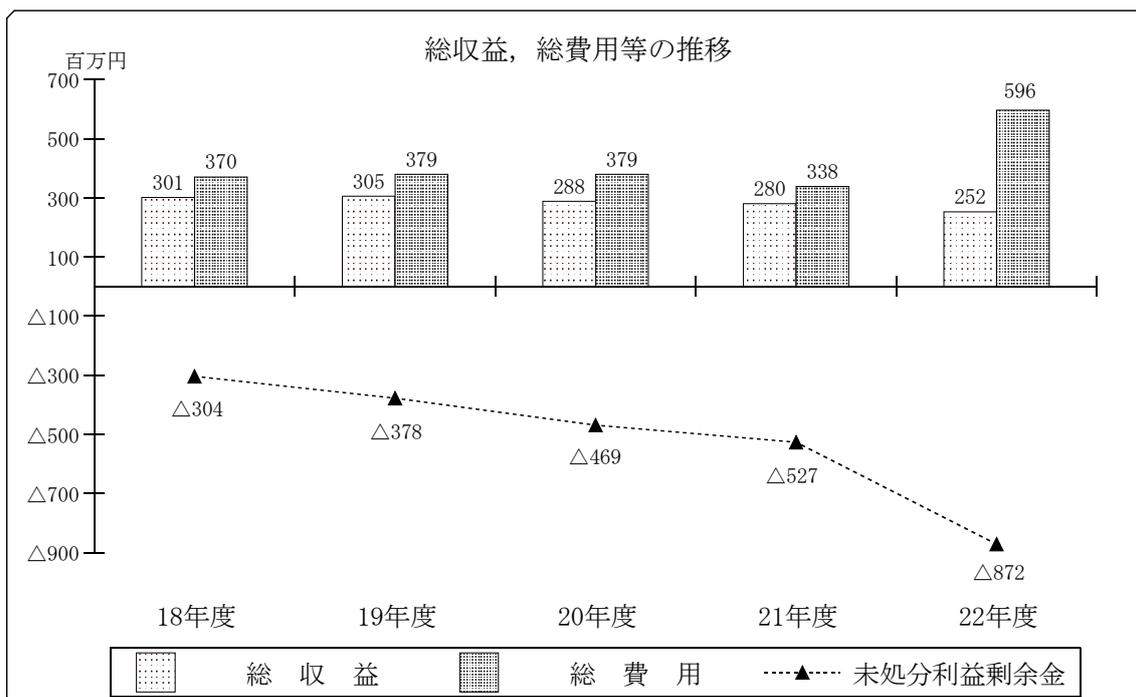
営業損益は7,755千円の損失となっており、損失が41,912千円（84.4%）減少しているが、これは、営業収益における公衆浴場収益などの減および熱帯植物園収益の皆減があったものの、営業費用における熱帯植物園費の皆減があったことなどによるものである。

営業外損益は6,083千円の損失となっており、損失が2,953千円（32.7%）減少しているが、これは、営業外費用における支払利息及び企業債取扱諸費の減などによるものである。

このため、経常損益は、損失が44,866千円（76.4%）減少し13,838千円となっている。

特別損益は330,671千円の損失となっており、これは、市営熱帯植物園を一般会計へ移管したことに伴うその他特別損失の皆増などがあったためである。

この結果、損失が285,805千円（486.9%）増加し、純損益は344,510千円の損失となったことから、当年度未処理欠損金は872,354千円となっている。



なお、当年度の事業別収支の状況は次のとおりである。

| 区 分 | 温泉供給事業 | 公衆浴場事業 | 熱帯植物園事業 | 合 計 |
|------------------|-------------|-------------|--------------|--------------|
| | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 営業収益 A | 104,163,761 | 142,434,262 | — | 246,598,023 |
| 事業収益 | 103,587,161 | 142,378,262 | — | 245,965,423 |
| 他会計負担金 | 504,000 | 56,000 | — | 560,000 |
| その他営業収益 | 72,600 | — | — | 72,600 |
| 営業外収益 B | 2,263,710 | 3,453,817 | — | 5,717,527 |
| 総 収 益 C=A+B | 106,427,471 | 145,888,079 | 0 | 252,315,550 |
| 営業費用 D | 86,048,687 | 161,986,164 | 6,318,516 | 254,353,367 |
| 職員給与費 | 38,503,100 | 9,370,442 | — | 47,873,542 |
| 経 費 | 28,987,001 | 111,059,361 | — | 140,046,362 |
| 減価償却費 | 17,233,834 | 41,259,036 | — | 58,492,870 |
| 資産減耗費 | 1,324,752 | 297,325 | 6,318,516 | 7,940,593 |
| 営業外費用 E | 2,532,960 | 9,255,688 | 12,025 | 11,800,673 |
| 特別損失 F | 4,420,207 | — | 326,251,457 | 330,671,664 |
| 総 費 用 G=D+E+F | 93,001,854 | 171,241,852 | 332,581,998 | 596,825,704 |
| 経常損益 (A+B)-(D+E) | 17,845,824 | △25,353,773 | △6,330,541 | △13,838,490 |
| 純 損 益 C-G | 13,425,617 | △25,353,773 | △332,581,998 | △344,510,154 |

温泉供給事業は13,425千円の黒字となっているものの、公衆浴場事業は25,353千円の赤字となっている。

また、熱帯植物園事業は332,581千円の赤字となっているが、これは、市営熱帯植物園を一般会計に移管したことに伴うその他特別損失などがあったためである。

これら損益の状況を収支比率等の推移でみると、次のとおりである。

| 項 目 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 備 考 |
|--------|------|------|------|------|-------|---|
| 営業収支比率 | 82.3 | 82.3 | 77.3 | 84.7 | 97.0 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$ |
| 経常収支比率 | 81.3 | 80.5 | 76.1 | 82.7 | 94.8 | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ |
| 総収支比率 | 81.3 | 80.4 | 76.1 | 82.7 | 42.3 | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ |
| 総資本利益率 | △5.2 | △5.5 | △7.0 | △4.8 | △33.2 | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ |

営業収支比率、経常収支比率および総収支比率は、損失が発生していることから、いずれも100%以下で推移している。

総資本利益率は純損失が発生していることからマイナスで推移している。

(4) 単位当たり経常収支

温泉供給事業における温泉供給1 m³当たり経常収支の推移は、次のとおりである。

(単位：円)

| 項 目 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | |
|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 経常収益 | 温泉供給収益 | 65.37 | 65.36 | 65.39 | 65.37 | 65.37 |
| | その他 | 2.12 | 1.33 | 1.46 | 1.55 | 1.79 |
| | 計 | 67.48 | 66.69 | 66.84 | 66.92 | 67.16 |
| 経常費用 | 人件費 | 39.97 | 40.93 | 41.46 | 28.58 | 24.30 |
| | 経費 | 14.96 | 13.22 | 14.86 | 13.09 | 18.29 |
| | 減価償却費 | 8.30 | 8.60 | 9.76 | 11.26 | 11.71 |
| | 支払利息 | 0.08 | 0.17 | 0.46 | 0.11 | 1.60 |
| | 計 | 63.31 | 62.92 | 66.53 | 53.04 | 55.90 |
| 経常損益 | 4.17 | 3.77 | 0.31 | 13.88 | 11.26 | |

- (注) 1 受託工事収益、受託工事費を除く。
 2 人件費＝職員給与費＋退職給与金
 3 減価償却費＝減価償却費＋資産減耗費

温泉供給1 m³当たりの経常損益は、黒字で推移している。

公衆浴場事業における入浴人員 1 人当たり経常収支の推移は、次のとおりである。

(単位：円)

| 項 目 | | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | 公衆浴場収益 | 347.87 | 351.29 | 364.45 | 379.12 | 379.28 |
| | その他の | 7.21 | 7.64 | 8.42 | 8.58 | 9.35 |
| | 計 | 355.08 | 358.93 | 372.86 | 387.70 | 388.63 |
| 経常費用 | 人件費 | 24.13 | 24.82 | 27.61 | 22.37 | 24.96 |
| | 経費 | 236.13 | 255.43 | 290.99 | 270.26 | 295.85 |
| | 減価償却費 | 110.89 | 114.34 | 122.02 | 120.40 | 110.70 |
| | 支払利息 | 28.57 | 26.51 | 25.14 | 27.67 | 24.66 |
| | 計 | 399.72 | 421.09 | 465.76 | 440.70 | 456.18 |
| 経常損益 | | △44.63 | △62.16 | △92.89 | △53.00 | △67.54 |

- (注) 1 人件費＝職員給与費＋退職給与金
 2 減価償却費＝減価償却費＋資産減耗費

入浴人員 1 人当たりの経常損益は、赤字で推移している。

4 財政状態

(1) 資産、負債および資本

資産、負債および資本について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | 対前年度比較 | |
|-----------|---------------|-------|---------------|-------|--------------|-------|
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | 増 減 額 | 増減率 |
| 資 産 | 870,634,065 | 100.0 | 1,201,859,165 | 100.0 | △331,225,100 | △27.6 |
| 固 定 資 産 | 844,072,858 | 96.9 | 1,172,089,295 | 97.5 | △328,016,437 | △28.0 |
| 流 動 資 産 | 26,561,207 | 3.1 | 29,769,870 | 2.5 | △3,208,663 | △10.8 |
| 負 債 ・ 資 本 | 870,634,065 | 100.0 | 1,201,859,165 | 100.0 | △331,225,100 | △27.6 |
| 固 定 負 債 | 458,000,000 | 52.6 | 277,000,000 | 23.0 | 181,000,000 | 65.3 |
| 流 動 負 債 | 72,025,274 | 8.3 | 80,689,174 | 6.7 | △8,663,900 | △10.7 |
| 資 本 金 | 1,104,876,541 | 126.9 | 1,263,927,587 | 105.2 | △159,051,046 | △12.6 |
| 自 己 資 本 金 | 700,708,110 | 80.5 | 700,708,110 | 58.3 | 0 | 0.0 |
| 借 入 資 本 金 | 404,168,431 | 46.4 | 563,219,477 | 46.9 | △159,051,046 | △28.2 |
| 剰 余 金 | △764,267,750 | △87.8 | △419,757,596 | △34.9 | △344,510,154 | 82.1 |

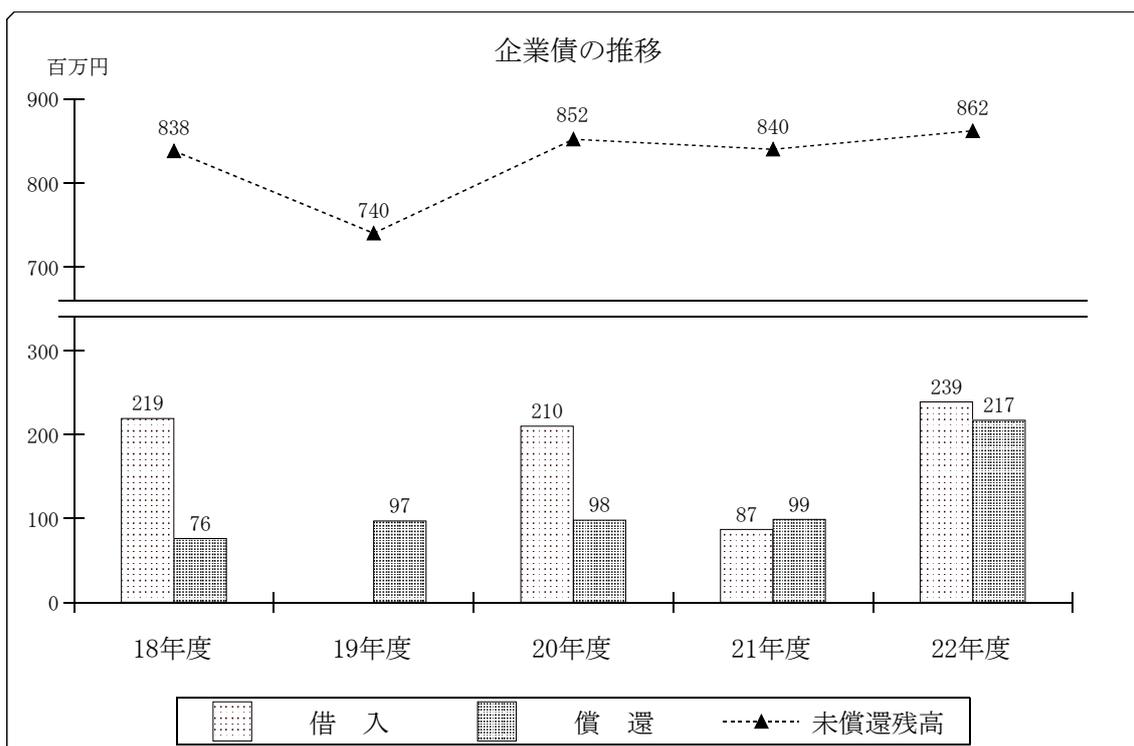
固定資産は328,016千円の減少となっているが、これは、建設改良費64,668千円の増があったものの、市営熱帯植物園を一般会計へ移管したことに伴うその他特別損失による326,251千円、減価償却および除却による66,433千円の減があったためである。

固定負債は181,000千円の増加となっているが、これは他会計借入金の増によるものである。

流動負債は8,663千円の減少となっているが、これは、一時借入金4,000千円、未払金4,634千円などの減によるものである。

資本金は159,051千円の減少となっているが、これは、借入資本金において、新たに企業債58,900千円を借り入れたものの、企業債61,188千円および他会計からの長期借入金156,762千円を償還したためである。

剰余金は344,510千円の減少となっているが、これは、当年度未処理欠損金の増によるものである。



(注) 企業債は、固定負債と借入資本金である。

また、財政状態に関する主な財務比率の推移は、次のとおりである。

| 項 目 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 備 考 |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--|
| 流 動 比 率 | % 66.5 | % 18.3 | % 44.9 | % 36.9 | % 36.9 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ |
| 固 定 長 期 適 合 率 | 101.3 | 110.6 | 103.1 | 104.5 | 105.7 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{固定負債}} \times 100$ |
| 自 己 資 本 構 成 比 率 | 36.2 | 32.5 | 27.0 | 23.4 | △7.3 | $\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$ |
| 固 定 負 債 構 成 比 率 | 60.0 | 56.0 | 67.7 | 69.9 | 99.0 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$ |

(注) 1 自己資本＝自己資本金＋剰余金
2 固定負債＝固定負債＋借入資本金

流動比率は100%を下回っており、資金不足となっていることを示している。

固定長期適合率は100%以上で推移している。

自己資本構成比率は30%台から20%台で推移してきたが、平成22年度に欠損金の増などにより、マイナスに転じている。

固定負債構成比率は50%台から100%近くへ推移し上昇傾向を示している。

(2) 資金運用および運転資金

資金運用および運転資金の状況は次のとおりである。

資金運用表

| 資 金 の 運 用 | | 資 金 の 源 泉 | |
|----------------|-------------|-------------|--------------|
| | 円 | | 円 |
| 当年度純損失 | 344,510,154 | 減価償却費 | 58,492,870 |
| | | 固定資産除却費 | 7,940,593 |
| | | その他特別損失 | 326,251,457 |
| | | 消費税及び地方消費税 | 3,195,784 |
| | | 資本的収支調整額 | |
| 小 計 | 344,510,154 | 小 計 | 395,880,704 |
| (収益的収支の資金剰余 | 51,370,550) | | |
| 建設改良費 | 67,864,267 | 企業債 | 58,900,000 |
| 企業債償還金 | 61,188,073 | | |
| 他会計からの長期借入金償還金 | 156,762,973 | | |
| 小 計 | 285,815,313 | 小 計 | 58,900,000 |
| | | (資本的収支の資金不足 | 226,915,313) |
| | | 他会計借入金 | 181,000,000 |
| 運転資金の増加 | 5,455,237 | | |
| 計 | 635,780,704 | 計 | 635,780,704 |

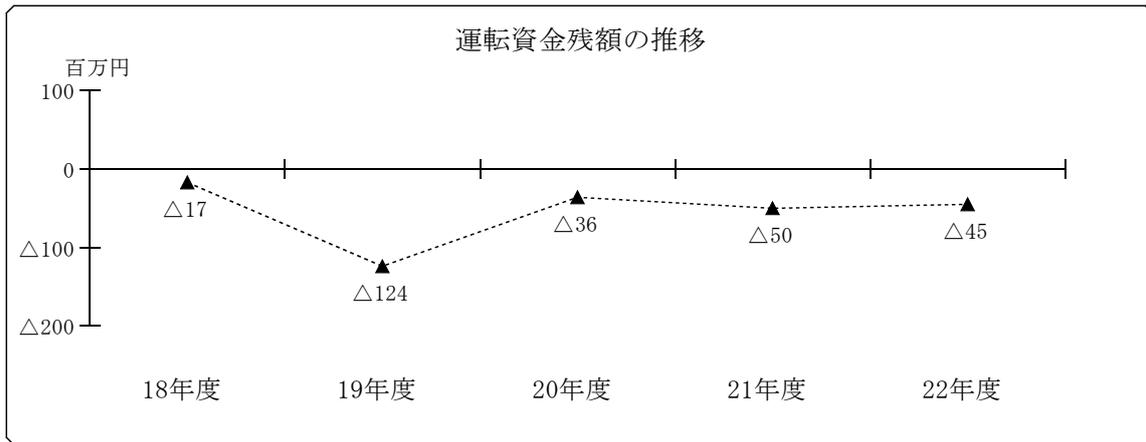
運転資金明細表

| 科 目 | 2 2 年度 | 2 1 年度 | 運 転 資 金 | |
|-----------|-------------|-------------|-----------|-----------|
| | | | 増 | 減 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 流 動 資 産 | 26,561,207 | 29,769,870 | | 3,208,663 |
| 現 金 預 金 | 2,468,225 | 2,064,220 | 404,005 | |
| 未 収 金 | 24,092,982 | 27,705,650 | | 3,612,668 |
| 流 動 負 債 | 72,025,274 | 80,689,174 | 8,663,900 | |
| 一 時 借 入 金 | 66,000,000 | 70,000,000 | 4,000,000 | |
| 未 払 金 | 5,834,244 | 10,469,114 | 4,634,870 | |
| その他流動負債 | 191,030 | 220,060 | 29,030 | |
| 運 転 資 金 | △45,464,067 | △50,919,304 | 5,455,237 | |

当年度の資金運用の状況は、収益的収支において51,370千円の資金剰余、資本的収支で226,915千円の資金不足となっている。

このため、営業運転資金として一般会計から長期借入金181,000千円を借り入れている。

この結果、当年度の運転資金は5,455千円増加し、当年度末における運転資金不足額（不良債務）は45,464千円となっている。



5 審査意見

これまで、温泉事業会計決算の概要について述べてきたが、当年度の純損益は344,510千円の赤字を生じ、前年度繰越欠損金527,844千円と合わせ、当年度未処理欠損金は872,354千円となった。

このため、当年度において、一般会計から長期借入金181,000千円を借り入れ、これによって、運転資金不足額（不良債務）は45,464千円（前年度50,919千円）となった。

当年度の純損益を前年度と比較すると、前年度の純損益は58,704千円の赤字であったので、285,805千円赤字が増加している。

これは、特別損失における市営熱帯植物園を一般会計へ移管したことに伴うその他特別損失の皆増などがあったことによるものである。

建設改良事業については、ポンプ揚湯設備整備工事、温泉井整備工事、温泉供給管の布設替工事等を実施した。

湯の川温泉街における温泉供給事業は、ホテル、旅館等へ温泉を供給するなど観光産業の基盤となっており、地域経済の活性化にきわめて重要な使命を担っている。また、公衆浴場事業として営業している谷地頭温泉は、地域住民のみならず市民の憩いの場として永年親しまれ、保健衛生の向上に寄与してきたところである。

しかし、近年、公衆浴場事業の経営については、社会環境の変化や周辺人口の減少、さらにはスーパー銭湯との競合により、入浴人員の減少が続いており、厳しい事業経営を余儀なくされている。

このようななか、本市温泉事業においては、経営の健全化を図るために平成20年度に策定した「温泉事業の経営健全化対策」に基づき、谷地頭温泉施設の指定管理者（公募方式）による管理・運営や、温泉維持管理業務の委託化等、事務事業の見直しによる人員削減を行ってきたが、資金不足額の解消に至らず、その資金不足額を圧縮するため、当年度においては、市営熱帯植物園を一般会計へ移管するとともに、引き続き同会計から長期資金の借り入れを行ったところである。

今後においては、温泉事業の経営健全化対策の大きな柱のひとつである谷地頭温泉について、売却条件を十分検討しつつ早期の売却により、経営健全化を図られるよう要望するものである。

函館市公共下水道事業会計

1 事業の概要

当年度の公共下水道事業の業務状況は、次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | 対前年度比較 | | |
|------------|----------------|------------|------------|------------|----------|-----|
| | 予 定 | 実 績 | 実 績 | 増 減 | 増減率 % | |
| 行政区域内人口 | 人 | 280,035 | 282,459 | △2,424 | △0.9 | |
| 全体計画人口 | 人 | 254,200 | 254,200 | 0 | 0.0 | |
| 認可区域面積 | ha | 4,874 | 4,874 | 0 | 0.0 | |
| 処理区域面積 | ha | 4,711 | 4,703 | 8 | 0.2 | |
| 処理区域内人口 | 人 | 250,798 | 252,480 | △1,682 | △0.7 | |
| 排水区域内人口 | 人 | 250,885 | 252,567 | △1,682 | △0.7 | |
| 処理区域内人口普及率 | % | 89.6 | 89.4 | 0.2 | — | |
| 水洗化区域内戸数 | 戸 | 135,561 | 131,452 | 4,109 | 3.1 | |
| 水洗化済戸数 | 戸 | 125,367 | 120,019 | 5,348 | 4.5 | |
| 水洗化率 | % | 92.5 | 91.3 | 1.2 | — | |
| 水洗化人口 | 人 | 231,303 | 227,365 | 3,938 | 1.7 | |
| 排水戸数 | 戸 | 117,687 | 116,860 | 55 | 0.0 | |
| 管渠延長 | km | | 1,314 | 1,309 | 5 | 0.4 |
| 年間総排水量 | m ³ | 28,798,500 | 28,608,858 | 28,405,153 | 203,705 | 0.7 |
| 1日平均排水量 | m ³ | 78,900 | 78,380 | 77,822 | 558 | 0.7 |

(注) 排水戸数は、下水道使用料を賦課した戸数である。

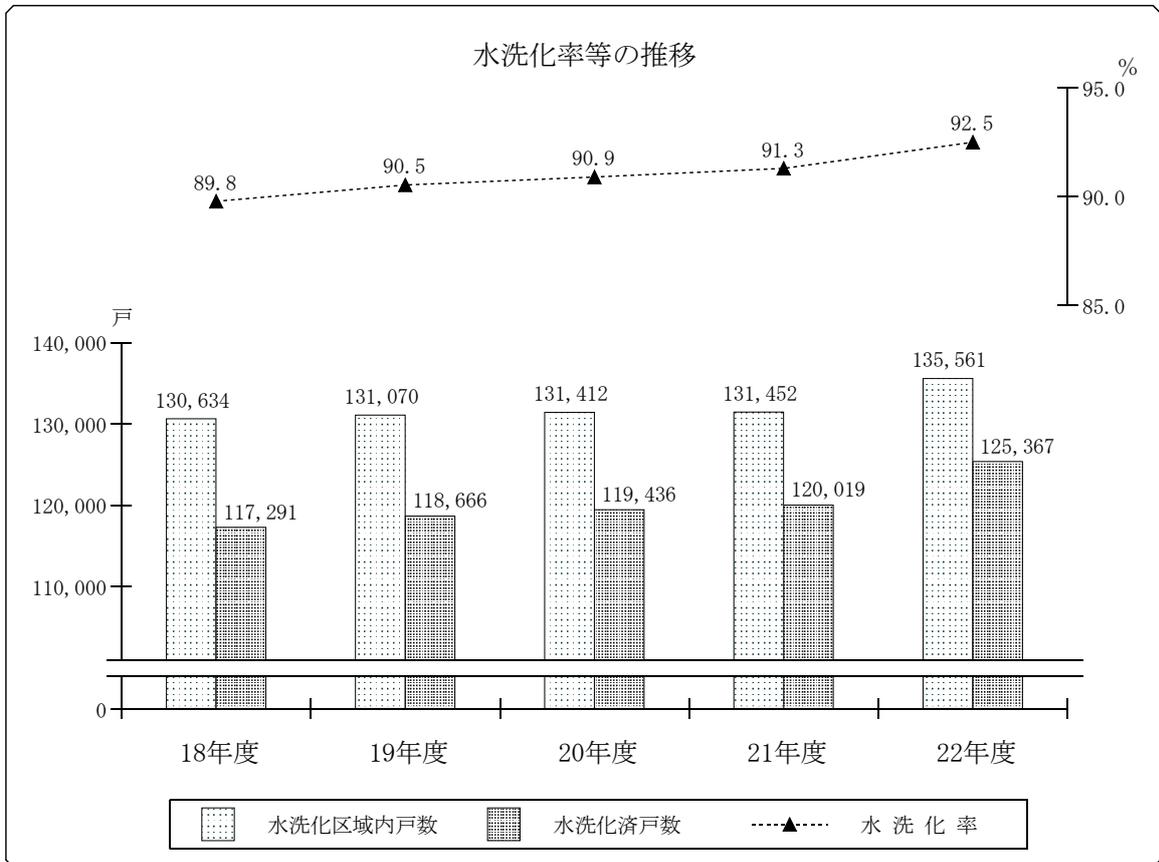
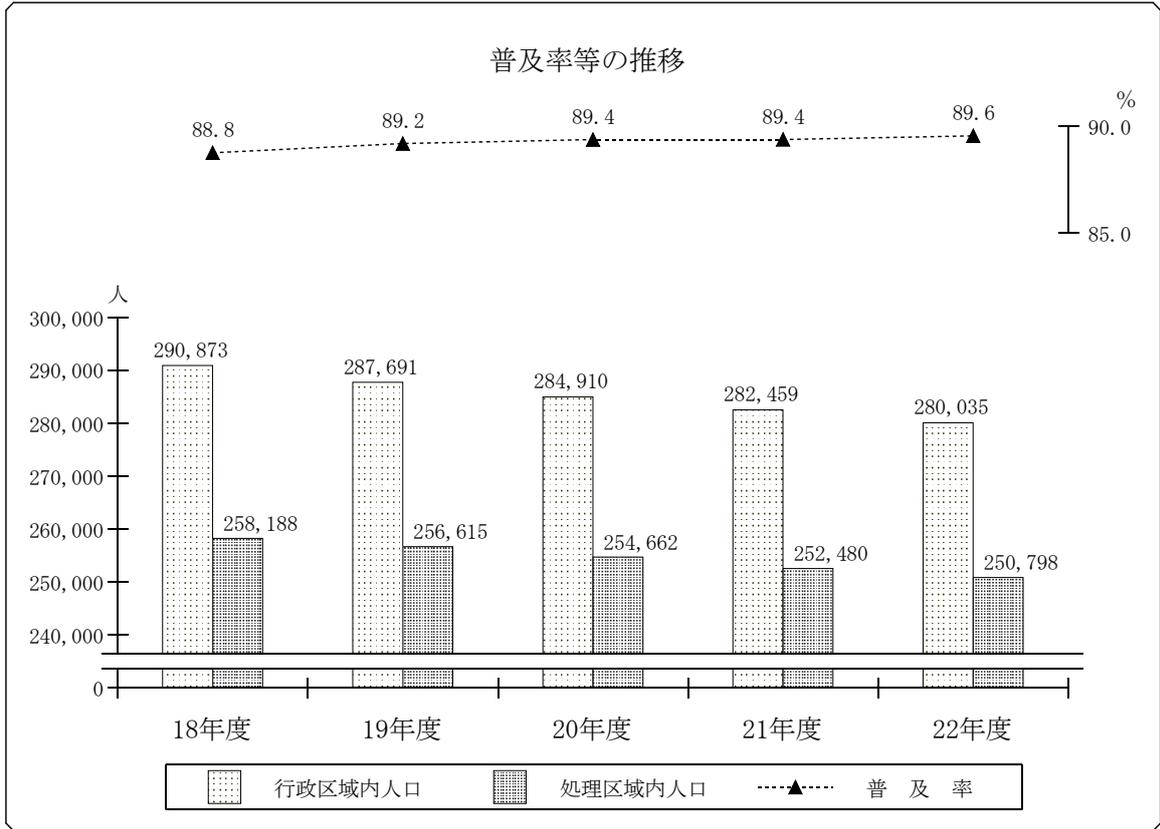
当年度末における処理区域内人口は250,798人となり、前年度に比べ1,682人減少したが、行政区域内人口に対する処理区域内人口普及率は89.6%となり0.2ポイント増加している。

また、当年度末における水洗化済戸数および水洗化人口は125,367戸、231,303人となり、前年度に比べ、水洗化済戸数は5,348戸、水洗化人口は3,938人と、それぞれ増加し、この結果、水洗化率は1.2ポイント増の92.5%となっている。

排水戸数および年間総排水量は、予定量を下回る116,860戸、28,608,858m³となり、前年度と比べると、排水戸数は55戸増加し、年間総排水量は203,705m³増加している。

また、当年度の建設改良事業の主なものは、次のとおりである。

| 内 容 | 予 定 | 実 績 |
|----------------|--------|----------|
| 管渠事業 | | |
| 下水管渠布設・更生 | 2,200m | 2,259.5m |
| 金堀雨水貯留管布設 | 245m | 60.0m |
| ポンプ場事業 | | |
| 大手ポンプ場排水ポンプ設備 | 1式 | 1式 |
| 処理場事業 | | |
| 汚水処理施設電気計装設備 | 1式 | 1式 |
| 汚泥処理施設中央監視制御設備 | 1式 | 1式 |



2 予算の執行状況

当年度の予算の執行状況は、次のとおりである。

(1) 収益的収入及び支出

収 入

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 対 予 算 増 減 額 | 対 予 算 比 率 |
|---------------|---------------|---------------|-------------|-----------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 下 水 道 事 業 収 益 | 6,297,868,000 | 6,256,132,335 | △41,735,665 | 99.3 |
| 営 業 収 益 | 6,262,111,000 | 6,216,963,270 | △45,147,730 | 99.3 |
| 営 業 外 収 益 | 8,756,000 | 11,630,940 | 2,874,940 | 132.8 |
| 特 別 利 益 | 27,001,000 | 27,538,125 | 537,125 | 102.0 |

支 出

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 不 用 額 | 対 予 算 比 率 |
|---------------|---------------|---------------|-------------|-----------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 下 水 道 事 業 費 用 | 5,721,482,000 | 5,611,464,908 | 110,017,092 | 98.1 |
| 営 業 費 用 | 3,927,673,000 | 3,831,427,774 | 96,245,226 | 97.5 |
| 営 業 外 費 用 | 1,724,584,000 | 1,723,380,671 | 1,203,329 | 99.9 |
| 特 別 損 失 | 61,225,000 | 56,656,463 | 4,568,537 | 92.5 |
| 予 備 費 | 8,000,000 | — | 8,000,000 | — |

決算額について、予算現額と比較すると次のとおりである。

営業収益は45,147千円の減収となっているが、これは、下水道使用料14,739千円などの増があったものの、他会計負担金59,903千円などの減があったためである。

営業外収益は2,874千円の増収となっているが、これは、雑収益2,819千円の増などによるものである。

営業費用は96,245千円の不用額を生じているが、これは、管渠費5,022千円、ポンプ場費10,457千円、処理場費42,846千円、業務費7,567千円、総係費5,910千円、流域下水道管理費13,035千円の減などによるものである。

特別損失は4,568千円の不用額を生じているが、これは、過年度損益修正損の減によるものである。

(2) 資本的収入及び支出

収 入

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 対 予 算 増 減 額 | 対 予 算 比 率 |
|-----------|---------------|---------------|--------------|-----------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 資 本 的 収 入 | 3,451,487,000 | 3,200,264,370 | △251,222,630 | 92.7 |
| 企 業 債 | 2,562,000,000 | 2,419,200,000 | △142,800,000 | 94.4 |
| 固定資産売却代金 | — | 133,875 | 133,875 | 皆増 |
| 国庫補助金 | 604,575,000 | 506,940,150 | △97,634,850 | 83.9 |
| 受益者負担金 | 43,401,000 | 45,807,862 | 2,406,862 | 105.5 |
| 他会計負担金 | 134,833,000 | 131,347,553 | △3,485,447 | 97.4 |
| 長期貸付金返還金 | 106,678,000 | 96,834,930 | △9,843,070 | 90.8 |

支 出

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 翌年度繰越額 | 不 用 額 | 対 予 算 比 率 |
|-----------|---------------|---------------|-------------|------------|-----------|
| | 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 資 本 的 支 出 | 5,681,437,050 | 5,380,874,070 | 207,000,000 | 93,562,980 | 94.7 |
| 建設改良費 | 1,827,216,050 | 1,564,110,870 | 207,000,000 | 56,105,180 | 85.6 |
| 企業債償還金 | 3,779,060,000 | 3,779,059,200 | — | 800 | 100.0 |
| 長期貸付金 | 75,161,000 | 37,704,000 | — | 37,457,000 | 50.2 |

収 支 差 引

| | |
|---------------------|------------------|
| 資 本 的 収 支 差 引 額 | △2,180,609,700 円 |
| 翌年度繰越財源充当額 | △9,306,000 円 |
| 資 本 的 収 支 資 金 不 足 額 | 2,189,915,700 円 |

決算額について、予算現額と比較すると次のとおりである。

企業債は142,800千円の減収となっているが、これは、ポンプ場事業費企業債7,600千円の増があったものの、建設改良費の繰越しなどに伴う管渠事業費企業債132,400千円の減、処理場事業費企業債5,900千円の減、流域下水道事業費企業債11,100千円などの減があったためである。

国庫補助金は97,634千円の減収となっているが、これは、建設改良費の繰越しなどによるものである。

受益者負担金は2,406千円の増収となっているが、これは、受益者負担金2,238千円、分担金168千円の増があったためである。

長期貸付金返還金は9,843千円の減収となっているが、これは、水洗便所改造等資金貸付金返還金などの減によるものである。

建設改良費は207,000千円を翌年度に予算繰越しており、これは、管渠事業費の継続費通次繰越である。

また、56,105千円の不用額を生じているが、これは、管渠事業費44,020千円、処理場事業費14,613千円の減などによるものである。

長期貸付金は37,457千円の不用額を生じているが、これは、水洗便所改造等資金貸付金の減によるものである。

資本的収入額（翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額9,306千円を除く。）が資本的支出額に不足する額2,189,915千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額42,534千円、繰越工事資金70,000千円、減債積立金18,539千円、過年度分損益勘定留保資金25,574千円、当年度分損益勘定留保資金1,743,685千円および繰越利益剰余金処分量289,582千円で補てんしている。

3 経営成績

(1) 収益

収益について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 22年度 | | 21年度 | | 対前年度比較 | |
|---------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|-------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 営業収益 | 5,986,214,222 | 99.4 | 5,989,787,116 | 99.4 | △3,572,894 | △0.1 |
| 下水道使用料 | 4,561,698,237 | 75.7 | 4,531,944,849 | 75.2 | 29,753,388 | 0.7 |
| 他会計負担金 | 1,358,272,385 | 22.5 | 1,391,751,487 | 23.1 | △33,479,102 | △2.4 |
| その他営業収益 | 66,243,600 | 1.1 | 66,090,780 | 1.1 | 152,820 | 0.2 |
| 営業外収益 | 11,174,290 | 0.2 | 36,143,121 | 0.6 | △24,968,831 | △69.1 |
| 特別利益 | 27,512,500 | 0.4 | 371,050 | 0.0 | 27,141,450 | 激増 |
| 総 収 益 | 6,024,901,012 | 100.0 | 6,026,301,287 | 100.0 | △1,400,275 | △0.0 |

営業収益は3,572千円の減収となっているが、これは下水道使用料29,753千円などの増があったものの、他会計負担金33,479千円の減があったためである。

営業外収益は24,968千円の減収となっているが、これは、他会計補助金20,211千円、雑収益4,804千円の減などによるものである。

総収益では1,400千円（0.0%）減少し6,024,901千円となった。

(2) 費用

費用について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 22年度 | | 21年度 | | 対前年度比較 | |
|-------|---------------|-------|---------------|-------|--------------|-------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 営業費用 | 3,759,513,063 | 69.3 | 3,908,558,957 | 69.1 | △149,045,894 | △3.8 |
| 職員給与費 | 518,557,495 | 9.6 | 602,926,779 | 10.7 | △84,369,284 | △14.0 |
| 退職給与金 | 22,351,997 | 0.4 | 70,699,562 | 1.3 | △48,347,565 | △68.4 |
| 経 費 | 1,443,966,809 | 26.6 | 1,491,461,165 | 26.4 | △47,494,356 | △3.2 |
| 減価償却費 | 1,736,885,634 | 32.0 | 1,717,587,944 | 30.4 | 19,297,690 | 1.1 |
| 資産減耗費 | 37,751,128 | 0.7 | 25,883,507 | 0.5 | 11,867,621 | 45.9 |
| 営業外費用 | 1,608,103,221 | 29.7 | 1,703,643,846 | 30.1 | △95,540,625 | △5.6 |
| 特別損失 | 55,151,923 | 1.0 | 43,333,186 | 0.8 | 11,818,737 | 27.3 |
| 総 費 用 | 5,422,768,207 | 100.0 | 5,655,535,989 | 100.0 | △232,767,782 | △4.1 |

営業費用は149,045千円の減少となっているが、これは、減価償却費19,297千円、資産減耗費11,867千円の増があったものの、職員給与費84,369千円、退職給与金48,347千円、経費47,494千円の減があったためである。

営業外費用は95,540千円の減少となっているが、これは、支払利息及び企業債取扱諸費99,112千円の減などによるものである。

特別損失は11,818千円の増加となっているが、これは、過年度損益修正損12,745千円の増などによるものである。

総費用では232,767千円（4.1%）減少し5,422,768千円となった。

(3) 損益の状況

損益の状況について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | 2 1 年 度 | 対前年度比較 | |
|---------------|----------------|----------------|--------------|-------|
| | | | 増 減 額 | 増減率 |
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 営 業 収 益 A | 5,986,214,222 | 5,989,787,116 | △3,572,894 | △0.1 |
| 営 業 費 用 B | 3,759,513,063 | 3,908,558,957 | △149,045,894 | △3.8 |
| 営 業 損 益 A-B | 2,226,701,159 | 2,081,228,159 | 145,473,000 | 7.0 |
| 営 業 外 収 益 C | 11,174,290 | 36,143,121 | △24,968,831 | △69.1 |
| 営 業 外 費 用 D | 1,608,103,221 | 1,703,643,846 | △95,540,625 | △5.6 |
| 営 業 外 損 益 C-D | △1,596,928,931 | △1,667,500,725 | 70,571,794 | △4.2 |
| 経 常 収 益 E=A+C | 5,997,388,512 | 6,025,930,237 | △28,541,725 | △0.5 |
| 経 常 費 用 F=B+D | 5,367,616,284 | 5,612,202,803 | △244,586,519 | △4.4 |
| 経 常 損 益 E-F | 629,772,228 | 413,727,434 | 216,044,794 | 52.2 |
| 特 別 利 益 G | 27,512,500 | 371,050 | 27,141,450 | 激増 |
| 特 別 損 失 H | 55,151,923 | 43,333,186 | 11,818,737 | 27.3 |
| 特 別 損 益 G-H | △27,639,423 | △42,962,136 | 15,322,713 | △35.7 |
| 総 収 益 I=A+C+G | 6,024,901,012 | 6,026,301,287 | △1,400,275 | △0.0 |
| 総 費 用 J=B+D+H | 5,422,768,207 | 5,655,535,989 | △232,767,782 | △4.1 |
| 純 損 益 I-J | 602,132,805 | 370,765,298 | 231,367,507 | 62.4 |
| 当年度未処分利益剰余金 | 1,320,701,771 | 718,568,966 | 602,132,805 | 83.8 |

(注) 当年度未処分利益剰余金の21年度の額は、翌年度繰越利益剰余金である。

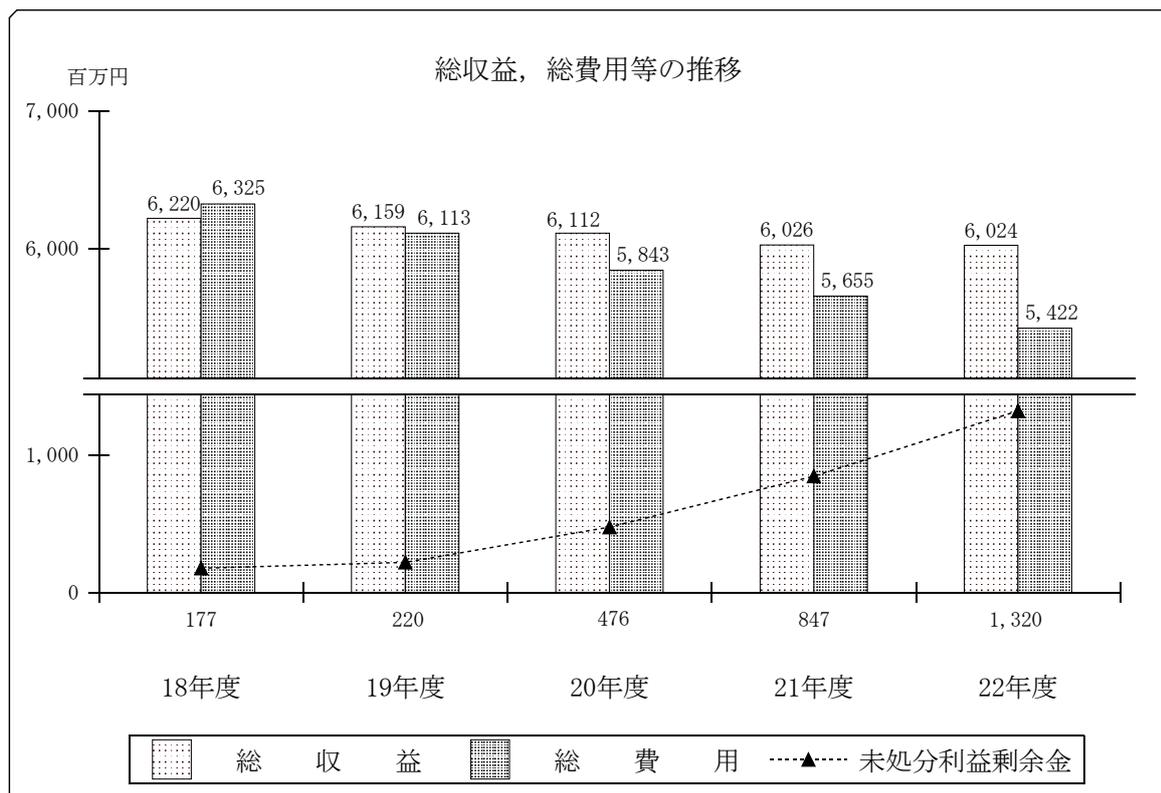
営業損益は2,226,701千円の利益となっており、利益が145,473千円（7.0%）増加しているが、これは、営業費用における総係費の減などによるものである。

営業外損益は1,596,928千円の損失となっており、損失が70,571千円（4.2%）減少しているが、これは、営業外費用における支払利息及び企業債取扱諸費の減などによるものである。

このため、経常損益は、利益が216,044千円（52.2%）増加し629,772千円となっている。

特別損益は27,639千円の損失となっており、損失が15,322千円（35.7%）減少しているが、これは、他会計補助金の増などによるものである。

この結果、利益が231,367千円（62.4%）増加し、純損益は602,132千円の利益となったことから、当年度未処分利益剰余金は1,320,701千円となっている。



これら損益の状況を収支比率等の推移でみると、次のとおりである。

| 項目 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 備考 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| 営業収支比率 | 155.1 | 159.3 | 156.9 | 153.2 | 159.2 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$ |
| 経常収支比率 | 98.9 | 101.6 | 105.4 | 107.4 | 111.7 | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ |
| 総収支比率 | 98.3 | 100.8 | 104.6 | 106.6 | 111.1 | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ |
| 総資本利益率 | △0.1 | 0.0 | 0.2 | 0.3 | 0.4 | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ |

営業収支比率は、利益が発生していることから100%以上で推移している。

経常収支比率および総収支比率は、平成19年度以降利益が発生していることから100%以上で推移している。

総資本利益率は、平成19年度以降プラスとなっている。

(4) 単位当たり経常収支

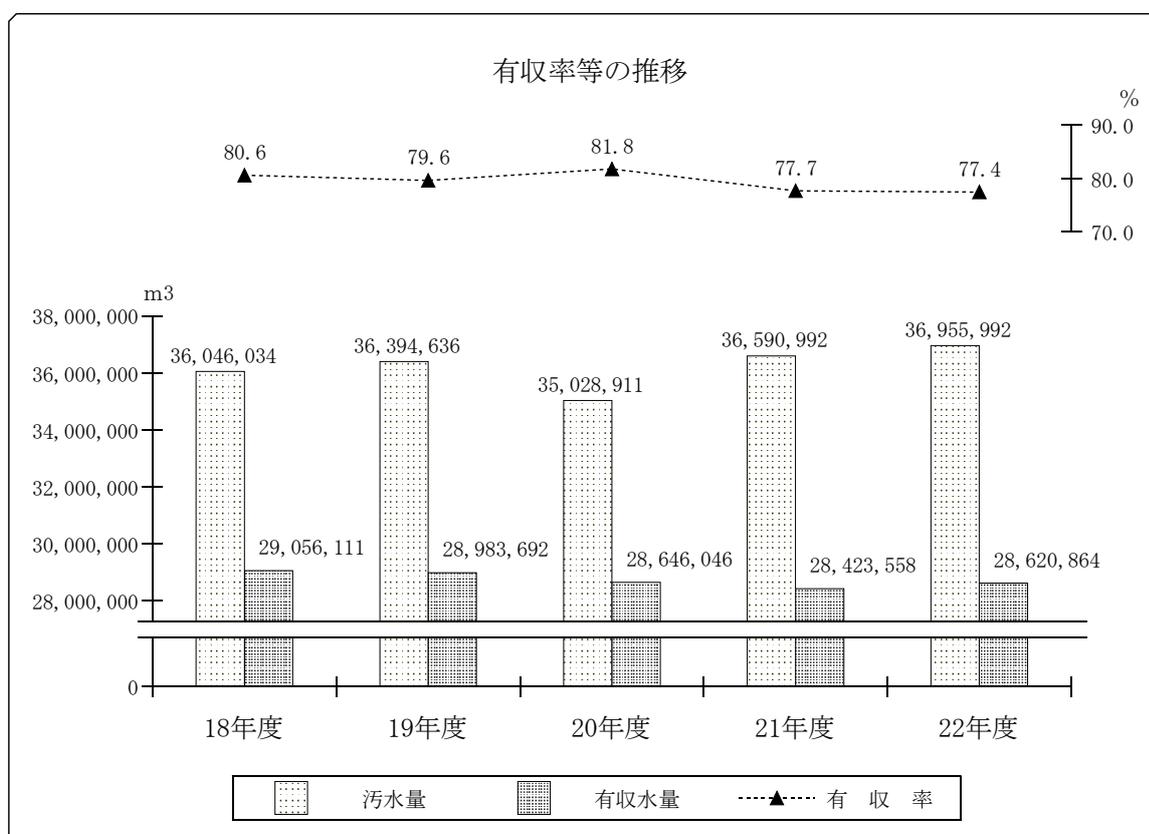
当事業における有収水量 1 m³当たり経常収支の推移は、次のとおりである。

(単位：円)

| 項目 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | |
|------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益 | 下水道使用料 | 161.77 | 161.61 | 160.84 | 159.44 | 159.38 |
| | 負担金・補助金 | 49.86 | 48.20 | 50.03 | 49.68 | 47.46 |
| | その他 | 2.44 | 2.71 | 2.52 | 2.88 | 2.70 |
| | 計 | 214.07 | 212.52 | 213.39 | 212.00 | 209.55 |
| 経常費用 | 人件費 | 28.94 | 23.96 | 24.30 | 23.70 | 18.90 |
| | 経費 | 51.47 | 50.55 | 50.98 | 52.47 | 50.45 |
| | 減価償却費 | 57.49 | 58.61 | 60.42 | 61.34 | 62.01 |
| | 支払利息 | 78.15 | 75.68 | 66.49 | 59.51 | 55.64 |
| | その他 | 0.41 | 0.38 | 0.35 | 0.42 | 0.55 |
| 計 | 216.46 | 209.18 | 202.55 | 197.45 | 187.54 | |
| 経常損益 | △2.39 | 3.34 | 10.84 | 14.56 | 22.00 | |

- (注) 1 負担金・補助金＝一般会計繰入分
 2 人件費＝職員給与費＋退職給与金
 3 減価償却費＝減価償却費＋資産減耗費

有収水量 1 m³当たりの経常損益は、平成 19 年度以降黒字で推移している。



4 財政状態

(1) 資産、負債および資本

資産、負債および資本について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | 対前年度比較 | |
|-----------|-----------------|-------|-----------------|-------|----------------|------|
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | 増 減 額 | 増減率 |
| 資 産 | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 固 定 資 産 | 144,533,851,287 | 100.0 | 144,691,593,112 | 100.0 | △157,741,825 | △0.1 |
| 流 動 資 産 | 143,084,787,100 | 99.0 | 143,448,209,719 | 99.1 | △363,422,619 | △0.3 |
| | 1,449,064,187 | 1.0 | 1,243,383,393 | 0.9 | 205,680,794 | 16.5 |
| 負 債 ・ 資 本 | 144,533,851,287 | 100.0 | 144,691,593,112 | 100.0 | △157,741,825 | △0.1 |
| 固 定 負 債 | 7,568,822,000 | 5.2 | 6,150,000,000 | 4.3 | 1,418,822,000 | 23.1 |
| 流 動 負 債 | 377,686,798 | 0.3 | 410,700,493 | 0.3 | △33,013,695 | △8.0 |
| 資 本 金 | 58,440,587,982 | 40.4 | 61,090,084,182 | 42.2 | △2,649,496,200 | △4.3 |
| 自 己 資 本 金 | 480,748,392 | 0.3 | 351,563,392 | 0.2 | 129,185,000 | 36.7 |
| 借 入 資 本 金 | 57,959,839,590 | 40.1 | 60,738,520,790 | 42.0 | △2,778,681,200 | △4.6 |
| 剰 余 金 | 78,146,754,507 | 54.1 | 77,040,808,437 | 53.2 | 1,105,946,070 | 1.4 |

固定資産は363,422千円の減少となっているが、これは、建設改良費1,492,091千円、受贈財産評価額222,770千円、長期貸付金37,704千円の増があったものの、減価償却および除却による2,019,024千円、長期貸付金の返還による96,834千円などの減があったためである。

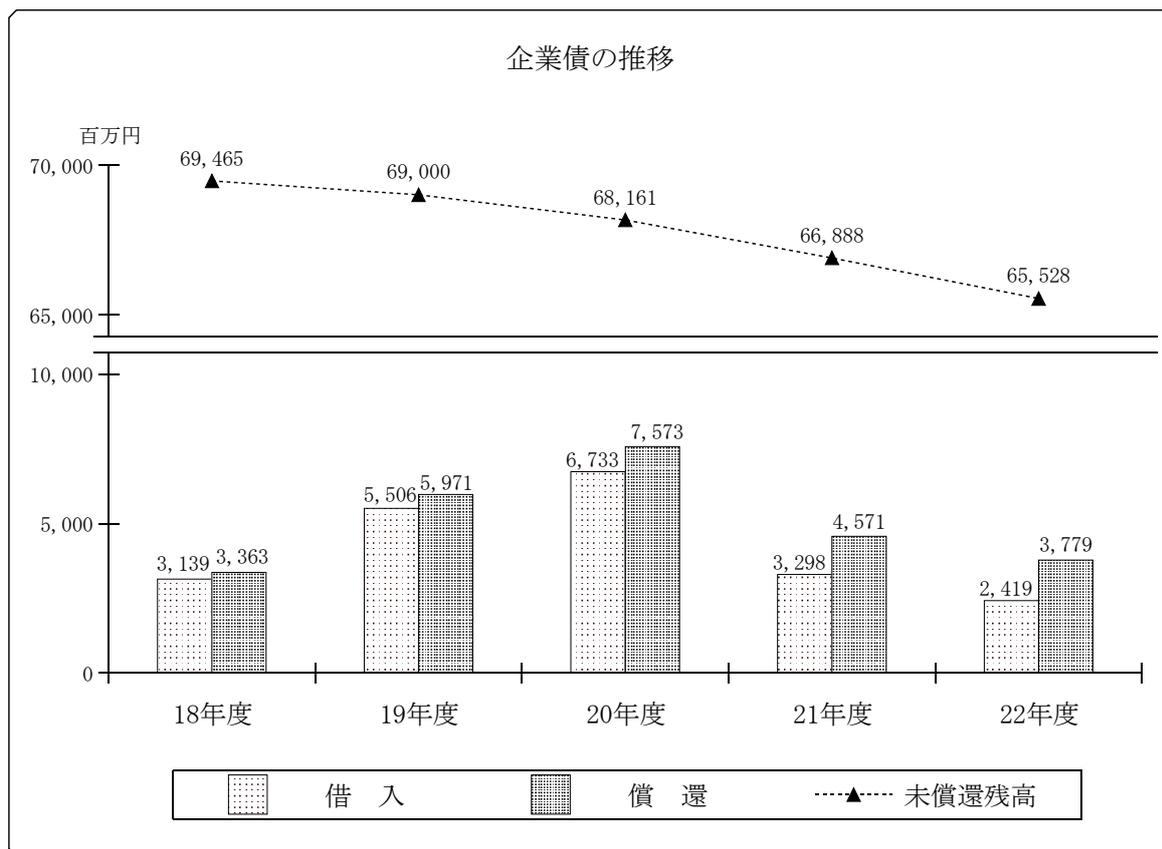
流動資産は205,680千円の増加となっているが、これは、未収金86,697千円、他会計保管下水道使用料9,854千円の減があったものの、現金預金283,306千円、前払金18,926千円の増があったためである。

固定負債は1,418,822千円の増加となっているが、これは、資本費平準化債償還元金58,824千円、下水道事業債（特別措置分）償還元金32,354千円の償還による減があったものの、新たに資本費平準化債1,000,000千円、下水道事業債（特別措置分）510,000千円の借り入れによる増があったためである。

流動負債は33,013千円の減少となっているが、これは、未払金31,715千円などの減があったためである。

資本金は2,649,496千円の減少となっているが、これは、自己資本金において、減債積立金129,185千円の組み入れによる増があったものの、借入資本金において、新たに企業債909,200千円を借り入れ3,687,881千円を償還したため2,778,681千円の減となったためである。

剰余金は1,105,946千円の増加となっているが、これは、資本剰余金632,998千円、利益剰余金472,947千円の増によるものである。



(注) 企業債は、固定負債と借入資本金である。

また、財政状態に関する主な財務比率の推移は、次のとおりである。

| 項 目 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 備 考 |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
| 流 動 比 率 | 215.8 | 261.0 | 322.8 | 302.7 | 383.7 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ |
| 固 定 長 期 適 合 率 | 99.6 | 99.6 | 99.5 | 99.4 | 99.3 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{固定負債}} \times 100$ |
| 自 己 資 本 構 成 比 率 | 51.4 | 52.0 | 52.7 | 53.5 | 54.4 | $\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$ |
| 固 定 負 債 構 成 比 率 | 48.3 | 47.7 | 47.0 | 46.2 | 45.3 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$ |

(注) 1 自己資本＝自己資本金＋剰余金
 2 固定負債＝固定負債＋借入資本金

流動比率は100%を大きく上回っており、短期の支払能力が安定していることを示している。

固定長期適合率は100%に近い比率で推移している。

自己資本構成比率は50%台で推移し上昇傾向を示している。

固定負債構成比率は40%台で推移し下降傾向を示している。

(2) 資金運用および運転資金

資金運用および運転資金の状況は、次のとおりである。

資金運用表

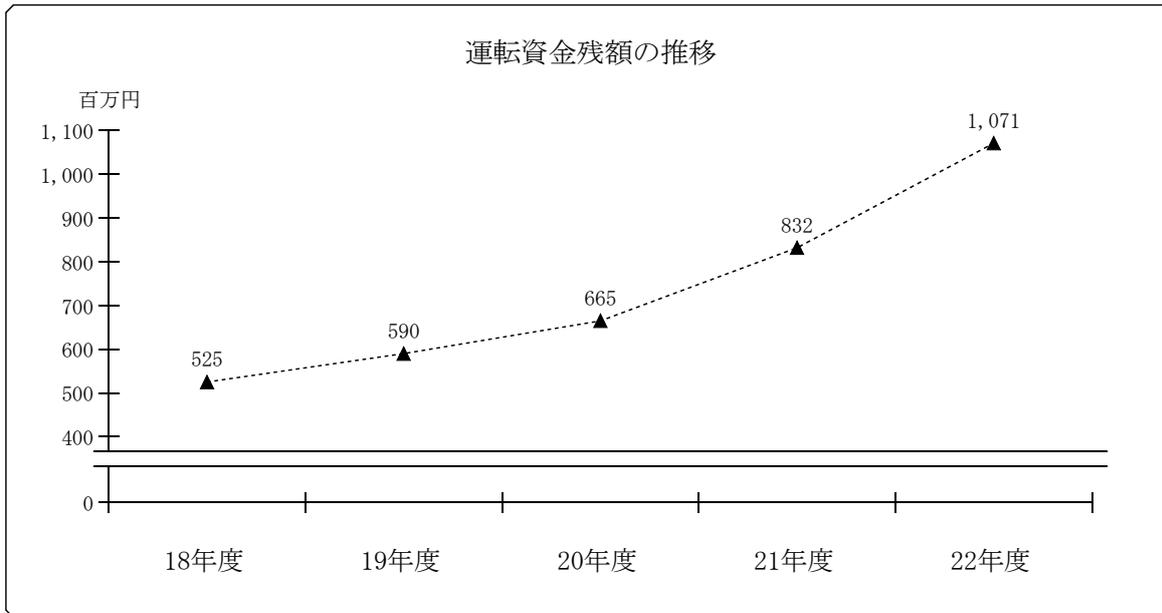
| 資 金 の 運 用 | | 資 金 の 源 泉 | |
|----------------------------|---------------|----------------------------|---------------|
| 円 | | 円 | |
| | | 当年度純利益 | 602,132,805 |
| | | 減価償却費 | 1,736,885,634 |
| | | 固定資産除却費 | 37,751,128 |
| | | 消費税及び地方消費税 | 42,534,622 |
| | | 資本的収支調整額 | |
| | | 小 計 | 2,419,304,189 |
| ----- | | ----- | |
| (収益的収支の資金剰余 2,419,304,189) | | | |
| 建設改良費 | 1,564,110,870 | 企業債 | 2,419,200,000 |
| 企業債償還金 | 3,779,059,200 | 固定資産売却代金 | 133,875 |
| 長期貸付金 | 37,704,000 | 国庫補助金 | 506,940,150 |
| | | 受益者負担金 | 45,807,862 |
| | | 他会計負担金 | 131,347,553 |
| | | 長期貸付金返還金 | 96,834,930 |
| 小 計 | 5,380,874,070 | 小 計 | 3,200,264,370 |
| | | ----- | |
| | | (資本的収支の資金不足 2,180,609,700) | |
| 運転資金の増加 | 238,694,489 | | |
| 計 | 5,619,568,559 | 計 | 5,619,568,559 |

運転資金明細表

| 科 目 | 2 2 年度 | 2 1 年度 | 運 転 資 金 | |
|-------------|---------------|---------------|-------------|------------|
| | | | 増 | 減 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 流 動 資 産 | 1,449,064,187 | 1,243,383,393 | 205,680,794 | |
| 現金預金 | 665,011,423 | 381,704,549 | 283,306,874 | |
| 未収金 | 753,655,335 | 840,352,579 | | 86,697,244 |
| 前払金 | 18,926,000 | | 18,926,000 | |
| 他会計保管下水道使用料 | 11,471,429 | 21,326,265 | | 9,854,836 |
| 流 動 負 債 | 377,686,798 | 410,700,493 | 33,013,695 | |
| 未払金 | 375,238,370 | 406,953,715 | 31,715,345 | |
| その他流動負債 | 2,448,428 | 3,746,778 | 1,298,350 | |
| 運 転 資 金 | 1,071,377,389 | 832,682,900 | 238,694,489 | |

当年度の資金運用の状況は、収益的収支で2,419,304千円の資金剰余、資本的収支で2,180,609千円の資金不足となっている。

この結果、当年度の運転資金は238,694千円増加し、当年度末における運転資金残額は1,071,377千円となっている。



5 審査意見

これまで、公共下水道事業会計決算の概要について述べてきたが、当年度の純損益は602,132千円の黒字を生じ、前年度繰越利益剰余金718,568千円と合わせ、当年度未処分利益剰余金は1,320,701千円となった。

当年度の純損益を前年度と比較すると、前年度の純損益は370,765千円の黒字であったので、さらに231,367千円増益となっている。

これは、営業費用における職員給与費の減に加え、営業外費用における支払利息及び企業債取扱諸費の減などがあったことによるものである。

建設改良事業については、南部下水終末処理場汚泥処理施設中央監視制御設備工事の継続事業が完了したほか、合流式下水道改善事業として、金堀雨水貯留管工事を平成22年度から3箇年の継続事業として着手し、下水管渠工事、公共樹新設工事、南部下水終末処理場汚水処理施設電気計装設備工事等を実施した。

処理区域面積では、事業認可区域の96.7%に相当する4,711haが水洗可能区域となり、処理区域内における水洗化済戸数については5,348戸（4.5%）増の125,367戸、水洗化率は92.5%となった。

公共下水道は、河川、海洋の水質保全のみならず、市民にとって快適な生活環境の確保と公衆衛生の向上に寄与するための都市基盤施設として重要な役割を果たしている。

本市公共下水道事業においては、これまで計画的に処理区域の拡大や施設の維持管理に努めてきたところであり、当年度においては、収益が減収となったものの、費用の減少により、前年度と比較すると利益が増加し経営状況は良好となっている。

しかしながら、今後の下水道事業を展望すると、収益の根幹である下水道使用料収入は、人口の減少や地域経済の低迷により、減収傾向が続くと思われる、さらには下水道の整備、耐震化、老

朽管渠の更新などに多額の資金が必要になると思料される場所である。

これらを踏まえ、今後の事業経営にあたっては、早期に経営計画を策定し、有収率の向上に努めるほか、下水道使用料および受益者負担金等の収納率向上など、効率的な事務事業の執行により、安定的な経営に努められたい。

また、市民の衛生的で快適な生活環境の更なる向上、あわせて公共用水域の水質保全の推進に向けて、引き続き災害や事故に強いライフラインの確立と危機管理体制の強化などに努められるよう要望するものである。

函館市交通事業会計

1 事業の概要

当年度の交通事業の業務状況は、次のとおりである。

| 項 目 | 22年度 | | 21年度 | 対前年度比較 | |
|-----------|------|-----------|-----------|----------|------|
| | 予 定 | 実 績 | 実 績 | 増 減 | 増減率 |
| 車 両 数 | 両 | 32 | 32 | 0 | 0.0 |
| 走 行 キ ロ 数 | km | 1,018,220 | 1,003,683 | △110,524 | △9.9 |
| 乗 車 人 員 | 人 | 5,795,100 | 5,835,739 | △24,814 | △0.4 |
| 定 期 外 | 人 | 5,426,000 | 5,449,813 | △28,051 | △0.5 |
| 定 期 | 人 | 369,100 | 385,926 | 3,237 | 0.8 |

当年度の走行キロ数は、予定数を下回る1,003,683kmとなっている。

なお、平成22年4月のダイヤ改正に伴い前年度に比べ110,524km(9.9%)減少している。

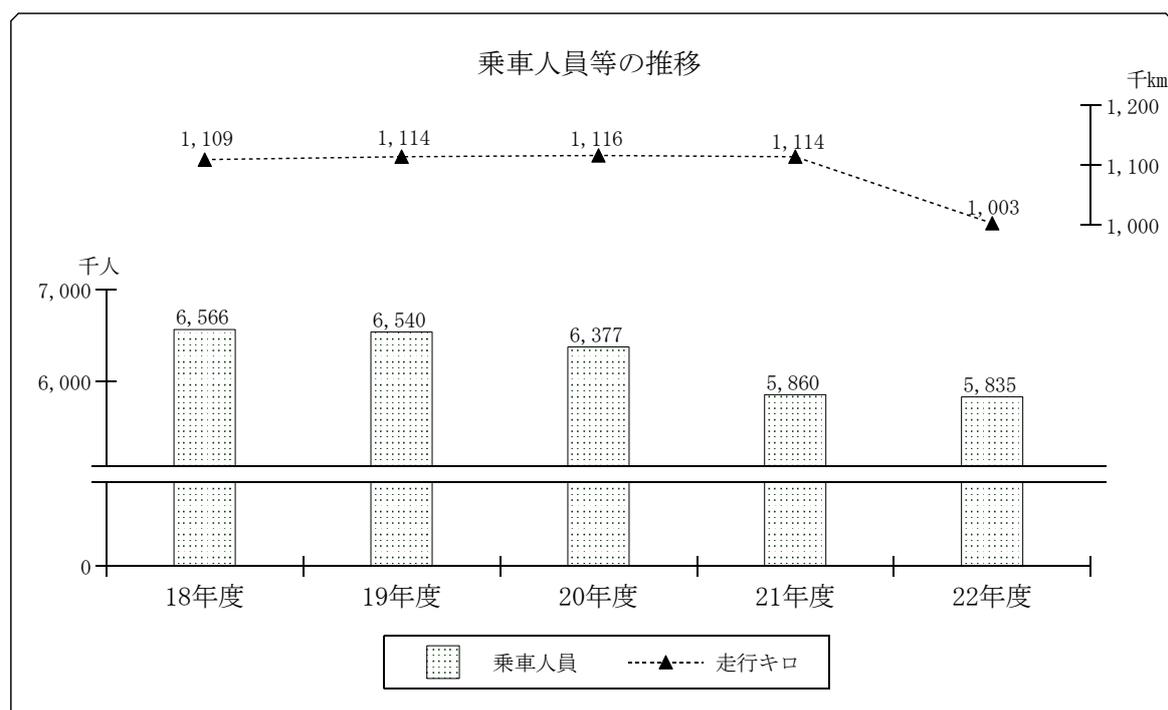
これは、電車の運行を湯の川から十字街電停の区間においては従来の日中約5分から6分間隔に、それ以外の十字街から谷地頭電停、十字街から函館どつく前電停の2区間においては従来の日中約10分から12分間隔に変更したことによるものである。

また、乗車人員は、予定数を上回る5,835,739人となっているが、前年度に比べ24,814人(0.4%)減少している。

これは、定期で3,237人(0.8%)増加したものの、定期外で28,051人(0.5%)減少したことによるものである。

また、当年度の建設改良事業の主なものは、次のとおりである。

| 内 容 | 予 定 | 実 績 |
|----------|------|--------|
| 軌 道 改 良 | 240m | 252.6m |
| 安全地帯上屋設置 | 1式 | 1式 |



2 予算の執行状況

当年度の予算の執行状況は、次のとおりである。

(1) 収益的収入及び支出

収 入

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 対予算増減額 | 対予算比率 |
|--------|---------------|---------------|------------|-------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 軌道事業収益 | 1,415,879,000 | 1,421,488,494 | 5,609,494 | 100.4 |
| 営業収益 | 1,010,667,000 | 1,022,744,487 | 12,077,487 | 101.2 |
| 営業外収益 | 287,212,000 | 280,744,007 | △6,467,993 | 97.7 |
| 特別利益 | 118,000,000 | 118,000,000 | 0 | 100.0 |

支 出

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 不 用 額 | 対予算比率 |
|--------|---------------|---------------|------------|-------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 軌道事業費用 | 1,285,661,000 | 1,263,452,177 | 22,208,823 | 98.3 |
| 営業費用 | 1,216,502,000 | 1,201,945,787 | 14,556,213 | 98.8 |
| 営業外費用 | 67,159,000 | 61,506,390 | 5,652,610 | 91.6 |
| 予備費 | 2,000,000 | — | 2,000,000 | — |

決算額について、予算現額と比較すると次のとおりである。

営業収益は12,077千円の増収となっているが、これは、運輸収益10,079千円などの増によるものである。

営業外収益は6,467千円の減収となっているが、これは、他会計負担金1,211千円、雑収益4,378千円などの減によるものである。

営業費用は14,556千円の不用額を生じているが、これは、電車運転費7,859千円、一般管理費8,932千円の減などによるものである。

営業外費用は5,652千円の不用額を生じているが、これは、支払利息及び企業債取扱諸費878千円、受託工事費4,773千円の減によるものである。

(2) 資本的収入及び支出

収 入

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 対 予 算 増 減 額 | 対 予 算 比 率 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 資 本 的 収 入 | 158,970,000 | 152,670,000 | △6,300,000 | 96.0 |
| 企 業 債 | 81,400,000 | 75,100,000 | △6,300,000 | 92.3 |
| 国 庫 補 助 金 | 17,500,000 | 17,500,000 | 0 | 100.0 |
| 他 会 計 補 助 金 | 60,070,000 | 60,070,000 | 0 | 100.0 |

支 出

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 不 用 額 | 対 予 算 比 率 |
|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 資 本 的 支 出 | 297,881,000 | 296,331,652 | 1,549,348 | 99.5 |
| 建 設 改 良 費 | 120,000,000 | 118,451,037 | 1,548,963 | 98.7 |
| 企 業 債 償 還 金 | 177,881,000 | 177,880,615 | 385 | 100.0 |

収 支 差 引

| | |
|------------|---------------|
| 資本的収支資金不足額 | 143,661,652 円 |
|------------|---------------|

決算額について、予算現額と比較すると次のとおりである。

企業債は6,300千円減収となっているが、これは、建設改良費の減によるものである。

建設改良費は1,548千円の不用額を生じているが、これは、軌道費の減によるものである。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額143,661千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額1,640千円で補てんし、一時借入金142,021千円で措置している。

3 経営成績

(1) 収益

収益について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | 対前年度比較 | |
|-------|---------------|-------|---------------|-------|------------|------|
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | 増 減 額 | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 営業収益 | 980,700,835 | 71.1 | 980,275,960 | 76.3 | 424,875 | 0.0 |
| 運輸収益 | 925,823,760 | 67.1 | 932,061,891 | 72.5 | △6,238,131 | △0.7 |
| 運輸雑収益 | 54,877,075 | 4.0 | 48,214,069 | 3.8 | 6,663,006 | 13.8 |
| 営業外収益 | 280,596,773 | 20.3 | 234,951,339 | 18.3 | 45,645,434 | 19.4 |
| 特別利益 | 118,000,000 | 8.6 | 70,000,000 | 5.4 | 48,000,000 | 68.6 |
| 総 収 益 | 1,379,297,608 | 100.0 | 1,285,227,299 | 100.0 | 94,070,309 | 7.3 |

営業収益は424千円の増収となっているが、これは、運輸収益6,238千円の減があったものの、運輸雑収益6,663千円の増があったためである。

営業外収益は45,645千円の増収となっているが、これは、他会計負担金15,241千円、他会計補助金33,066千円の増などによるものである。

特別利益は48,000千円の増収となっているが、これは、一般会計補助金の増によるものである。総収益では94,070千円（7.3%）増加し1,379,297千円となった。

(2) 費用

費用について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | 対前年度比較 | |
|---------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|-------|
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | 増 減 額 | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 営業費用 | 1,183,017,874 | 96.6 | 1,170,931,639 | 96.2 | 12,086,235 | 1.0 |
| 職員給与費 | 595,442,640 | 48.6 | 619,401,933 | 50.9 | △23,959,293 | △3.9 |
| 退職給与金 | 27,098,887 | 2.2 | 41,841,121 | 3.4 | △14,742,234 | △35.2 |
| 経 費 | 383,658,347 | 31.3 | 367,711,789 | 30.2 | 15,946,558 | 4.3 |
| 固定資産除却費 | 17,540,856 | 1.4 | 11,441,842 | 0.9 | 6,099,014 | 53.3 |
| 減価償却費 | 159,277,144 | 13.1 | 130,534,954 | 10.7 | 28,742,190 | 22.0 |
| 営業外費用 | 41,049,200 | 3.4 | 46,730,084 | 3.8 | △5,680,884 | △12.2 |
| 総 費 用 | 1,224,067,074 | 100.0 | 1,217,661,723 | 100.0 | 6,405,351 | 0.5 |

営業費用は12,086千円の増加となっているが、これは、職員給与費23,959千円、退職給与金14,742千円の減があったものの、経費15,946千円、減価償却費28,742千円などの増があったためである。

営業外費用は5,680千円の減少となっているが、これは、雑支出1,053千円の増があったものの、支払利息及び企業債取扱諸費6,734千円の減があったためである。

総費用では6,405千円（0.5%）増加し1,224,067千円となった。

(3) 損益の状況

損益の状況について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | 2 1 年 度 | 対前年度比較 | |
|-------------|---------------|---------------|--------------|-------|
| | | | 増 減 額 | 増減率 |
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 営業収益 A | 980,700,835 | 980,275,960 | 424,875 | 0.0 |
| 営業費用 B | 1,183,017,874 | 1,170,931,639 | 12,086,235 | 1.0 |
| 営業損益 A-B | △202,317,039 | △190,655,679 | △11,661,360 | 6.1 |
| 営業外収益 C | 280,596,773 | 234,951,339 | 45,645,434 | 19.4 |
| 営業外費用 D | 41,049,200 | 46,730,084 | △5,680,884 | △12.2 |
| 営業外損益 C-D | 239,547,573 | 188,221,255 | 51,326,318 | 27.3 |
| 経常収益 E=A+C | 1,261,297,608 | 1,215,227,299 | 46,070,309 | 3.8 |
| 経常費用 F=B+D | 1,224,067,074 | 1,217,661,723 | 6,405,351 | 0.5 |
| 経常損益 E-F | 37,230,534 | △2,434,424 | 39,664,958 | 激増 |
| 特別利益 G | 118,000,000 | 70,000,000 | 48,000,000 | 68.6 |
| 特別損失 H | — | — | — | — |
| 特別損益 G-H | 118,000,000 | 70,000,000 | 48,000,000 | 68.6 |
| 総収益 I=A+C+G | 1,379,297,608 | 1,285,227,299 | 94,070,309 | 7.3 |
| 総費用 J=B+D+H | 1,224,067,074 | 1,217,661,723 | 6,405,351 | 0.5 |
| 純損益 I-J | 155,230,534 | 67,565,576 | 87,664,958 | 129.7 |
| 当年度未処理欠損金 | 2,095,012,725 | 2,250,243,259 | △155,230,534 | △6.9 |

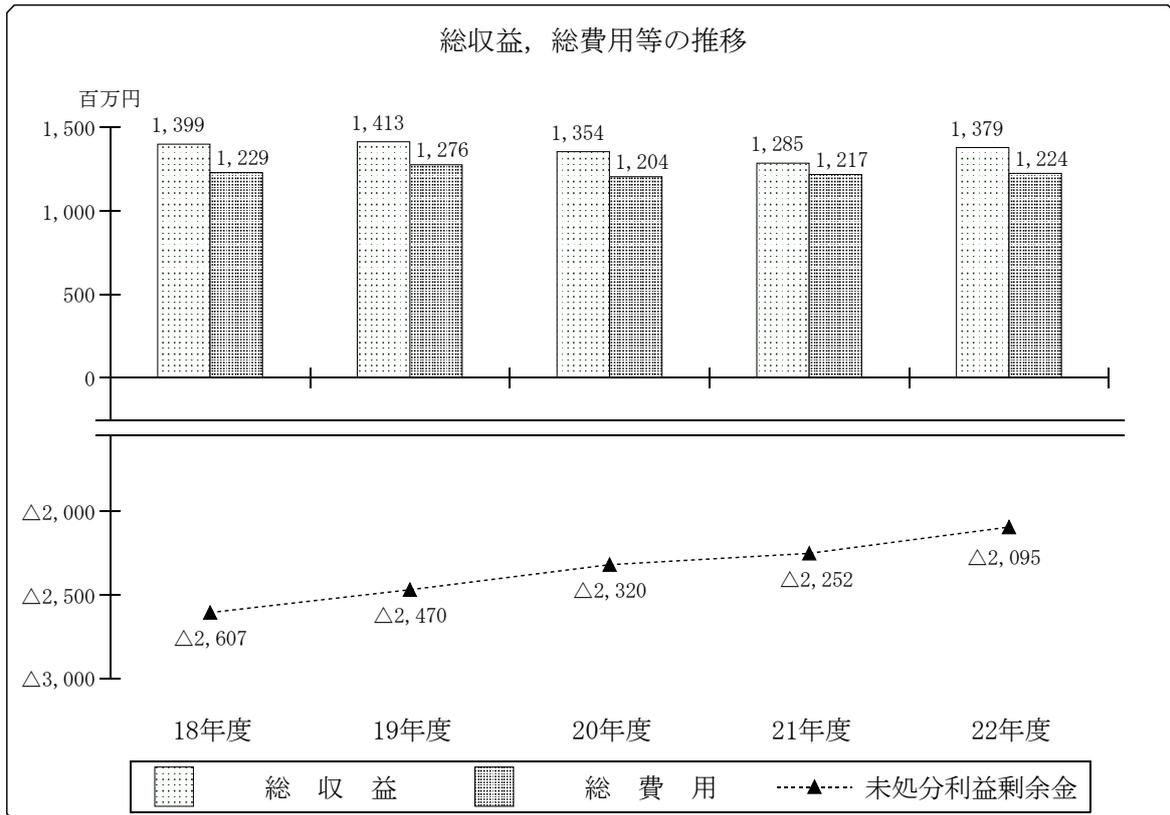
営業損益は202,317千円の損失となっており、損失が11,661千円（6.1%）増加しているが、これは、営業費用における線路保存費の増などによるものである。

営業外損益は239,547千円の利益となっており、利益が51,326千円（27.3%）増加しているが、これは、営業外収益における他会計補助金の増などによるものである。

このため、経常損益は37,230千円の利益となり、利益が大幅に改善している。

特別損益は118,000千円の利益となっており、利益が48,000千円増加しているが、これは、特別利益における他会計補助金（バス事業債務解消分）の増によるものである。

この結果、利益が87,664千円（129.7%）増加し、純損益は155,230千円の利益となったことから、当年度未処理欠損金は2,095,012千円となっている。



これら損益の状況を収支比率等の推移で見ると、次のとおりである。

| 項 目 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 備 考 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| 営業収支比率 | 92.8 | 88.7 | 90.3 | 83.7 | 82.9 | $\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$ |
| 経常収支比率 | 108.2 | 105.3 | 106.6 | 99.8 | 103.0 | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ |
| 総収支比率 | 113.9 | 110.7 | 112.5 | 105.5 | 112.7 | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ |
| 総資本利益率 | 7.8 | 6.3 | 7.2 | 3.0 | 6.8 | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ |

営業収支比率は、損失が発生していることから100%以下で推移している。

経常収支比率は、損失が発生した平成21年度を除き100%以上で推移している。

総収支比率は、利益が発生していることから100%以上で推移している。

総資本利益率は、純利益が発生していることからプラスで推移している。

(4) 単位当たり経常収支

当事業における走行キロ1km当たりの経常収支の推移は、次のとおりである。

(単位：円)

| 項 目 | | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|--------------|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 経常 収 益 | 運 輸 収 益 | 933 | 921 | 883 | 837 | 922 |
| | 負 担 金 ・ 補 助 金 | 219 | 240 | 218 | 206 | 276 |
| | そ の 他 | 46 | 44 | 50 | 48 | 58 |
| | 計 | 1,198 | 1,206 | 1,151 | 1,091 | 1,257 |
| 経常 費 用 | 人 件 費 | 571 | 610 | 546 | 593 | 620 |
| | 経 費 | 355 | 338 | 350 | 330 | 382 |
| | 減 価 償 却 費 | 123 | 137 | 131 | 127 | 176 |
| | 支 払 利 息 | 51 | 53 | 45 | 35 | 32 |
| | そ の 他 | 8 | 7 | 7 | 7 | 9 |
| 計 | 1,108 | 1,145 | 1,079 | 1,093 | 1,219 | |
| 経 常 損 益 | | 91 | 60 | 72 | △2 | 38 |

- (注) 1 受託工事収益、受託工事費は除く。
2 負担金・補助金＝一般会計繰入分
3 人件費＝職員給与費＋退職給与金
4 減価償却費＝減価償却費＋固定資産除却費

走行キロ1km当たりの経常収支は、平成21年度に赤字に陥ったものの、平成22年度において再び黒字に転じた。

(5) 函館市交通事業経営計画の実施状況

当年度における事業の状況について、平成22年3月策定の「函館市交通事業経営計画（第2次）」（以下「経営計画」という。）と比較すると次のとおりである。

○事業規模

| 区 分 | 経営計画 A | 実績 B | 増減B-A |
|-----------------|--------|--------|-------|
| 1日当たり走行キロ数 (km) | 2,735 | 2,750 | 15 |
| 1日当たり乗車人員 (人) | 16,298 | 15,988 | △310 |
| 車両数 (台) | 32 | 32 | 0 |
| 職員数 (人) | 109 | 109 | 0 |
| 一般職 (人) | 69 | 69 | 0 |
| 嘱託職員等 (人) | 40 | 40 | 0 |

○財政状況（税込み）

（単位：百万円）

| 区 分 | 経営計画 A | 決算 B | 増減B-A |
|------------------|--------|--------|-------|
| 収益的収入 | 1,423 | 1,420 | △3 |
| 営業収益 | 1,012 | 1,022 | 10 |
| 営業外収益 | 293 | 280 | △13 |
| 特別利益 | 118 | 118 | 0 |
| 収益的支出 | 1,305 | 1,262 | △43 |
| 営業費用 | 1,230 | 1,201 | △29 |
| 営業外費用 | 75 | 61 | △14 |
| 収益的収支差引 | 118 | 158 | 40 |
| 資本的収入 | 163 | 152 | △11 |
| 資本的支出 | 298 | 296 | △2 |
| 資本的収支差引 | △135 | △144 | △9 |
| 補てん財源 | 166 | 176 | 10 |
| 当年度運転資金過不足額 | 149 | 190 | 41 |
| 前年度末運転資金残額(△不足額) | △1,171 | △1,169 | 2 |
| 当年度末運転資金残額(△不足額) | △1,023 | △979 | 44 |

収益的収支差引については、1日当たり乗車人員が経営計画を下回っているものの、営業収益が増となっていることに加え、営業費用および営業外費用が減となっていることから、経営計画の数値を上回っている。

なお、運転資金残額（不良債務）については経営計画の数値より減少している。

4 財政状態

(1) 資産、負債および資本

資産、負債および資本について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | 対前年度比較 | |
|-------|---------------|-------|---------------|-------|--------------|-------|
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | 増 減 額 | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 資 産 | 2,238,545,559 | 100.0 | 2,350,438,946 | 100.0 | △111,893,387 | △4.8 |
| 固定資産 | 2,133,162,221 | 95.3 | 2,196,863,356 | 93.5 | △63,701,135 | △2.9 |
| 流動資産 | 105,383,338 | 4.7 | 153,575,590 | 6.5 | △48,192,252 | △31.4 |
| 負債・資本 | 2,238,545,559 | 100.0 | 2,350,438,946 | 100.0 | △111,893,387 | △4.8 |
| 流動負債 | 1,084,877,316 | 48.5 | 1,323,096,812 | 56.3 | △238,219,496 | △18.0 |
| 資本金 | 1,716,037,261 | 76.7 | 1,818,817,876 | 77.4 | △102,780,615 | △5.7 |
| 自己資本金 | 382,656,904 | 17.1 | 382,656,904 | 16.3 | 0 | 0.0 |
| 借入資本金 | 1,333,380,357 | 59.6 | 1,436,160,972 | 61.1 | △102,780,615 | △7.2 |
| 剰余金 | △562,369,018 | △25.1 | △791,475,742 | △33.7 | 229,106,724 | △28.9 |

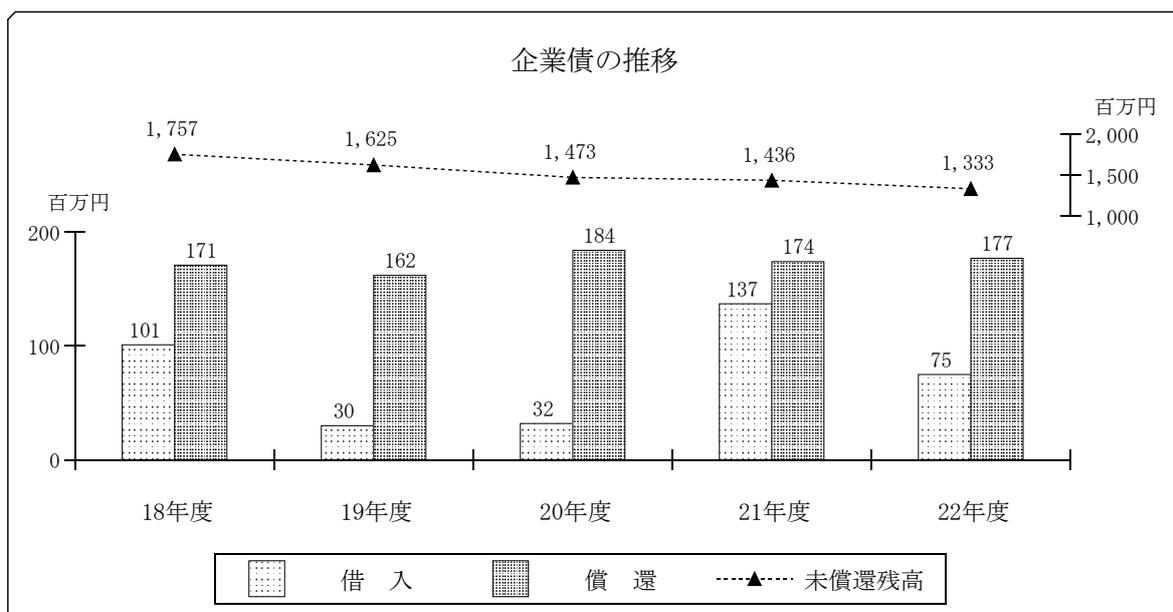
固定資産は63,701千円の減少となっているが、これは、建設改良費113,116千円の増があったものの、減価償却および除却による176,817千円の減があったためである。

流動資産は48,192千円の減少となっているが、これは、未収金53,016千円の減などによるものである。

流動負債は238,219千円の減少となっているが、これは、一時借入金250,000千円の減などによるものである。

資本金は102,780千円の減少となっているが、これは、借入資本金において、新たに企業債75,100千円を借り入れたものの177,880千円を償還したためである。

剰余金は229,106千円の増加となっているが、これは、資本剰余金71,441千円の増に加え、当年度未処理欠損金157,664千円の減があったためである。



また、財政状態に関する主な財務比率の推移は、次のとおりである。

| 項 目 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 備 考 |
|-----------------|-----------|----------|----------|-----------|----------|--|
| 流 動 比 率 | % 11.0 | % 5.5 | % 9.5 | % 11.6 | % 9.7 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ |
| 固 定 長 期 適 合 率 | 623.4 | 395.2 | 283.7 | 213.8 | 184.9 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{固定負債}} \times 100$ |
| 自 己 資 本 構 成 比 率 | △62.4 | △53.5 | △36.9 | △17.4 | △8.0 | $\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$ |
| 固 定 負 債 構 成 比 率 | 76.9 | 77.8 | 70.0 | 61.1 | 59.6 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$ |

- (注) 1 自己資本 = 自己資本金 + 剰余金
 2 固定負債 = 固定負債 + 借入資本金

流動比率は100%を大きく下回っており、引き続き資金不足となっていることを示している。

固定長期適合率は100%以上で推移しているが、下降傾向を示している。

自己資本構成比率はマイナスで推移しているが、上昇傾向を示している。

固定負債構成比率は70%台から50%台で推移し、下降傾向を示している。

(2) 資金運用および運転資金

資金運用および運転資金の状況は、次のとおりである。

資金運用表

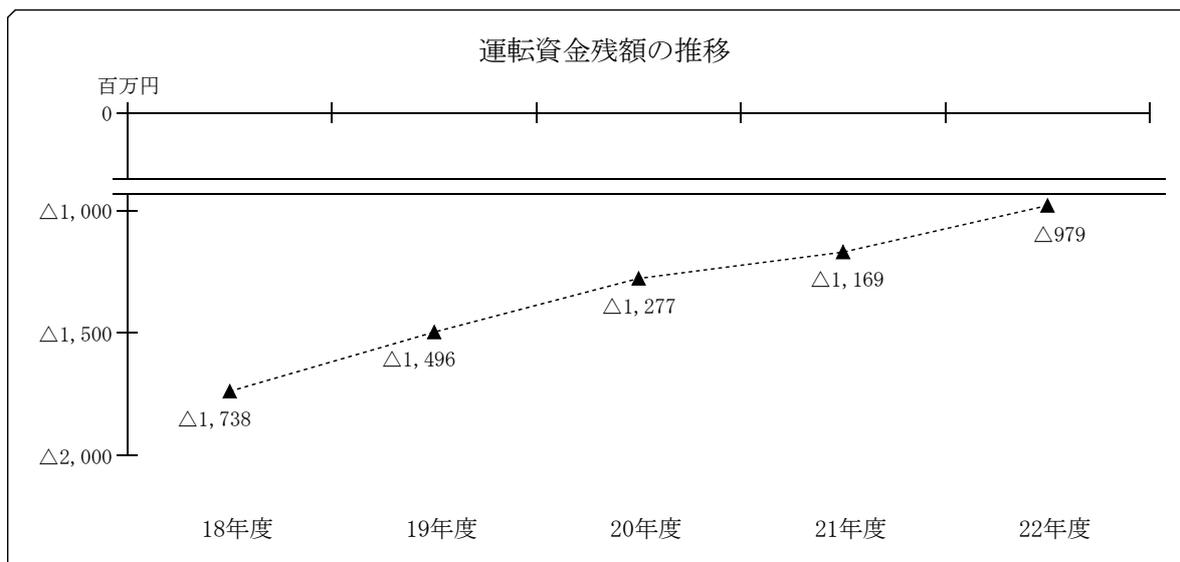
| 資 金 の 運 用 | | 資 金 の 源 泉 | |
|-------------|--------------|-------------|--------------|
| 円 | | 円 | |
| | | 当年度純利益 | 155,230,534 |
| | | 減価償却費 | 159,277,144 |
| | | 固定資産除却費 | 17,540,856 |
| | | 消費税及び地方消費税 | 1,640,362 |
| | | 資本的収支調整額 | |
| | | 小 計 | 333,688,896 |
| ----- | | ----- | |
| (収益的収支の資金剰余 | 333,688,896) | | |
| 建設改良費 | 118,451,037 | 企業債 | 75,100,000 |
| 企業債償還金 | 177,880,615 | 国庫補助金 | 17,500,000 |
| | | 他会計補助金 | 60,070,000 |
| | | 小 計 | 152,670,000 |
| | | (資本的収支の資金不足 | 143,661,652) |
| 小 計 | 296,331,652 | 小 計 | 152,670,000 |
| ----- | | ----- | |
| 運転資金の増加 | 190,027,244 | | |
| 計 | 486,358,896 | 計 | 486,358,896 |

運転資金明細表

| 科 目 | 2 2 年 度 | 2 1 年 度 | 運 転 資 金 | |
|-----------|---------------|----------------|-------------|------------|
| | | | 増 | 減 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 流 動 資 産 | 105,383,338 | 153,575,590 | | 48,192,252 |
| 現 金 預 金 | 18,475,005 | 25,868,927 | | 7,393,922 |
| 未 収 金 | 31,657,797 | 84,674,061 | | 53,016,264 |
| 貯 蔵 品 | 54,745,039 | 42,178,805 | 12,566,234 | |
| 前 払 費 用 | 505,497 | 581,437 | | 75,940 |
| 前 払 金 | 0 | 272,360 | | 272,360 |
| 流 動 負 債 | 1,084,877,316 | 1,323,096,812 | 238,219,496 | |
| 一 時 借 入 金 | 960,000,000 | 1,210,000,000 | 250,000,000 | |
| 未 払 金 | 114,069,576 | 100,577,802 | | 13,491,774 |
| 前 受 金 | 6,977,975 | 8,053,675 | 1,075,700 | |
| その他流動負債 | 3,829,765 | 4,465,335 | 635,570 | |
| 運 転 資 金 | △979,493,978 | △1,169,521,222 | 190,027,244 | |

当年度の資金運用の状況は、収益的収支で333,688千円の資金剰余、資本的収支で143,661千円の資金不足となっている。

この結果、当年度の運転資金は190,027千円増加し、当年度末における運転資金不足額（不良債務）は979,493千円となっている。



5 審査意見

これまで、交通事業会計決算の概要について述べてきたが、当年度の純損益は155,230千円の黒字を生じ、前年度繰越欠損金2,250,243千円があることから、当年度未処理欠損金は2,095,012千円となった。

当年度の純損益を前年度と比較すると、前年度の純損益は67,565千円の黒字であったので、87,664千円増益となっており引き続き黒字の状況を維持している。

この増益の要因は、営業外収益における他会計負担金などの増に加え、特別利益の増によるものである。

建設改良事業については、軌道改良工事のほか、安全地帯上屋設置工事などを実施した。

本市交通事業は、重要な都市施設として市民の生活に密着した最も身近な交通手段の一つであるとともに、高齢者、障がい者等交通弱者の足を守るため、さらには大気汚染や地球温暖化防止などの環境保全や観光都市としてのイメージアップを担うなど、多面的な機能を有している。

当年度は、前年度に引き続き利用者の利便性とサービスの向上を図るとともに、修学旅行生等の誘致営業活動、市電デザインを活用した商品販売など、各種増収対策にも努めている。

また、電車の運行に関しては、乗客のニーズを考慮し、始発時刻の繰上げや終発時刻の繰下げおよび運行間隔の見直しなど効率的な運行ダイヤに改正したところである。

しかしながら、電車沿線地区における人口や事業所の減による乗車人員の減少が影響し、事業経営の根幹である運輸収益の減少が続くなど、依然としてその事業経営は厳しい状況にある。

このため、今後の事業経営にあたっては、交通事業の使命である安全運行に努めることはもとより、平成22年3月策定の「函館市交通事業経営計画（第2次）」に基づく諸対策を着実に実行することにより、さらなる経営効率化、サービス向上による乗客の安定的な確保を図り、事業経営の健全化を達成されるよう要望する。

函館市病院事業会計

1 事業の概要

当年度の病院事業の業務状況は、次のとおりである。

| 項 目 | | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | 対前年度比較 | |
|---------------|---|-----------|-----------|-----------|--------|---------|
| | | 予 定 | 実 績 | 実 績 | 増 減 | 増減率 |
| 病 床 数 | 床 | 853 | 853 | 853 | 0 | 0.0 |
| 函 館 病 院 | 床 | 734 | 734 | 734 | 0 | 0.0 |
| 函 館 恵 山 病 院 | 床 | 60 | 60 | 60 | 0 | 0.0 |
| 函 館 南 茅 部 病 院 | 床 | 59 | 59 | 59 | 0 | 0.0 |
| 患 者 数 | 人 | 579,249 | 582,294 | 570,192 | 12,102 | 2.1 |
| 入 院 | 人 | 234,867 | 235,280 | 231,480 | 3,800 | 1.6 |
| (1日平均) | 人 | (643.5) | (644.6) | (634.2) | (10.4) | (1.6) |
| 新規入院数 | 人 | | 11,753 | 11,291 | 462 | 4.1 |
| 函 館 病 院 | 人 | 200,557 | 204,184 | 196,983 | 7,201 | 3.7 |
| (1日平均) | 人 | (549.5) | (559.4) | (539.7) | (19.7) | (3.7) |
| 新規入院数 | 人 | | 11,050 | 10,672 | 378 | 3.5 |
| 函 館 恵 山 病 院 | 人 | 20,805 | 19,576 | 21,055 | △1,479 | △7.0 |
| (1日平均) | 人 | (57.0) | (53.6) | (57.7) | (△4.1) | (△7.1) |
| 新規入院数 | 人 | | 174 | 180 | △6 | △3.3 |
| 函 館 南 茅 部 病 院 | 人 | 13,505 | 11,520 | 13,442 | △1,922 | △14.3 |
| (1日平均) | 人 | (37.0) | (31.6) | (36.8) | (△5.2) | (△14.1) |
| 新規入院数 | 人 | | 529 | 439 | 90 | 20.5 |
| 外 来 | 人 | 344,382 | 347,014 | 338,712 | 8,302 | 2.5 |
| (1日平均) | 人 | (1,412.3) | (1,423.0) | (1,394.7) | (28.3) | (2.0) |
| 函 館 病 院 | 人 | 292,380 | 297,203 | 287,271 | 9,932 | 3.5 |
| (1日平均) | 人 | (1,198.3) | (1,218.0) | (1,182.2) | (35.8) | (3.0) |
| 函 館 恵 山 病 院 | 人 | 22,356 | 20,790 | 21,881 | △1,091 | △5.0 |
| (1日平均) | 人 | (92.0) | (85.6) | (90.4) | (△4.8) | (△5.3) |
| 函 館 南 茅 部 病 院 | 人 | 29,646 | 29,021 | 29,560 | △539 | △1.8 |
| (1日平均) | 人 | (122.0) | (119.4) | (122.1) | (△2.7) | (△2.2) |
| 病 床 利 用 率 | % | 75.4 | 75.6 | 74.3 | 1.3 | — |
| 函 館 病 院 | % | 74.9 | 76.2 | 73.5 | 2.7 | — |
| 函 館 恵 山 病 院 | % | 95.0 | 89.4 | 96.1 | △6.7 | — |
| 函 館 南 茅 部 病 院 | % | 62.7 | 53.5 | 62.4 | △8.9 | — |

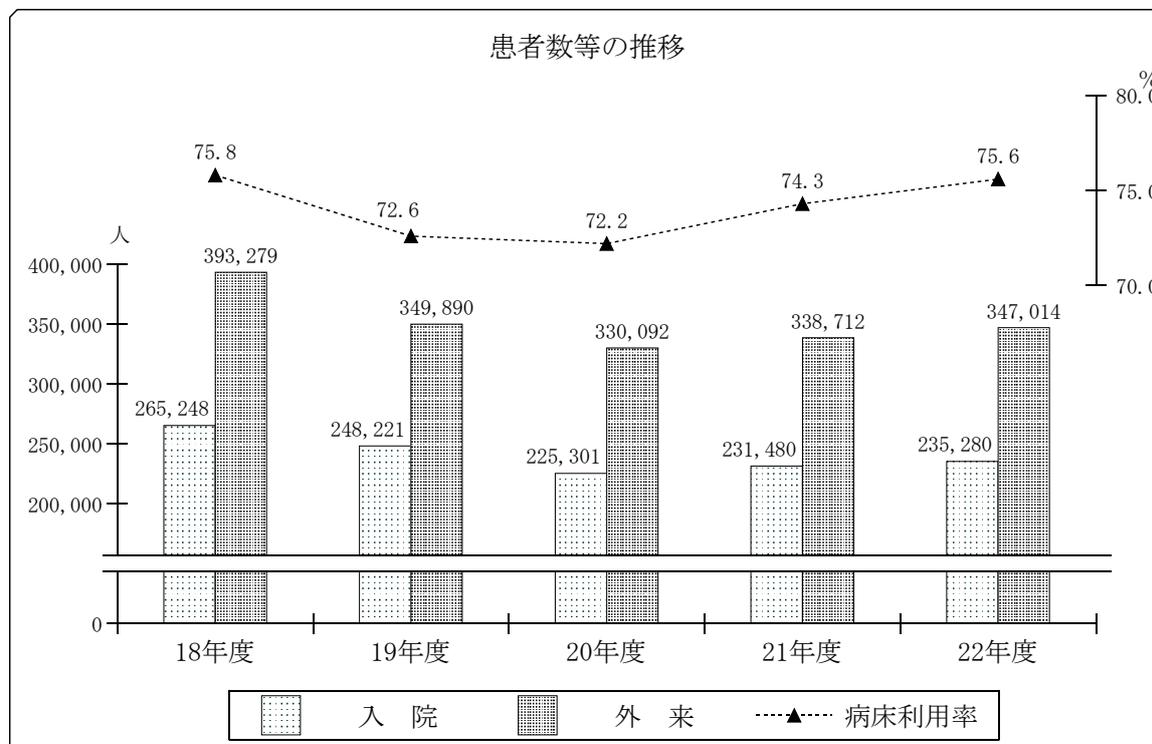
当年度の患者数は、予定数を上回る582,294人となり、前年度に比べ12,102人（2.1%）増加している。

これは、函館病院において、入院で7,201人（3.7%）、外来で9,932人（3.5%）増加したことによるものである。

なお、新規入院患者数は11,753人となっており、前年度に比べ462人（4.1%）増加し、病床利用率は予定を上回る75.6%となり、前年度に比べ1.3ポイント増加している。

また、当年度の建設改良事業の主なものは、次のとおりである。

| 内 容 | 実 績 |
|--------------------|-----|
| 医療用器械整備 人工呼吸器整備 | 1 式 |



2 予算の執行状況

当年度の予算の執行状況は、次のとおりである。

(1) 収益的収入及び支出

収 入

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 対予算増減額 | 対予算比率 |
|-----------|----------------|----------------|-------------|-------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 病院事業収益 | 17,780,454,000 | 18,296,030,787 | 515,576,787 | 102.9 |
| 函館病院医業収益 | 14,564,138,000 | 15,047,972,892 | 483,834,892 | 103.3 |
| 恵山病院医業収益 | 531,351,000 | 532,719,696 | 1,368,696 | 100.3 |
| 南茅部病院医業収益 | 382,678,000 | 397,111,757 | 14,433,757 | 103.8 |
| 高等看護学院収益 | 71,079,000 | 72,106,800 | 1,027,800 | 101.4 |
| 医業外収益 | 1,951,206,000 | 1,965,640,105 | 14,434,105 | 100.7 |
| 特別利益 | 280,002,000 | 280,479,537 | 477,537 | 100.2 |

支 出

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 不 用 額 | 対 予 算 比 率 |
|-------------|----------------|----------------|-------------|-----------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 病 院 事 業 費 用 | 18,157,028,000 | 17,889,089,333 | 267,938,667 | 98.5 |
| 函館病院医業費用 | 15,949,763,000 | 15,724,327,771 | 225,435,229 | 98.6 |
| 恵山病院医業費用 | 739,990,000 | 723,383,760 | 16,606,240 | 97.8 |
| 南茅部病院医業費用 | 596,728,000 | 587,612,120 | 9,115,880 | 98.5 |
| 高等看護学院費用 | 143,771,311 | 141,862,238 | 1,909,073 | 98.7 |
| 医 業 外 費 用 | 625,980,000 | 603,176,046 | 22,803,954 | 96.4 |
| 特 別 損 失 | 89,532,398 | 108,727,398 | △19,195,000 | 121.4 |
| 予 備 費 | 11,263,291 | — | 11,263,291 | — |

決算額について、予算現額と比較すると次のとおりである。

函館病院医業収益は483,834千円の増収となっているが、これは、その他医業収益11,880千円の減があったものの、入院収益466,516千円、外来収益29,198千円の増があったためである。

恵山病院医業収益は1,368千円の増収となっているが、これは、外来収益7,860千円の減があったものの、入院収益6,679千円、その他医業収益2,549千円の増があったためである。

南茅部病院医業収益は14,433千円の増収となっているが、これは、外来収益13,919千円の増などによるものである。

高等看護学院収益は1,027千円の増収となっているが、これは、授業料1,812千円の減があったものの、入学検定料2,840千円の増があったためである。

医業外収益は14,434千円の増収となっているが、これは、その他医業外収益14,773千円の増などによるものである。

函館病院医業費用は225,435千円の不用額を生じているが、これは、給与費167,561千円、経費15,101千円、研究研修費33,298千円などの減によるものである。

恵山病院医業費用は16,606千円の不用額を生じているが、これは、経費11,479千円などの減によるものである。

南茅部病院医業費用は9,115千円の不用額を生じているが、これは、経費5,566千円の減などによるものである。

高等看護学院費用は1,909千円の不用額を生じているが、これは、給与費1,831千円などの減によるものである。

医業外費用は22,803千円の不用額を生じているが、これは、支払利息及び企業債取扱諸費22,933千円の減などによるものである。

(2) 資本的収入及び支出

収 入

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 対 予 算 増 減 額 | 対 予 算 比 率 |
|-----------------|-------------|-------------|-------------|-----------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 資 本 的 収 入 | 939,185,000 | 946,926,351 | 7,741,351 | 100.8 |
| 他 会 計 負 担 金 | 938,585,000 | 938,606,351 | 21,351 | 100.0 |
| 補 助 金 | — | 2,160,000 | 2,160,000 | 皆増 |
| 貸 付 返 還 金 | 600,000 | 3,010,000 | 2,410,000 | 501.7 |
| 固 定 資 産 売 却 代 金 | — | 3,150,000 | 3,150,000 | 皆増 |

支 出

| 科 目 | 予 算 現 額 | 決 算 額 | 不 用 額 | 対 予 算 比 率 |
|-------------|---------------|---------------|-----------|-----------|
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 資 本 的 支 出 | 1,567,948,000 | 1,564,726,952 | 3,221,048 | 99.8 |
| 建 設 改 良 費 | 5,460,000 | 4,940,250 | 519,750 | 90.5 |
| 企 業 債 償 還 金 | 1,509,688,000 | 1,509,686,702 | 1,298 | 100.0 |
| 投 資 | 52,800,000 | 50,100,000 | 2,700,000 | 94.9 |

収 支 差 引

| | |
|------------|---------------|
| 資本的収支資金不足額 | 617,800,601 円 |
|------------|---------------|

決算額について、予算現額と比較すると次のとおりである。

補助金は2,160千円の皆増となっているが、これは、建設改良費の増によるものである。

貸付返還金は2,410千円の増収となっているが、これは、修学資金貸付金返還金の増によるものである。

固定資産売却代金は3,150千円の皆増となっているが、これは、医療器械の売却代金の増によるものである。

建設改良費は519千円の不用額を生じているが、これは、その他器械備品費の減によるものである。

投資は2,700千円の不用額を生じているが、これは、修学資金貸付金の減によるものである。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額617,800千円は、一時借入金で措置している。

3 経営成績

(1) 収益

収益について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 22年度 | | 21年度 | | 対前年度比較 | |
|-----------|----------------|-------|----------------|-------|---------------|------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 函館病院医業収益 | 15,035,874,950 | 82.3 | 14,114,203,757 | 83.4 | 921,671,193 | 6.5 |
| 入院収益 | 11,610,979,947 | 63.5 | 10,944,238,685 | 64.7 | 666,741,262 | 6.1 |
| 外来収益 | 3,224,303,800 | 17.6 | 2,976,262,067 | 17.6 | 248,041,733 | 8.3 |
| その他医業収益 | 200,591,203 | 1.1 | 193,703,005 | 1.1 | 6,888,198 | 3.6 |
| 恵山病院医業収益 | 532,246,299 | 2.9 | 523,171,782 | 3.1 | 9,074,517 | 1.7 |
| 入院収益 | 424,419,443 | 2.3 | 421,261,631 | 2.5 | 3,157,812 | 0.7 |
| 外来収益 | 97,090,570 | 0.5 | 91,859,894 | 0.5 | 5,230,676 | 5.7 |
| その他医業収益 | 10,736,286 | 0.1 | 10,050,257 | 0.1 | 686,029 | 6.8 |
| 南茅部病院医業収益 | 396,612,753 | 2.2 | 393,330,392 | 2.3 | 3,282,361 | 0.8 |
| 入院収益 | 252,218,234 | 1.4 | 258,496,519 | 1.5 | △6,278,285 | △2.4 |
| 外来収益 | 134,661,414 | 0.7 | 124,538,654 | 0.7 | 10,122,760 | 8.1 |
| その他医業収益 | 9,733,105 | 0.1 | 10,295,219 | 0.1 | △562,114 | △5.5 |
| 高等看護学院収益 | 72,106,800 | 0.4 | 63,568,000 | 0.4 | 8,538,800 | 13.4 |
| 医業外収益 | 1,960,543,397 | 10.7 | 1,822,689,998 | 10.8 | 137,853,399 | 7.6 |
| 特別利益 | 280,460,760 | 1.5 | 195,682 | 0.0 | 280,265,078 | 激增 |
| 総収益 | 18,277,844,959 | 100.0 | 16,917,159,611 | 100.0 | 1,360,685,348 | 8.0 |

函館病院医業収益は921,671千円の増収となっているが、これは、入院収益666,741千円、外来収益248,041千円などの増によるものである。

恵山病院医業収益は9,074千円の増収となっているが、これは、外来収益5,230千円などの増によるものである。

南茅部病院医業収益は3,282千円の増収となっているが、これは、入院収益6,278千円などの減があったものの、外来収益10,122千円の増があったためである。

高等看護学院収益は8,538千円の増収となっているが、これは、授業料5,898千円、入学検定料2,640千円の増によるものである。

医業外収益は137,853千円の増収となっているが、これは、その他医業外収益18,861千円などの減があったものの、他会計負担金46,641千円、他会計補助金95,781千円、補助金14,338千円の増があったためである。

特別利益は280,265千円の増収となっているが、これは、他会計補助金280,000千円の皆増などによるものである。

総収益では1,360,685千円（8.0%）増加し18,277,844千円となった。

(2) 費用

費用について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | 対前年度比較 | |
|-----------|----------------|-------|----------------|-------|--------------|-------|
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | 増 減 額 | 増減率 |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 函館病院医業費用 | 15,402,644,318 | 86.2 | 15,690,525,609 | 86.6 | △287,881,291 | △1.8 |
| 職員給与費 | 7,106,300,194 | 39.8 | 6,911,939,522 | 38.2 | 194,360,672 | 2.8 |
| 退職給与金 | 328,664,991 | 1.8 | 444,044,111 | 2.5 | △115,379,120 | △26.0 |
| 材料費 | 4,120,491,767 | 23.1 | 4,426,556,612 | 24.4 | △306,064,845 | △6.9 |
| 経費 | 2,469,008,794 | 13.8 | 2,485,930,625 | 13.7 | △16,921,831 | △0.7 |
| 減価償却費 | 1,324,645,905 | 7.4 | 1,358,801,364 | 7.5 | △34,155,459 | △2.5 |
| 資産減耗費 | 827,000 | 0.0 | 10,263,001 | 0.1 | △9,436,001 | △91.9 |
| 研究研修費 | 52,705,667 | 0.3 | 52,990,374 | 0.3 | △284,707 | △0.5 |
| 恵山病院医業費用 | 714,489,934 | 4.0 | 674,280,070 | 3.7 | 40,209,864 | 6.0 |
| 職員給与費 | 444,409,445 | 2.5 | 420,776,280 | 2.3 | 23,633,165 | 5.6 |
| 退職給与金 | 33,358,589 | 0.2 | 13,642,372 | 0.1 | 19,716,217 | 144.5 |
| 材料費 | 71,701,291 | 0.4 | 59,908,406 | 0.3 | 11,792,885 | 19.7 |
| 経費 | 106,832,763 | 0.6 | 107,977,069 | 0.6 | △1,144,306 | △1.1 |
| 減価償却費 | 57,372,661 | 0.3 | 69,846,987 | 0.4 | △12,474,326 | △17.9 |
| 資産減耗費 | — | 0.0 | 624,775 | 0.0 | △624,775 | 皆減 |
| 研究研修費 | 815,185 | 0.0 | 1,504,181 | 0.0 | △688,996 | △45.8 |
| 南茅部病院医業費用 | 578,919,787 | 3.2 | 577,369,128 | 3.2 | 1,550,659 | 0.3 |
| 職員給与費 | 356,045,642 | 2.0 | 350,623,431 | 1.9 | 5,422,211 | 1.5 |
| 材料費 | 78,963,331 | 0.4 | 75,941,778 | 0.4 | 3,021,553 | 4.0 |
| 経費 | 118,334,431 | 0.7 | 113,574,590 | 0.6 | 4,759,841 | 4.2 |
| 減価償却費 | 23,786,495 | 0.1 | 28,850,637 | 0.2 | △5,064,142 | △17.6 |
| 資産減耗費 | 195,700 | 0.0 | 6,565,350 | 0.0 | △6,369,650 | △97.0 |
| 研究研修費 | 1,594,188 | 0.0 | 1,813,342 | 0.0 | △219,154 | △12.1 |
| 高等看護学院費用 | 140,939,832 | 0.8 | 130,716,348 | 0.7 | 10,223,484 | 7.8 |
| 医業外費用 | 925,361,156 | 5.2 | 970,039,348 | 5.4 | △44,678,192 | △4.6 |
| 特別損失 | 108,625,016 | 0.6 | 72,748,928 | 0.4 | 35,876,088 | 49.3 |
| 総費用 | 17,870,980,043 | 100.0 | 18,115,679,431 | 100.0 | △244,699,388 | △1.4 |

函館病院医業費用は287,881千円の減少となっているが、これは、職員給与費194,360千円の増があったものの、退職給与金115,379千円、材料費306,064千円、経費16,921千円、減価償却費34,155千円などの減があったためである。

恵山病院医業費用は40,209千円の増加となっているが、これは、減価償却費12,474千円などの減があったものの、職員給与費23,633千円、退職給与金19,716千円、材料費11,792千円の増があったためである。

南茅部病院医業費用は1,550千円の増加となっているが、これは、減価償却費5,064千円、資産減耗費6,369千円などの減があったものの、職員給与費5,422千円、材料費3,021千円、経費4,759千円などの増があったためである。

高等看護学院費用は10,223千円の増加となっているが、これは、給与費8,760千円の増などに

よるものである。

医業外費用は44,678千円の減少となっているが、これは、支払利息及び企業債取扱諸費30,356千円、雑損失13,388千円などの減によるものである。

特別損失は35,876千円の増加となっているが、これは、修学資金貸付金返還義務消滅額15,600千円、過年度損益修正損17,281千円などの増によるものである。

総費用では244,699千円（1.4%）減少し17,870,980千円となった。

(3) 損益の状況

損益の状況について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | 2 1 年 度 | 対前年度比較 | |
|---------------|----------------|----------------|---------------|--------|
| | | | 増 減 額 | 増減率 |
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 医 業 収 益 A | 15,964,734,002 | 15,030,705,931 | 934,028,071 | 6.2 |
| 医 業 費 用 B | 16,696,054,039 | 16,942,174,807 | △246,120,768 | △1.5 |
| 医 業 損 益 A-B | △731,320,037 | △1,911,468,876 | 1,180,148,839 | △61.7 |
| 医 業 外 収 益 C | 2,032,650,197 | 1,886,257,998 | 146,392,199 | 7.8 |
| 医 業 外 費 用 D | 1,066,300,988 | 1,100,755,696 | △34,454,708 | △3.1 |
| 医 業 外 損 益 C-D | 966,349,209 | 785,502,302 | 180,846,907 | 23.0 |
| 経 常 収 益 E=A+C | 17,997,384,199 | 16,916,963,929 | 1,080,420,270 | 6.4 |
| 経 常 費 用 F=B+D | 17,762,355,027 | 18,042,930,503 | △280,575,476 | △1.6 |
| 経 常 損 益 E-F | 235,029,172 | △1,125,966,574 | 1,360,995,746 | △120.9 |
| 特 別 利 益 G | 280,460,760 | 195,682 | 280,265,078 | 激増 |
| 特 別 損 失 H | 108,625,016 | 72,748,928 | 35,876,088 | 49.3 |
| 特 別 損 益 G-H | 171,835,744 | △72,553,246 | 244,388,990 | △336.8 |
| 総 収 益 I=A+C+G | 18,277,844,959 | 16,917,159,611 | 1,360,685,348 | 8.0 |
| 総 費 用 J=B+D+H | 17,870,980,043 | 18,115,679,431 | △244,699,388 | △1.4 |
| 純 損 益 I-J | 406,864,916 | △1,198,519,820 | 1,605,384,736 | △133.9 |
| 当年度未処理欠損金 | 11,174,601,721 | 11,581,466,637 | △406,864,916 | △3.5 |

(注) 1 医業外収益には高等看護学院収益を、医業外費用には高等看護学院費用を含む。

2 当年度未処理欠損金の21年度の額は、翌年度繰越欠損金である。

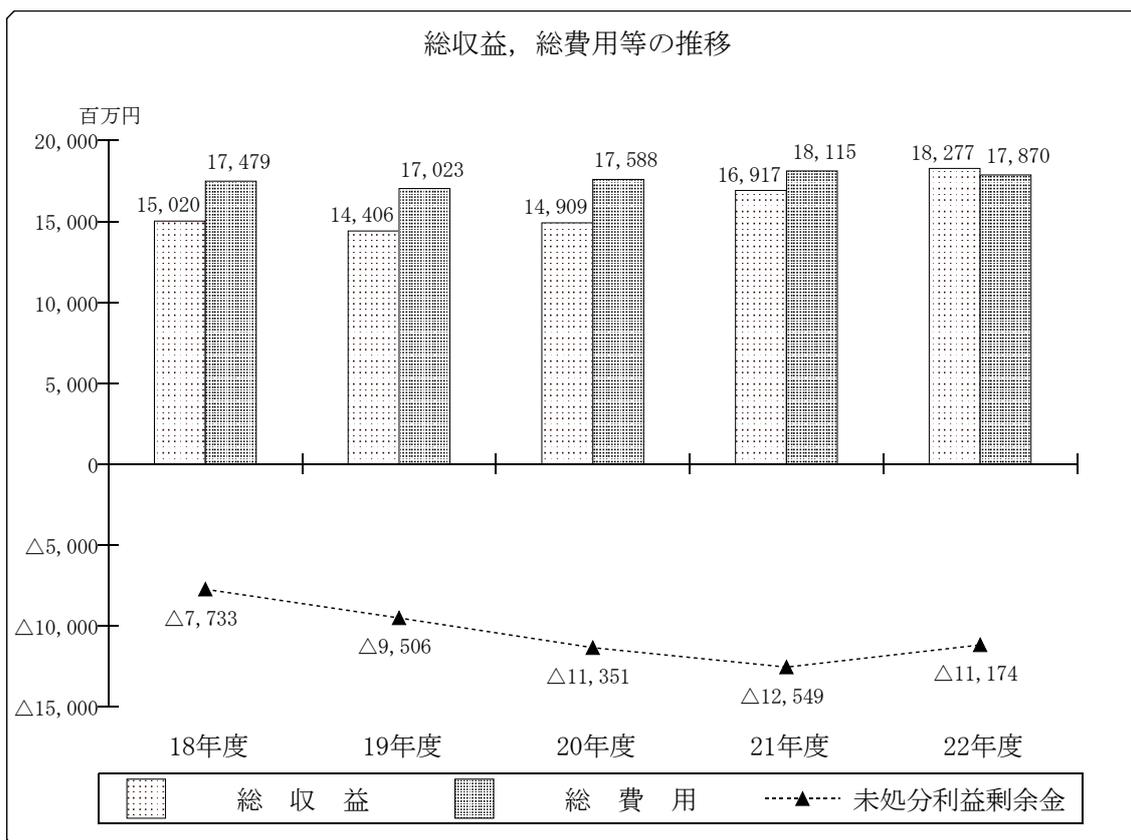
医業損益は731,320千円の損失となっており、損失が1,180,148千円（61.7%）減少しているが、これは、函館病院医業収益における入院収益、外来収益の増などによるものである。

医業外損益は966,349千円の利益となっており、利益が180,846千円（23.0%）増加しているが、これは、医業外収益における他会計負担金、他会計補助金の増などによるものである。

このため、経常損益は235,029千円の利益となり、利益が1,360,995千円（120.9%）増加している。

特別損益は171,835千円の利益となっており、利益が244,388千円（336.8%）増加しているが、これは、他会計補助金の皆増などによるものである。

この結果、利益が1,605,384千円（133.9%）増加し、純損益は406,864千円の利益となったことから、当年度未処理欠損金は11,174,601千円となっている。



これら損益の状況を収支比率等の推移で見ると、次のとおりである。

| 項 目 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 備 考 |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---|
| 医業収支比率 | % 82.1 | % 81.8 | % 82.0 | % 88.7 | % 95.6 | $\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$ |
| 経常収支比率 | 84.8 | 84.9 | 85.2 | 93.8 | 101.3 | $\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$ |
| 総収支比率 | 85.9 | 84.6 | 84.8 | 93.4 | 102.3 | $\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$ |
| 総資本利益率 | △8.1 | △8.9 | △9.4 | △4.4 | 1.6 | $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ |

医業収支比率は、損失が発生していることから100%以下で推移している。

経常収支比率、総収支比率は100%以下で推移してきたが、平成22年度に利益が発生し100%を上回った。

総資本利益率は、純利益が発生したことからプラスとなった。

(4) 単位当たり経常収支

当事業における患者1人1日当たり経常収支の推移は、次のとおりである。

(単位：円)

| 項 目 | | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|--------------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 経常 収 益 | 入院・外来収益 | 19,823 | 21,317 | 23,767 | 25,985 | 27,037 |
| | （入院収益） | (36,332) | (39,035) | (46,204) | (50,216) | (52,226) |
| | （外来収益） | (8,689) | (8,748) | (8,452) | (9,426) | (9,959) |
| | その他医業収益 | 345 | 363 | 441 | 375 | 380 |
| | 負担金・補助金 | 1,642 | 1,890 | 2,025 | 2,784 | 2,970 |
| | そ の 他 | 439 | 515 | 611 | 524 | 520 |
| | 計 | 22,249 | 24,085 | 26,844 | 29,669 | 30,908 |
| 経常 費 用 | 人 件 費 | 11,776 | 13,032 | 14,613 | 14,448 | 14,382 |
| | 材 料 費 | 6,593 | 6,861 | 7,416 | 8,002 | 7,335 |
| | 経 費 | 4,101 | 4,448 | 4,901 | 4,778 | 4,656 |
| | 減価償却費 | 2,395 | 2,307 | 2,735 | 2,612 | 2,441 |
| | 支払利息 | 841 | 953 | 1,003 | 939 | 867 |
| | そ の 他 | 538 | 757 | 844 | 865 | 822 |
| | 計 | 26,243 | 28,357 | 31,514 | 31,643 | 30,504 |
| 経 常 損 益 | | △3,995 | △4,272 | △4,670 | △1,974 | 404 |

- (注) 1 負担金・補助金＝一般会計繰入分
 2 人件費＝職員給与費＋退職給与金
 3 減価償却費＝減価償却費＋資産減耗費

患者1人1日当たりの経常損益は、赤字で推移していたが、平成22年度に黒字に転じた。

(5) 函館市病院事業改革プランによる収支計画の実施状況

当年度における事業の状況について、平成21年3月策定の函館市病院事業改革プラン（以下「改革プラン」という。）による収支計画と比較すると次のとおりである。

○実施状況

（単位：人、％）

| 区 分 | 改革プラン A | | 実 績 B | | 増 減 B-A | |
|---------------|---------|-----------|---------|-----------|---------|--------|
| | 年 間 | (1日平均) | 年 間 | (1日平均) | 年 間 | (1日平均) |
| 患 者 数 | 572,191 | — | 582,294 | — | 10,103 | — |
| 入 院 | 230,663 | (631.9) | 235,280 | (644.6) | 4,617 | (12.7) |
| 函 館 病 院 | 199,994 | (547.9) | 204,184 | (559.4) | 4,190 | (11.5) |
| 函 館 恵 山 病 院 | 19,820 | (54.3) | 19,576 | (53.6) | △244 | (△0.7) |
| 函 館 南 茅 部 病 院 | 10,849 | (29.7) | 11,520 | (31.6) | 671 | (1.9) |
| 外 来 | 341,528 | (1,400.5) | 347,014 | (1,423.0) | 5,486 | (22.5) |
| 函 館 病 院 | 292,776 | (1,199.9) | 297,203 | (1,218.0) | 4,427 | (18.1) |
| 函 館 恵 山 病 院 | 20,391 | (83.9) | 20,790 | (85.6) | 399 | (1.7) |
| 函 館 南 茅 部 病 院 | 28,361 | (116.7) | 29,021 | (119.4) | 660 | (2.7) |
| 病 床 利 用 率 | 74.1 | — | 75.6 | — | 1.5 | — |
| 函 館 病 院 | 74.6 | | 76.2 | | 1.6 | |
| 函 館 恵 山 病 院 | 90.5 | | 89.4 | | △1.1 | |
| 函 館 南 茅 部 病 院 | 50.4 | | 53.5 | | 3.1 | |

○財政状況

（単位：百万円）

| 区 分 | 改革プラン A | 決 算 B | 増 減 B-A |
|-------------------------------|---------|--------|---------|
| 収 益 的 収 入 | 17,854 | 18,278 | 424 |
| 医 業 収 益 | 15,866 | 16,287 | 421 |
| 医 業 外 収 益 | 1,708 | 1,710 | 2 |
| 特 別 利 益 | 280 | 281 | 1 |
| 収 益 的 支 出 | 17,990 | 17,871 | △119 |
| 医 業 費 用 | 16,829 | 16,711 | △118 |
| 医 業 外 費 用 | 1,061 | 1,051 | △10 |
| 特 別 損 失 | 100 | 109 | 9 |
| 収 益 的 収 支 差 引 | △136 | 407 | 543 |
| 資 本 的 収 入 | 945 | 947 | 2 |
| 資 本 的 支 出 | 1,566 | 1,565 | △1 |
| 資 本 的 収 支 差 引 | △621 | △618 | 3 |
| 当 年 度 運 転 資 金 過 不 足 額 | 754 | 1,314 | 560 |
| 当 年 度 末 運 転 資 金 残 額 (△ 不 足 額) | △1,702 | △1,142 | 560 |

(注) 1 収益的収支は税抜き、資本的収支は税込みの数値である。

2 医業外収益には高等看護学院収益を、医業外費用には高等看護学院費用を含む。

実施状況において、患者数を改革プランと比較すると、入院患者、外来患者ともに上回っている状況にある。

財政状況においては、医業収益が増となり、医業費用が減となったため、収益的収支差引は、改革プランの数値を上回っている。

この結果、改革プランと比較すると、当年度末運転資金不足額（不良債務）は減少している。

4 財 政 状 態

(1) 資産、負債および資本

資産、負債および資本について、前年度と比較すると次のとおりである。

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | 対前年度比較 | |
|-------|----------------|-------|----------------|-------|----------------|-------|
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | 増 減 額 | 増減率 |
| 資 産 | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 資 産 | 25,099,008,761 | 100.0 | 26,506,379,465 | 100.0 | △1,407,370,704 | △5.3 |
| 固定資産 | 21,184,312,497 | 84.4 | 22,576,309,343 | 85.2 | △1,391,996,846 | △6.2 |
| 流動資産 | 3,129,461,342 | 12.5 | 3,059,930,892 | 11.5 | 69,530,450 | 2.3 |
| 繰延勘定 | 785,234,922 | 3.1 | 870,139,230 | 3.3 | △84,904,308 | △9.8 |
| 負債・資本 | 25,099,008,761 | 100.0 | 26,506,379,465 | 100.0 | △1,407,370,704 | △5.3 |
| 固定負債 | 3,226,100,000 | 12.9 | 3,226,100,000 | 12.2 | 0 | 0.0 |
| 流動負債 | 4,271,535,494 | 17.0 | 5,515,889,243 | 20.8 | △1,244,353,749 | △22.6 |
| 資本金 | 25,020,860,327 | 99.7 | 26,530,547,029 | 100.1 | △1,509,686,702 | △5.7 |
| 自己資本金 | 2,799,167,981 | 11.2 | 2,799,167,981 | 10.6 | 0 | 0.0 |
| 借入資本金 | 22,221,692,346 | 88.5 | 23,731,379,048 | 89.5 | △1,509,686,702 | △6.4 |
| 剰余金 | △7,419,487,060 | △29.6 | △8,766,156,807 | △33.1 | 1,346,669,747 | △15.4 |

固定資産は1,391,996千円の減少となっているが、これは、修学資金貸付金50,100千円などの増があったものの、減価償却および除却による1,421,596千円などの減があったためである。

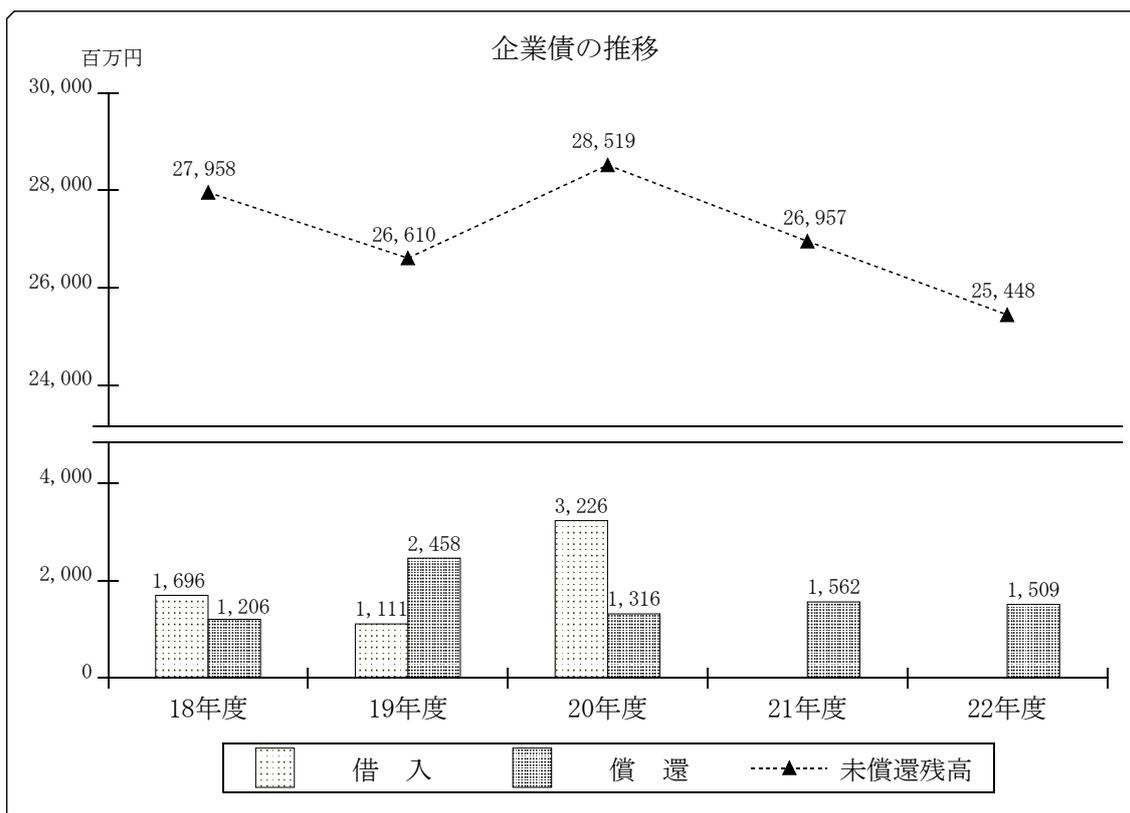
流動資産は69,530千円の増加となっているが、これは、現金預金1,184千円の減があったものの未収金69,718千円などの増があったためである。

繰延勘定は84,904千円の減少となっているが、これは、消費税において資本的支出に係わる控除対象外消費税額229千円を新たに繰り延べしたものの85,134千円を償却したためである。

流動負債は1,244,353千円の減少となっているが、これは、その他流動負債1,845千円の増があったものの、一時借入金1,210,000千円などの減があったためである。

資本金は1,509,686千円の減少となっているが、これは、借入資本金において、企業債を償還したためである。

剰余金は1,346,669千円の増加となっているが、これは、資本剰余金28,462千円の減があったものの、当年度未処理欠損金1,375,132千円の減があったためである。



(注) 企業債は、固定負債と借入資本金である。

また、財政状態に関する主な財務比率の推移は、次のとおりである。

| 項 目 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 備 考 |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--|
| 流 動 比 率 | % 72.8 | % 42.9 | % 58.1 | % 55.5 | % 73.3 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ |
| 固 定 長 期 適 合 率 | 100.0 | 112.4 | 105.4 | 107.6 | 101.7 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本} + \text{固定負債}} \times 100$ |
| 自 己 資 本 構 成 比 率 | △7.6 | △13.7 | △21.1 | △22.5 | △18.4 | $\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$ |
| 固 定 負 債 構 成 比 率 | 94.3 | 90.8 | 102.4 | 101.7 | 101.4 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$ |

(注) 1 自己資本＝自己資本金＋剰余金
2 固定負債＝固定負債＋借入資本金

流動比率は100%を下回っており、引き続き資金不足となっていることを示している。

固定長期適合率は100%以上で推移している。

自己資本構成比率は多額の未処理欠損金があることから、マイナスで推移している。

固定負債構成比率は90%台から100%台で推移している。

(2) 資金運用および運転資金

資金運用および運転資金の状況は、次のとおりである。

資金運用表

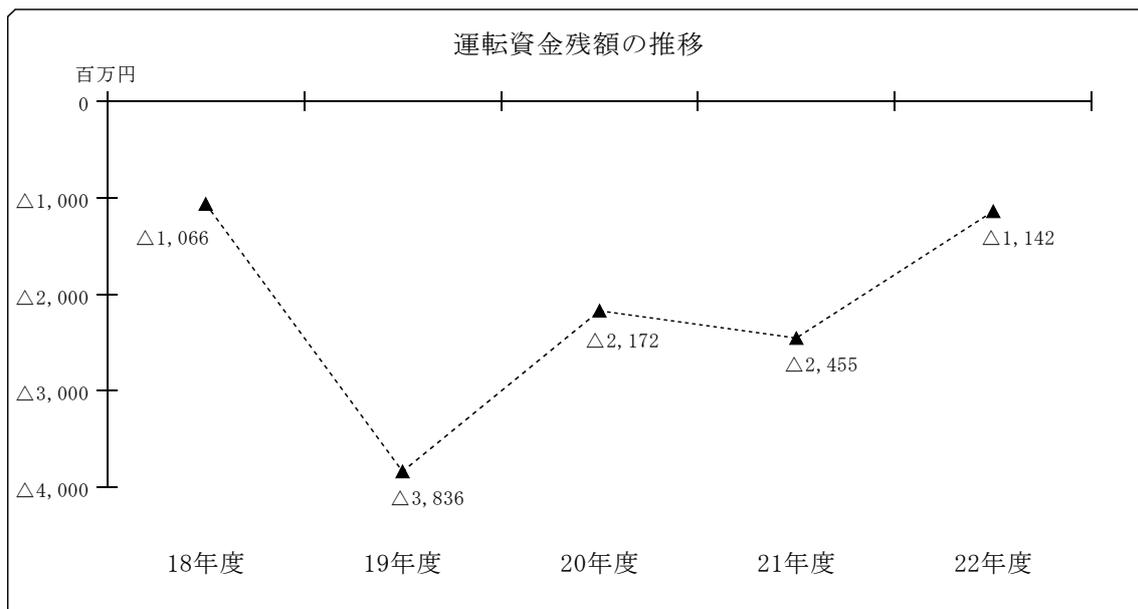
| 資 金 の 運 用 | | 資 金 の 源 泉 | |
|----------------------------|---------------|--------------------------|---------------|
| 円 | | 円 | |
| | | 当年度純利益 | 406,864,916 |
| | | 減価償却費 | 1,420,541,966 |
| | | 固定資産除却費 | 1,029,680 |
| | | 固定資産売却損 | 2,995,000 |
| | | 繰延勘定償却 | 85,134,219 |
| | | 貸付金返還義務消滅額 | 16,200,000 |
| | | 消費税及び地方消費税 | △1,080,981 |
| | | 資本的収支調整額 | |
| 小 計 | 0 | 小 計 | 1,931,684,800 |
| (収益的収支の資金剰余 1,931,684,800) | | | |
| 建設改良費 | 4,940,250 | 他会計負担金 | 938,606,351 |
| 企業債償還金 | 1,509,686,702 | 補助金 | 2,160,000 |
| 投資 | 50,100,000 | 貸付返還金 | 3,010,000 |
| | | 固定資産売却代金 | 3,150,000 |
| 小 計 | 1,564,726,952 | 小 計 | 946,926,351 |
| | | (資本的収支の資金不足 617,800,601) | |
| 運転資金の増加 | 1,313,884,199 | | |
| 計 | 2,878,611,151 | 計 | 2,878,611,151 |

運転資金明細表

| 科 目 | 2 2 年度 | 2 1 年度 | 運 転 資 金 | |
|---------|----------------|----------------|---------------|-----------|
| | | | 増 | 減 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 流 動 資 産 | 3,129,461,342 | 3,059,930,892 | 69,530,450 | |
| 現金預金 | 50,562,584 | 51,747,569 | | 1,184,985 |
| 未収金 | 3,055,748,382 | 2,986,030,020 | 69,718,362 | |
| 貯蔵品 | 23,150,376 | 22,153,303 | 997,073 | |
| 流 動 負 債 | 4,271,535,494 | 5,515,889,243 | 1,244,353,749 | |
| 一時借入金 | 2,900,000,000 | 4,110,000,000 | 1,210,000,000 | |
| 未払金 | 1,317,081,708 | 1,353,281,035 | 36,199,327 | |
| その他流動負債 | 54,453,786 | 52,608,208 | | 1,845,578 |
| 運 転 資 金 | △1,142,074,152 | △2,455,958,351 | 1,313,884,199 | |

当年度の資金運用の状況は、収益的収支で1,931,684千円の資金剰余、資本的収支で617,800千円の資金不足となっている。

この結果、当年度の運転資金は1,313,884千円増加し、当年度末における運転資金不足額（不良債務）は1,142,074千円となっている。



5 審査意見

これまで、病院事業会計決算の概要について述べてきたが、当年度の純損益は406,864千円の黒字に転じたものの、前年度繰越欠損金11,581,466千円があることから、当年度未処理欠損金は11,174,601千円となった。

当年度の純損益を前年度と比較すると、前年度の純損益は1,198,519千円の赤字であったので、収支が1,605,384千円改善している。

この改善の要因は、経常損益において、函館病院医業収益の入院収益、外来収益の増に加え、特別損益における他会計補助金の皆増などによるものである。

建設改良事業については、人工呼吸器などの医療用器械整備等を実施した。

近年、急速な少子高齢化や高度情報化の進展に伴い、医療に対する患者のニーズは、年々多様化、高度化の度合いが高まり、さらには、より質の高い効率的な医療体制が求められているなかで、函館病院は、道南圏の中核病院として、また、函館恵山病院および函館南茅部病院は、地域の医療を担う病院として、その役割を果たしてきたところである。

本年度は、経営面において、大きな比重を占める診療報酬がプラス改定となったことを受け、函館病院では、救急医療の充実、高度・専門的な手術の実施、医療クランク等の配置、チーム医療の実践など、時宜を得た取組みにより、大幅な収支の改善が図られたところである。

今後の事業運営にあたっては、なお厳しい経営環境が続くと思料されるが、函館市病院事業改革プランにおける各種対策を着実に進めながら、今まで以上に平均在院日数の短縮や病床利用率の向上などによる増収およびさらなる経費節減に努められ、早期に経営の健全化を図られるよう要望する。

決算審査資料

目 次

| 水 道 事 業 | ページ | 交 通 事 業 | ページ |
|----------------|-----|----------------|-----|
| 比較損益計算書 …………… | 2 | 比較損益計算書 …………… | 26 |
| 比較貸借対照表 …………… | 4 | 比較貸借対照表 …………… | 28 |
| 費用年度別比較表 …………… | 6 | 費用年度別比較表 …………… | 30 |
| 経営分析表 …………… | 8 | 経営分析表 …………… | 32 |
| | | | |
| 温 泉 事 業 | | 病 院 事 業 | |
| 比較損益計算書 …………… | 10 | 比較損益計算書 …………… | 34 |
| 比較貸借対照表 …………… | 12 | 比較貸借対照表 …………… | 36 |
| 費用年度別比較表 …………… | 14 | 費用年度別比較表 …………… | 38 |
| 経営分析表 …………… | 16 | 経営分析表 …………… | 40 |
| | | | |
| 公 共 下 水 道 事 業 | | 各会計財務分析表 …………… | 42 |
| 比較損益計算書 …………… | 18 | | |
| 比較貸借対照表 …………… | 20 | | |
| 費用年度別比較表 …………… | 22 | | |
| 経営分析表 …………… | 24 | | |

[注 記]

- 1 表示単位は、金額については円、構成比等についてはパーセント（小数点第2位四捨五入）である。
- 2 各会計財務分析表に用いた用語は、次のとおりである。
 - (1) 固定負債は、固定負債と借入資本金の合計である。
 - (2) 自己資本は、自己資本金と剰余金の合計である。
 - (3) 分母がマイナス数値の場合、「－」表示している。
 - (4) 累積欠損金比率および不良債務比率においては、欠損金および不良債務が発生していない場合、「－」表示している。

比 較 損 益 計 算 書

| 科 目 | 借 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|------------------------------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 営 業 費 用 | 3,840,536,452 | 88.6 | 3,903,650,457 | 88.5 | △63,114,005 |
| 原 水 費 | 69,212,625 | 1.6 | 72,835,873 | 1.7 | △3,623,248 |
| 浄 水 費 | 536,564,403 | 12.4 | 551,584,655 | 12.5 | △15,020,252 |
| 配 水 費 | 305,892,381 | 7.1 | 332,360,430 | 7.5 | △26,468,049 |
| 給 水 費 | 414,762,714 | 9.6 | 394,991,648 | 9.0 | 19,771,066 |
| 業 務 費 | 623,295,021 | 14.4 | 639,265,114 | 14.5 | △15,970,093 |
| 総 係 費 | 434,329,105 | 10.0 | 470,287,491 | 10.7 | △35,958,386 |
| 簡 易 水 道 費 | 115,242,283 | 2.7 | 121,728,957 | 2.8 | △6,486,674 |
| 減 価 償 却 費 | 1,327,193,265 | 30.6 | 1,306,185,907 | 29.6 | 21,007,358 |
| 資 産 減 耗 費 | 14,044,655 | 0.3 | 14,410,382 | 0.3 | △365,727 |
| 営 業 外 費 用 | 461,191,634 | 10.6 | 471,055,120 | 10.7 | △9,863,486 |
| 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 461,191,634 | 10.6 | 471,055,120 | 10.7 | △9,863,486 |
| 特 別 損 失 | 34,645,756 | 0.8 | 34,478,183 | 0.8 | 167,573 |
| 過 年 度 損 益 修 正 損 | 34,645,756 | 0.8 | 34,478,183 | 0.8 | 167,573 |
| 計 | 4,336,373,842 | 100.0 | 4,409,183,760 | 100.0 | △72,809,918 |
| 当 年 度 純 利 益 | 128,726,498 | | 25,893,100 | | 102,833,398 |
| 合 計 | 4,465,100,340 | | 4,435,076,860 | | 30,023,480 |
| 前 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金 | 69,473,725 | | 44,875,625 | | |
| 当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金 | 198,200,223 | | 70,768,725 | | |
| 利 益 剰 余 金 処 分 額 | | | 1,295,000 | | |
| 翌 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金 | | | 69,473,725 | | |

水道事業

| 科 目 | 貸 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|-------------------|---------------|-------|---------------|-------|------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 営 業 収 益 | 4,450,562,841 | 99.7 | 4,412,279,767 | 99.5 | 38,283,074 |
| 給 水 収 益 | 4,281,520,746 | 95.9 | 4,239,342,582 | 95.6 | 42,178,164 |
| 他 会 計 負 担 金 | 149,292,395 | 3.3 | 148,349,085 | 3.3 | 943,310 |
| そ の 他 営 業 収 益 | 19,749,700 | 0.4 | 24,588,100 | 0.6 | △4,838,400 |
| 営 業 外 収 益 | 14,502,061 | 0.3 | 22,769,251 | 0.5 | △8,267,190 |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金 | 1,284,649 | 0.0 | 3,997,737 | 0.1 | △2,713,088 |
| 工 事 補 償 金 | 3,912,719 | 0.1 | 2,860,000 | 0.1 | 1,052,719 |
| 雑 収 益 | 9,304,693 | 0.2 | 15,911,514 | 0.4 | △6,606,821 |
| 特 別 利 益 | 35,438 | 0.0 | 27,842 | 0.0 | 7,596 |
| 過 年 度 損 益 修 正 益 | 35,438 | 0.0 | 27,842 | 0.0 | 7,596 |
| 合 計 | 4,465,100,340 | 100.0 | 4,435,076,860 | 100.0 | 30,023,480 |

比 較 貸 借 対 照 表

| 科 目 | 借 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|-----------------|------------------|-------|------------------|-------|-----------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構 成 比 | 金 額 | 構 成 比 | |
| 固 定 資 産 | 30,376,631,951 | 93.4 | 30,998,491,749 | 94.2 | △621,859,798 |
| 有 形 固 定 資 産 | 30,354,425,951 | 93.3 | 30,819,522,776 | 93.7 | △465,096,825 |
| 土 地 | 1,067,168,478 | 3.3 | 1,067,166,456 | 3.2 | 2,022 |
| 建 物 | 1,746,106,098 | 5.4 | 1,749,391,584 | 5.3 | △3,285,486 |
| 構 築 物 | 23,532,792,075 | 72.3 | 23,916,418,985 | 72.7 | △383,626,910 |
| 機 械 及 び 装 置 | 3,957,968,509 | 12.2 | 3,956,983,836 | 12.0 | 984,673 |
| 車 両 運 搬 具 | 11,275,394 | 0.0 | 13,463,436 | 0.0 | △2,188,042 |
| 工 具 器 具 及 び 備 品 | 30,547,530 | 0.1 | 35,842,144 | 0.1 | △5,294,614 |
| 建 設 仮 勘 定 | 8,567,867 | 0.0 | 80,256,335 | 0.2 | △71,688,468 |
| (減価償却累計額) | (22,787,616,293) | — | (21,521,798,469) | — | (1,265,817,824) |
| 投 資 | 22,206,000 | 0.1 | 178,968,973 | 0.5 | △156,762,973 |
| 投 資 有 価 証 券 | 1,000,000 | 0.0 | 1,000,000 | 0.0 | 0 |
| 出 資 金 | 21,206,000 | 0.1 | 21,206,000 | 0.1 | 0 |
| 長 期 貸 付 金 | — | — | 156,762,973 | 0.5 | △156,762,973 |
| 流 動 資 産 | 2,158,099,022 | 6.6 | 1,903,076,109 | 5.8 | 255,022,913 |
| 現 金 預 金 | 1,502,474,964 | 4.6 | 1,155,359,338 | 3.5 | 347,115,626 |
| 未 収 金 | 654,997,458 | 2.0 | 747,616,771 | 2.3 | △92,619,313 |
| 前 払 金 | 526,600 | 0.0 | — | — | 526,600 |
| そ の 他 流 動 資 産 | 100,000 | 0.0 | 100,000 | 0.0 | 0 |
| 合 計 | 32,534,730,973 | 100.0 | 32,901,567,858 | 100.0 | △366,836,885 |

水道事業

| 科 目 | 貸 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|-------------|----------------|-------|----------------|-------|--------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 流 動 負 債 | 275,644,508 | 0.8 | 331,897,958 | 1.0 | △56,253,450 |
| 未 払 金 | 254,993,955 | 0.8 | 299,470,518 | 0.9 | △44,476,563 |
| 下水道使用料預り金 | 11,471,429 | 0.0 | 21,326,265 | 0.1 | △9,854,836 |
| その他流動負債 | 9,179,124 | 0.0 | 11,101,175 | 0.0 | △1,922,051 |
| 資 本 金 | 26,150,966,571 | 80.4 | 26,784,750,223 | 81.4 | △633,783,652 |
| 自己資本金 | 6,626,558,226 | 20.4 | 6,625,263,226 | 20.1 | 1,295,000 |
| 借入資本金 | 19,524,408,345 | 60.0 | 20,159,486,997 | 61.3 | △635,078,652 |
| 企業債 | 19,524,408,345 | 60.0 | 20,159,486,997 | 61.3 | △635,078,652 |
| 剰 余 金 | 6,108,119,894 | 18.8 | 5,784,919,677 | 17.6 | 323,200,217 |
| 資本剰余金 | 5,909,919,671 | 18.2 | 5,714,150,952 | 17.4 | 195,768,719 |
| 再評価積立金 | 2,454,923 | 0.0 | 2,454,923 | 0.0 | 0 |
| 受贈財産評価額 | 2,747,990,453 | 8.4 | 2,708,039,474 | 8.2 | 39,950,979 |
| 国庫補助金 | 907,685,786 | 2.8 | 873,397,214 | 2.7 | 34,288,572 |
| 他会計負担金 | 1,140,198,116 | 3.5 | 1,041,754,948 | 3.2 | 98,443,168 |
| 他会計補助金 | 23,086,000 | 0.1 | — | — | 23,086,000 |
| 工事負担金 | 25,071,700 | 0.1 | 25,071,700 | 0.1 | 0 |
| 工事補償金 | 665,994,174 | 2.0 | 665,994,174 | 2.0 | 0 |
| その他資本剰余金 | 397,438,519 | 1.2 | 397,438,519 | 1.2 | 0 |
| 利益剰余金 | 198,200,223 | 0.6 | 70,768,725 | 0.2 | 127,431,498 |
| 当年度未処分利益剰余金 | 198,200,223 | 0.6 | 70,768,725 | 0.2 | 127,431,498 |
| 合 計 | 32,534,730,973 | 100.0 | 32,901,567,858 | 100.0 | △366,836,885 |

費 用 年 度 別 比 較 表

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | |
|------------------------------|---------------|-------|---------------|-------|
| | 金 額 | 構 成 比 | 金 額 | 構 成 比 |
| 営 業 費 用 | 3,840,536,452 | 88.6 | 3,903,650,457 | 88.5 |
| 職 員 給 与 費 | 1,125,766,248 | 26.0 | 1,170,549,828 | 26.5 |
| 給 料 ・ 手 当 等 | 898,135,465 | 20.7 | 947,670,416 | 21.5 |
| 報 酬 ・ 賃 金 | 24,686,097 | 0.6 | 21,245,916 | 0.5 |
| 法 定 福 利 費 | 202,944,686 | 4.7 | 201,633,496 | 4.6 |
| 退 職 給 与 金 | 75,366,022 | 1.7 | 114,546,266 | 2.6 |
| 経 費 | 1,298,166,262 | 29.9 | 1,297,958,074 | 29.4 |
| 委 託 料 | 749,814,624 | 17.3 | 745,697,842 | 16.9 |
| 材 料 費 | 14,231,419 | 0.3 | 17,411,096 | 0.4 |
| 修 繕 費 | 249,698,124 | 5.8 | 245,164,239 | 5.6 |
| 動 力 費 | 46,253,841 | 1.1 | 49,004,115 | 1.1 |
| 燃 料 費 | 9,448,955 | 0.2 | 9,208,073 | 0.2 |
| 光 熱 水 費 | 6,159,290 | 0.1 | 6,826,137 | 0.2 |
| 薬 品 費 | 55,396,898 | 1.3 | 50,233,183 | 1.1 |
| そ の 他 | 167,163,111 | 3.9 | 174,413,389 | 4.0 |
| 減 価 償 却 費 | 1,327,193,265 | 30.6 | 1,306,185,907 | 29.6 |
| 資 産 減 耗 費 | 14,044,655 | 0.3 | 14,410,382 | 0.3 |
| 営 業 外 費 用 | 461,191,634 | 10.6 | 471,055,120 | 10.7 |
| 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 461,191,634 | 10.6 | 471,055,120 | 10.7 |
| 特 別 損 失 | 34,645,756 | 0.8 | 34,478,183 | 0.8 |
| 合 計 | 4,336,373,842 | 100.0 | 4,409,183,760 | 100.0 |

水道事業

| 対前年度比較 | | 指数（20年度＝100） | |
|-------------|-------|--------------|-------|
| 増減額 | 増減率 | 22年度 | 21年度 |
| △63,114,005 | △1.6 | 95.6 | 97.2 |
| △44,783,580 | △3.8 | 97.5 | 101.3 |
| △49,534,951 | △5.2 | 93.3 | 98.5 |
| 3,440,181 | 16.2 | 175.1 | 150.7 |
| 1,311,190 | 0.7 | 113.6 | 112.9 |
| △39,180,244 | △34.2 | 32.9 | 50.0 |
| 208,188 | 0.0 | 94.0 | 94.0 |
| 4,116,782 | 0.6 | 101.1 | 100.5 |
| △3,179,677 | △18.3 | 59.6 | 72.9 |
| 4,533,885 | 1.8 | 102.6 | 100.7 |
| △2,750,274 | △5.6 | 72.3 | 76.6 |
| 240,882 | 2.6 | 76.0 | 74.0 |
| △666,847 | △9.8 | 70.0 | 77.6 |
| 5,163,715 | 10.3 | 118.3 | 107.3 |
| △7,250,278 | △4.2 | 69.9 | 73.0 |
| 21,007,358 | 1.6 | 107.3 | 105.6 |
| △365,727 | △2.5 | 89.3 | 91.6 |
| △9,863,486 | △2.1 | 89.9 | 91.9 |
| △9,863,486 | △2.1 | 89.9 | 91.9 |
| 167,573 | 0.5 | 99.4 | 99.0 |
| △72,809,918 | △1.7 | 95.0 | 96.6 |

經 營 分 析 表

| 項 目 | 算 式 | 単 位 |
|---|--|----------------|
| 負 荷 率 | $\frac{1 \text{ 日平均配水量 (m}^3\text{)}}{1 \text{ 日最大配水量 (m}^3\text{)}} \times 100$ | % |
| 施 設 利 用 率 | $\frac{1 \text{ 日平均配水量 (m}^3\text{)}}{1 \text{ 日配水能力 (m}^3\text{)}} \times 100$ | % |
| 有 収 率 | $\frac{\text{有 収 水 量 (m}^3\text{)}}{\text{配 水 量 (m}^3\text{)}} \times 100$ | % |
| 配 水 管 使 用 効 率 | $\frac{\text{配 水 量 (m}^3\text{)}}{\text{配 水 管 延 長 (m)}}$ | m ³ |
| 固 定 資 産 使 用 効 率 (1 万 円 当 たり m ³) | $\frac{\text{配 水 量 (m}^3\text{)}}{\text{有 形 固 定 資 産 (万 円)}}$ | m ³ |
| 最 大 稼 働 率 | $\frac{1 \text{ 日最大配水量 (m}^3\text{)}}{1 \text{ 日配水能力 (m}^3\text{)}} \times 100$ | % |
| 供 給 単 価 (1 m ³) | $\frac{\text{給 水 収 益 (円)}}{\text{有 収 水 量 (m}^3\text{)}}$ | 円 |
| 給 水 原 価 (1 m ³) | $\frac{\text{総費用 - 受託工事費 (円)}}{\text{有 収 水 量 (m}^3\text{)}}$ | 円 |
| 供 給 単 価 対 給 水 原 価 比 率 | $\frac{\text{供 給 単 価 (円)}}{\text{給 水 原 価 (円)}} \times 100$ | % |
| 資 本 費 対 給 水 収 益 比 率 | $\frac{(\text{減価償却費} + \text{支払利息}) (円)}{\text{給 水 収 益 (円)}} \times 100$ | % |
| 職 員 給 与 費 対 給 水 収 益 比 率 | $\frac{\text{職 員 給 与 費 (円)}}{\text{給 水 収 益 (円)}} \times 100$ | % |
| 職 員 給 与 費 対 給 水 原 価 比 率 | $\frac{1 \text{ m}^3 \text{ 当 たり 職 員 給 与 費 (円)}}{\text{給 水 原 価 (円)}} \times 100$ | % |

水道事業

| 比較 | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 22年度 | 21年度 | 20年度 | 19年度 | 18年度 |
| 84.6 | 89.4 | 88.5 | 85.6 | 81.9 |
| 59.1 | 57.5 | 58.4 | 60.5 | 61.6 |
| 89.0 | 90.7 | 90.3 | 90.0 | 90.1 |
| 28.6 | 27.9 | 28.5 | 29.9 | 30.7 |
| 11.6 | 11.1 | 11.3 | 11.8 | 12.0 |
| 69.8 | 64.3 | 66.0 | 70.6 | 75.2 |
| 136.7 | 136.4 | 136.8 | 136.0 | 135.9 |
| 138.5 | 141.9 | 145.3 | 147.1 | 147.9 |
| 98.7 | 96.1 | 94.1 | 92.5 | 91.9 |
| 41.8 | 41.9 | 40.7 | 42.3 | 41.6 |
| 26.3 | 27.6 | 26.9 | 26.5 | 26.7 |
| 26.0 | 26.5 | 25.3 | 24.5 | 24.5 |

比 較 損 益 計 算 書

| 科 目 | 借 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|------------------------------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 営 業 費 用 | 254,353,367 | 42.6 | 323,655,415 | 95.5 | △69,302,048 |
| 温 泉 供 給 費 | 65,179,549 | 10.9 | 65,607,634 | 19.4 | △428,085 |
| 公 衆 浴 場 費 | 116,080,167 | 19.4 | 113,426,908 | 33.5 | 2,653,259 |
| 熱 帯 植 物 園 費 | — | — | 53,116,464 | 15.7 | △53,116,464 |
| 総 係 費 | 6,660,188 | 1.1 | 6,782,341 | 2.0 | △122,153 |
| 減 価 償 却 費 | 58,492,870 | 9.8 | 82,424,764 | 24.3 | △23,931,894 |
| 資 産 減 耗 費 | 7,940,593 | 1.3 | 2,297,304 | 0.7 | 5,643,289 |
| 営 業 外 費 用 | 11,800,673 | 2.0 | 15,321,765 | 4.5 | △3,521,092 |
| 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 11,800,673 | 2.0 | 15,321,765 | 4.5 | △3,521,092 |
| 特 別 損 失 | 330,671,664 | 55.4 | — | — | 330,671,664 |
| 過 年 度 損 益 修 正 損 | 4,420,207 | 0.7 | — | — | 4,420,207 |
| そ の 他 特 別 損 失 | 326,251,457 | 54.7 | — | — | 326,251,457 |
| 合 計 | 596,825,704 | 100.0 | 338,977,180 | 100.0 | 257,848,524 |

温泉事業

| 科 目 | 貸 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|-------------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 営 業 収 益 | 246,598,023 | 97.7 | 273,987,560 | 97.8 | △27,389,537 |
| 温泉供給収益 | 103,587,161 | 41.1 | 105,716,000 | 37.7 | △2,128,839 |
| 公衆浴場収益 | 142,378,262 | 56.4 | 151,431,248 | 54.0 | △9,052,986 |
| 熱帯植物園収益 | — | — | 15,175,276 | 5.4 | △15,175,276 |
| 他会計負担金 | 560,000 | 0.2 | 810,255 | 0.3 | △250,255 |
| その他営業収益 | 72,600 | 0.0 | 854,781 | 0.3 | △782,181 |
| 営 業 外 収 益 | 5,717,527 | 2.3 | 6,285,000 | 2.2 | △567,473 |
| 他会計補助金 | 1,328,271 | 0.5 | 1,497,424 | 0.5 | △169,153 |
| 雑 収 益 | 4,389,256 | 1.7 | 4,787,576 | 1.7 | △398,320 |
| 計 | 252,315,550 | 100.0 | 280,272,560 | 100.0 | △27,957,010 |
| 当 年 度 純 損 失 | 344,510,154 | | 58,704,620 | | 285,805,534 |
| 合 計 | 596,825,704 | | 338,977,180 | | 257,848,524 |
| 前年度繰越欠損金 | 527,844,359 | | 469,139,739 | | |
| 当年度未処理欠損金 | 872,354,513 | | 527,844,359 | | |
| 資本剰余金繰入額 | | | 0 | | |
| 翌年度繰越欠損金 | | | 527,844,359 | | |

比 較 貸 借 対 照 表

| 科 目 | 借 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|-----------------|---------------|---------|---------------|-------|----------------|
| | 2 2 年 度 | 2 1 年 度 | 金 額 | 金 額 | |
| | 金 額 | 構 成 比 | 金 額 | 構 成 比 | |
| 固 定 資 産 | 844,072,858 | 96.9 | 1,172,089,295 | 97.5 | △328,016,437 |
| 温泉供給事業有形固定資産 | 381,768,562 | 43.8 | 335,193,665 | 27.9 | 46,574,897 |
| 土 地 | 181,192,537 | 20.8 | 181,192,537 | 15.1 | 0 |
| 建 物 | 10,235,900 | 1.2 | 11,035,753 | 0.9 | △799,853 |
| 構 築 物 | 125,816,059 | 14.5 | 115,240,261 | 9.6 | 10,575,798 |
| 機 械 及 び 装 置 | 64,292,891 | 7.4 | 27,433,217 | 2.3 | 36,859,674 |
| 車 両 運 搬 具 | 142,500 | 0.0 | 176,000 | 0.0 | △33,500 |
| 工 具 器 具 及 び 備 品 | 88,675 | 0.0 | 115,897 | 0.0 | △27,222 |
| (減価償却累計額) | (417,350,695) | — | (395,544,919) | — | (21,805,776) |
| 公衆浴場事業有形固定資産 | 451,219,296 | 51.8 | 492,775,657 | 41.0 | △41,556,361 |
| 土 地 | 4,024,638 | 0.5 | 4,024,638 | 0.3 | 0 |
| 建 物 | 372,992,643 | 42.8 | 402,153,004 | 33.5 | △29,160,361 |
| 構 築 物 | 42,481,869 | 4.9 | 50,910,061 | 4.2 | △8,428,192 |
| 機 械 及 び 装 置 | 30,945,674 | 3.6 | 34,338,363 | 2.9 | △3,392,689 |
| 工 具 器 具 及 び 備 品 | 774,472 | 0.1 | 1,349,591 | 0.1 | △575,119 |
| (減価償却累計額) | (608,032,384) | — | (569,708,023) | — | (38,324,361) |
| 熱帯植物園事業有形固定資産 | — | — | 333,034,973 | 27.7 | △333,034,973 |
| 建 物 | — | — | 242,352,539 | 20.2 | △242,352,539 |
| 構 築 物 | — | — | 80,463,339 | 6.7 | △80,463,339 |
| 機 械 及 び 装 置 | — | — | 3,242,031 | 0.3 | △3,242,031 |
| 工 具 器 具 及 び 備 品 | — | — | 6,977,064 | 0.6 | △6,977,064 |
| (減価償却累計額) | (0) | — | (311,209,761) | — | (△311,209,761) |
| 投 資 | 11,085,000 | 1.3 | 11,085,000 | 0.9 | 0 |
| 出 資 金 | 11,085,000 | 1.3 | 11,085,000 | 0.9 | 0 |
| 流 動 資 産 | 26,561,207 | 3.1 | 29,769,870 | 2.5 | △3,208,663 |
| 現 金 預 金 | 2,468,225 | 0.3 | 2,064,220 | 0.2 | 404,005 |
| 未 収 金 | 24,092,982 | 2.8 | 27,705,650 | 2.3 | △3,612,668 |
| 合 計 | 870,634,065 | 100.0 | 1,201,859,165 | 100.0 | △331,225,100 |

温泉事業

| 科 目 | 貸 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|-------------------|----------------|-------|----------------|-------|--------------|
| | 2 2 年 度 金 額 | 構 成 比 | 2 1 年 度 金 額 | 構 成 比 | |
| 固 定 負 債 | 458,000,000 | 52.6 | 277,000,000 | 23.0 | 181,000,000 |
| 他 会 計 借 入 金 | 458,000,000 | 52.6 | 277,000,000 | 23.0 | 181,000,000 |
| 流 動 負 債 | 72,025,274 | 8.3 | 80,689,174 | 6.7 | △8,663,900 |
| 一 時 借 入 金 | 66,000,000 | 7.6 | 70,000,000 | 5.8 | △4,000,000 |
| 未 払 金 | 5,834,244 | 0.7 | 10,469,114 | 0.9 | △4,634,870 |
| そ の 他 流 動 負 債 | 191,030 | 0.0 | 220,060 | 0.0 | △29,030 |
| 資 本 金 | 1,104,876,541 | 126.9 | 1,263,927,587 | 105.2 | △159,051,046 |
| 自 己 資 本 金 | 700,708,110 | 80.5 | 700,708,110 | 58.3 | 0 |
| 借 入 資 本 金 | 404,168,431 | 46.4 | 563,219,477 | 46.9 | △159,051,046 |
| 企 業 債 | 404,168,431 | 46.4 | 406,456,504 | 33.8 | △2,288,073 |
| 他会計からの長期借入金 | — | — | 156,762,973 | 13.0 | △156,762,973 |
| 剰 余 金 | △764,267,750 | △87.8 | △419,757,596 | △34.9 | △344,510,154 |
| 資 本 剰 余 金 | 108,086,763 | 12.4 | 108,086,763 | 9.0 | 0 |
| 再 評 価 積 立 金 | 557,223 | 0.1 | 557,223 | 0.0 | 0 |
| 受 贈 財 産 評 価 額 | 1,167,049 | 0.1 | 1,167,049 | 0.1 | 0 |
| 他 会 計 補 助 金 | 99,689,741 | 11.5 | 99,689,741 | 8.3 | 0 |
| 工 事 負 担 金 | 1,144,500 | 0.1 | 1,144,500 | 0.1 | 0 |
| 寄 付 金 | 5,528,250 | 0.6 | 5,528,250 | 0.5 | 0 |
| 欠 損 金 | 872,354,513 | 100.2 | 527,844,359 | 43.9 | 344,510,154 |
| 当 年 度 未 処 理 欠 損 金 | 872,354,513 | 100.2 | 527,844,359 | 43.9 | 344,510,154 |
| 合 計 | 870,634,065 | 100.0 | 1,201,859,165 | 100.0 | △331,225,100 |

費 用 年 度 別 比 較 表

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | |
|------------------------------|-------------|-------|-------------|-------|
| | 金 額 | 構 成 比 | 金 額 | 構 成 比 |
| 営 業 費 用 | 254,353,367 | 42.6 | 323,655,415 | 95.5 |
| 職 員 給 与 費 | 47,873,542 | 8.0 | 56,402,559 | 16.6 |
| 給 料 ・ 手 当 等 | 37,202,387 | 6.2 | 44,079,341 | 13.0 |
| 報 酬 ・ 賃 金 | 1,747,927 | 0.3 | 1,957,488 | 0.6 |
| 法 定 福 利 費 | 8,923,228 | 1.5 | 10,365,730 | 3.1 |
| 経 費 | 140,046,362 | 23.5 | 182,530,788 | 53.8 |
| 委 託 料 | 81,367,877 | 13.6 | 102,115,286 | 30.1 |
| 材 料 費 | 558,740 | 0.1 | 619,605 | 0.2 |
| 修 繕 費 | 4,582,540 | 0.8 | 9,746,409 | 2.9 |
| 動 力 費 | 12,801,526 | 2.1 | 13,621,941 | 4.0 |
| 燃 料 費 | 21,604,980 | 3.6 | 29,430,107 | 8.7 |
| 光 熱 水 費 | 7,838,287 | 1.3 | 15,299,817 | 4.5 |
| 薬 品 費 | 960,000 | 0.2 | 788,000 | 0.2 |
| そ の 他 | 10,332,412 | 1.7 | 10,909,623 | 3.2 |
| 減 価 償 却 費 | 58,492,870 | 9.8 | 82,424,764 | 24.3 |
| 資 産 減 耗 費 | 7,940,593 | 1.3 | 2,297,304 | 0.7 |
| 営 業 外 費 用 | 11,800,673 | 2.0 | 15,321,765 | 4.5 |
| 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 11,800,673 | 2.0 | 15,321,765 | 4.5 |
| 特 別 損 失 | 330,671,664 | 55.4 | — | — |
| 合 計 | 596,825,704 | 100.0 | 338,977,180 | 100.0 |

温泉事業

| 対前年度比較 | | 指数(20年度=100) | |
|-------------|-------|--------------|-------|
| 増減額 | 増減率 | 22年度 | 21年度 |
| △69,302,048 | △21.4 | 69.6 | 88.5 |
| △8,529,017 | △15.1 | 56.4 | 66.4 |
| △6,876,954 | △15.6 | 53.5 | 63.4 |
| △209,561 | △10.7 | 89.9 | 100.7 |
| △1,442,502 | △13.9 | 66.2 | 76.9 |
| △42,484,426 | △23.3 | 72.0 | 93.9 |
| △20,747,409 | △20.3 | 76.7 | 96.2 |
| △60,865 | △9.8 | 15.8 | 17.5 |
| △5,163,869 | △53.0 | 54.8 | 116.7 |
| △820,415 | △6.0 | 82.4 | 87.7 |
| △7,825,127 | △26.6 | 65.5 | 89.3 |
| △7,461,530 | △48.8 | 52.1 | 101.6 |
| 172,000 | 21.8 | 123.1 | 101.0 |
| △577,211 | △5.3 | 85.4 | 90.1 |
| △23,931,894 | △29.0 | 68.9 | 97.1 |
| 5,643,289 | 245.6 | 605.5 | 175.2 |
| △3,521,092 | △23.0 | 84.4 | 109.5 |
| △3,521,092 | △23.0 | 84.4 | 109.5 |
| 330,671,664 | 皆増 | 皆増 | — |
| 257,848,524 | 76.1 | 157.2 | 89.3 |

経 営 分 析 表

| 項 目 | 算 式 | 単 位 |
|----------------------------|---|-----|
| 温泉供給単価 (1 m ³) | $\frac{\text{温泉供給収益 (円)}}{\text{供給量 (m}^3\text{)}}$ | 円 |
| 温泉供給原価 (1 m ³) | $\frac{\text{温泉供給事業費用-受託工事費 (円)}}{\text{供給量 (m}^3\text{)}}$ | 円 |
| 公衆浴場1日当たり収入 | $\frac{\text{公衆浴場収益 (円)}}{\text{営業日数 (日)}}$ | 円 |
| 公衆浴場1日当たり入浴人員 | $\frac{\text{年間入浴人員 (人)}}{\text{営業日数 (日)}}$ | 人 |
| 熱帯植物園1日当たり収入 | $\frac{\text{熱帯植物園収益+バッテリーカー使用料金 (円)}}{\text{営業日数 (日)}}$ | 円 |
| 熱帯植物園1日当たり入園人員 | $\frac{\text{年間入園人員 (人)}}{\text{営業日数 (日)}}$ | 人 |

温 泉 事 業

| 比 較 | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 2 2 年 度 | 2 1 年 度 | 2 0 年 度 | 1 9 年 度 | 1 8 年 度 |
| 65.4 | 65.4 | 65.4 | 65.2 | 65.4 |
| 58.7 | 53.0 | 66.5 | 63.0 | 63.3 |
| 418,760 | 445,386 | 447,375 | 467,893 | 486,186 |
| 1,104 | 1,175 | 1,228 | 1,332 | 1,398 |
| — | 45,336 | 46,334 | 64,420 | 53,153 |
| — | 179 | 180 | 249 | 197 |

比 較 損 益 計 算 書

| 科 目 | 借 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|---------------------------|---------------|-------|---------------|-------|--------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構 成 比 | 金 額 | 構 成 比 | |
| 営 業 費 用 | 3,759,513,063 | 69.3 | 3,908,558,957 | 69.1 | △149,045,894 |
| 管 渠 費 | 357,682,393 | 6.6 | 359,163,029 | 6.4 | △1,480,636 |
| ポ ン プ 場 費 | 164,945,800 | 3.0 | 195,086,526 | 3.4 | △30,140,726 |
| 処 理 場 費 | 610,916,464 | 11.3 | 644,667,521 | 11.4 | △33,751,057 |
| 水 質 指 導 費 | 27,650,670 | 0.5 | 28,499,241 | 0.5 | △848,571 |
| 普 及 促 進 費 | 70,507,106 | 1.3 | 87,316,719 | 1.5 | △16,809,613 |
| 業 務 費 | 124,098,875 | 2.3 | 136,111,611 | 2.4 | △12,012,736 |
| 総 係 費 | 238,689,751 | 4.4 | 319,909,067 | 5.7 | △81,219,316 |
| 流 域 下 水 道 管 理 費 | 390,385,242 | 7.2 | 394,333,792 | 7.0 | △3,948,550 |
| 減 価 償 却 費 | 1,736,885,634 | 32.0 | 1,717,587,944 | 30.4 | 19,297,690 |
| 資 産 減 耗 費 | 37,751,128 | 0.7 | 25,883,507 | 0.5 | 11,867,621 |
| 営 業 外 費 用 | 1,608,103,221 | 29.7 | 1,703,643,846 | 30.1 | △95,540,625 |
| 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 1,592,475,797 | 29.4 | 1,691,588,644 | 29.9 | △99,112,847 |
| 雑 支 出 | 15,627,424 | 0.3 | 12,055,202 | 0.2 | 3,572,222 |
| 特 別 損 失 | 55,151,923 | 1.0 | 43,333,186 | 0.8 | 11,818,737 |
| 固 定 資 産 売 却 損 | — | — | 776,000 | 0.0 | △776,000 |
| 過 年 度 損 益 修 正 損 | 55,145,353 | 1.0 | 42,400,080 | 0.7 | 12,745,273 |
| そ の 他 特 別 損 失 | 6,570 | 0.0 | 157,106 | 0.0 | △150,536 |
| 計 | 5,422,768,207 | 100.0 | 5,655,535,989 | 100.0 | △232,767,782 |
| 当 年 度 純 利 益 | 602,132,805 | | 370,765,298 | | 231,367,507 |
| 合 計 | 6,024,901,012 | | 6,026,301,287 | | △1,400,275 |
| 前 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金 | 718,568,966 | | 476,988,668 | | |
| 当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金 | 1,320,701,771 | | 847,753,966 | | |
| 利 益 剰 余 金 処 分 額 | | | 129,185,000 | | |
| 翌 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金 | | | 718,568,966 | | |

公共下水道事業

| 科 目 | 貸 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|-------------------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 営 業 収 益 | 5,986,214,222 | 99.4 | 5,989,787,116 | 99.4 | △3,572,894 |
| 下 水 道 使 用 料 | 4,561,698,237 | 75.7 | 4,531,944,849 | 75.2 | 29,753,388 |
| 他 会 計 負 担 金 | 1,358,272,385 | 22.5 | 1,391,751,487 | 23.1 | △33,479,102 |
| そ の 他 営 業 収 益 | 66,243,600 | 1.1 | 66,090,780 | 1.1 | 152,820 |
| 営 業 外 収 益 | 11,174,290 | 0.2 | 36,143,121 | 0.6 | △24,968,831 |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金 | 302,342 | 0.0 | 255,196 | 0.0 | 47,146 |
| 他 会 計 補 助 金 | 97,000 | 0.0 | 20,308,000 | 0.3 | △20,211,000 |
| 雑 収 益 | 10,774,948 | 0.2 | 15,579,925 | 0.3 | △4,804,977 |
| 特 別 利 益 | 27,512,500 | 0.5 | 371,050 | 0.0 | 27,141,450 |
| 他 会 計 補 助 金 | 27,000,000 | 0.4 | — | — | 27,000,000 |
| 固 定 資 産 売 却 益 | 512,500 | 0.0 | 262,500 | 0.0 | 250,000 |
| 過 年 度 損 益 修 正 益 | — | — | 108,550 | 0.0 | △108,550 |
| 合 計 | 6,024,901,012 | 100.0 | 6,026,301,287 | 100.0 | △1,400,275 |

比 較 貸 借 対 照 表

| 科 目 | 借 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|-------------|------------------|-------|------------------|-------|-----------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 固 定 資 産 | 143,084,787,100 | 99.0 | 143,448,209,719 | 99.1 | △363,422,619 |
| 有形固定資産 | 139,147,200,893 | 96.3 | 139,439,080,682 | 96.4 | △291,879,789 |
| 土地 | 1,564,510,297 | 1.1 | 1,567,436,816 | 1.1 | △2,926,519 |
| 建物 | 3,752,362,451 | 2.6 | 3,805,713,024 | 2.6 | △53,350,573 |
| 構築物 | 118,404,879,167 | 81.9 | 119,035,893,836 | 82.3 | △631,014,669 |
| 機械及び装置 | 14,901,017,901 | 10.3 | 14,808,618,293 | 10.2 | 92,399,608 |
| 車両運搬具 | 10,232,902 | 0.0 | 12,349,288 | 0.0 | △2,116,386 |
| 工具器具及び備品 | 55,447,598 | 0.0 | 60,768,436 | 0.0 | △5,320,838 |
| 建設仮勘定 | 458,750,577 | 0.3 | 148,300,989 | 0.1 | 310,449,588 |
| (減価償却累計額) | (22,392,241,513) | — | (20,888,307,810) | — | (1,476,562,420) |
| 無形固定資産 | 3,822,658,567 | 2.6 | 3,835,070,467 | 2.7 | △12,411,900 |
| 地上権 | 25,155,268 | 0.0 | 29,556,891 | 0.0 | △4,401,623 |
| 施設利用権 | 3,797,503,299 | 2.6 | 3,805,513,576 | 2.6 | △8,010,277 |
| 投資 | 114,927,640 | 0.1 | 174,058,570 | 0.1 | △59,130,930 |
| 出資金 | 9,927,000 | 0.0 | 9,927,000 | 0.0 | 0 |
| 長期貸付金 | 105,000,640 | 0.1 | 164,131,570 | 0.1 | △59,130,930 |
| 流 動 資 産 | 1,449,064,187 | 1.0 | 1,243,383,393 | 0.9 | 205,680,794 |
| 現金預金 | 665,011,423 | 0.5 | 381,704,549 | 0.3 | 283,306,874 |
| 未収金 | 753,655,335 | 0.5 | 840,352,579 | 0.6 | △86,697,244 |
| 前払金 | 18,926,000 | 0.0 | — | — | 18,926,000 |
| 他会計保管下水道使用料 | 11,471,429 | 0.0 | 21,326,265 | 0.0 | △9,854,836 |
| 合 計 | 144,533,851,287 | 100.0 | 144,691,593,112 | 100.0 | △157,741,825 |

公共下水道事業

| 科 目 | 貸 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|--------------|-----------------|-------|-----------------|-------|----------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 固 定 負 債 | 7,568,822,000 | 5.2 | 6,150,000,000 | 4.3 | 1,418,822,000 |
| 企 業 債 | 7,568,822,000 | 5.2 | 6,150,000,000 | 4.3 | 1,418,822,000 |
| 流 動 負 債 | 377,686,798 | 0.3 | 410,700,493 | 0.3 | △33,013,695 |
| 未 払 金 | 375,238,370 | 0.3 | 406,953,715 | 0.3 | △31,715,345 |
| その他流動負債 | 2,448,428 | 0.0 | 3,746,778 | 0.0 | △1,298,350 |
| 資 本 金 | 58,440,587,982 | 40.4 | 61,090,084,182 | 42.2 | △2,649,496,200 |
| 自 己 資 本 金 | 480,748,392 | 0.3 | 351,563,392 | 0.2 | 129,185,000 |
| 借 入 資 本 金 | 57,959,839,590 | 40.1 | 60,738,520,790 | 42.0 | △2,778,681,200 |
| 企 業 債 | 57,959,839,590 | 40.1 | 60,738,520,790 | 42.0 | △2,778,681,200 |
| 剰 余 金 | 78,146,754,507 | 54.1 | 77,040,808,437 | 53.2 | 1,105,946,070 |
| 資 本 剰 余 金 | 76,826,052,736 | 53.2 | 76,193,054,471 | 52.7 | 632,998,265 |
| 受贈財産評価額 | 18,524,189,560 | 12.8 | 18,304,346,079 | 12.7 | 219,843,481 |
| 国 庫 負 担 金 | 38,512,000 | 0.0 | 38,512,000 | 0.0 | 0 |
| 国 庫 補 助 金 | 42,121,080,962 | 29.1 | 41,849,767,209 | 28.9 | 271,313,753 |
| 北 海 道 補 助 金 | 9,000,000 | 0.0 | 9,000,000 | 0.0 | 0 |
| 受 益 者 負 担 金 | 6,344,226,763 | 4.4 | 6,306,399,118 | 4.4 | 37,827,645 |
| 他 会 計 負 担 金 | 6,759,400,379 | 4.7 | 6,655,386,993 | 4.6 | 104,013,386 |
| 他 会 計 補 助 金 | 66,666,667 | 0.0 | 66,666,667 | 0.0 | 0 |
| 工 事 負 担 金 | 1,031,788,465 | 0.7 | 1,031,788,465 | 0.7 | 0 |
| 工 事 補 償 金 | 48,714,118 | 0.0 | 48,714,118 | 0.0 | 0 |
| 北海道代行事業資本剰余金 | 1,568,185,940 | 1.1 | 1,568,185,940 | 1.1 | 0 |
| その他資本剰余金 | 314,287,882 | 0.2 | 314,287,882 | 0.2 | 0 |
| 利 益 剰 余 金 | 1,320,701,771 | 0.9 | 847,753,966 | 0.6 | 472,947,805 |
| 当年度未処分利益剰余金 | 1,320,701,771 | 0.9 | 847,753,966 | 0.6 | 472,947,805 |
| 合 計 | 144,533,851,287 | 100.0 | 144,691,593,112 | 100.0 | △157,741,825 |

費 用 年 度 別 比 較 表

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | |
|---------------------------|---------------|-------|---------------|-------|
| | 金 額 | 構 成 比 | 金 額 | 構 成 比 |
| 営 業 費 用 | 3,759,513,063 | 69.3 | 3,908,558,957 | 69.1 |
| 職 員 給 与 費 | 518,557,495 | 9.6 | 602,926,779 | 10.7 |
| 給 料 ・ 手 当 等 | 410,542,688 | 7.6 | 468,180,316 | 8.3 |
| 報 酬 ・ 賃 金 | 11,632,268 | 0.2 | 29,808,233 | 0.5 |
| 法 定 福 利 費 | 96,382,539 | 1.8 | 104,938,230 | 1.9 |
| 退 職 給 与 金 | 22,351,997 | 0.4 | 70,699,562 | 1.3 |
| 経 費 | 1,443,966,809 | 26.6 | 1,491,461,165 | 26.4 |
| 委 託 料 | 398,902,143 | 7.4 | 373,828,199 | 6.6 |
| 材 料 費 | 14,584,470 | 0.3 | 58,158,130 | 1.0 |
| 修 繕 費 | 316,375,806 | 5.8 | 333,486,705 | 5.9 |
| 動 力 費 | 118,839,844 | 2.2 | 121,218,348 | 2.1 |
| 燃 料 費 | 10,131,585 | 0.2 | 11,325,185 | 0.2 |
| 光 熱 水 費 | 17,712,390 | 0.3 | 20,933,714 | 0.4 |
| 薬 品 費 | 57,982,939 | 1.1 | 50,626,765 | 0.9 |
| 流 域 下 水 道 負 担 金 | 388,930,619 | 7.2 | 392,953,905 | 6.9 |
| そ の 他 | 120,507,013 | 2.2 | 128,930,214 | 2.3 |
| 減 価 償 却 費 | 1,736,885,634 | 32.0 | 1,717,587,944 | 30.4 |
| 資 産 減 耗 費 | 37,751,128 | 0.7 | 25,883,507 | 0.5 |
| 営 業 外 費 用 | 1,608,103,221 | 29.7 | 1,703,643,846 | 30.1 |
| 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 1,592,475,797 | 29.4 | 1,691,588,644 | 29.9 |
| 雑 支 出 | 15,627,424 | 0.3 | 12,055,202 | 0.2 |
| 特 別 損 失 | 55,151,923 | 1.0 | 43,333,186 | 0.8 |
| 合 計 | 5,422,768,207 | 100.0 | 5,655,535,989 | 100.0 |

公共下水道事業

| 対前年度比較 | | 指数(20年度=100) | |
|--------------|-------|--------------|-------|
| 増減額 | 増減率 | 22年度 | 21年度 |
| △149,045,894 | △3.8 | 96.7 | 100.5 |
| △84,369,284 | △14.0 | 83.4 | 96.9 |
| △57,637,628 | △12.3 | 83.2 | 94.9 |
| △18,175,965 | △61.0 | 36.3 | 92.9 |
| △8,555,691 | △8.2 | 99.9 | 108.7 |
| △48,347,565 | △68.4 | 30.1 | 95.3 |
| △47,494,356 | △3.2 | 98.9 | 102.1 |
| 25,073,944 | 6.7 | 103.0 | 96.5 |
| △43,573,660 | △74.9 | 35.5 | 141.4 |
| △17,110,899 | △5.1 | 130.6 | 137.6 |
| △2,378,504 | △2.0 | 91.1 | 92.9 |
| △1,193,600 | △10.5 | 37.0 | 41.3 |
| △3,221,324 | △15.4 | 86.6 | 102.4 |
| 7,356,174 | 14.5 | 97.0 | 84.7 |
| △4,023,286 | △1.0 | 95.1 | 96.1 |
| △8,423,201 | △6.5 | 84.5 | 90.4 |
| 19,297,690 | 1.1 | 101.2 | 100.1 |
| 11,867,621 | 45.9 | 249.9 | 171.3 |
| △95,540,625 | △5.6 | 84.0 | 89.0 |
| △99,112,847 | △5.9 | 83.6 | 88.8 |
| 3,572,222 | 29.6 | 155.7 | 120.1 |
| 11,818,737 | 27.3 | 133.5 | 104.9 |
| △232,767,782 | △4.1 | 92.8 | 96.8 |

經 營 分 析 表

| 項 目 | 算 式 | 単 位 |
|------------------|---|-----|
| 処理区域内人口普及率 | $\frac{\text{処理区域内人口 (人)}}{\text{行政区域内人口 (人)}} \times 100$ | % |
| 水洗化率 | $\frac{\text{水洗便所設置済戸数 (戸)}}{\text{処理区域内戸数 (戸)}} \times 100$ | % |
| 南部終末処理場最大稼働率 | $\frac{\text{1日最大汚水量 (m}^3\text{)}}{\text{1日処理能力 (m}^3\text{)}} \times 100$ | % |
| 南部終末処理場施設利用率 | $\frac{\text{1日平均汚水量 (m}^3\text{)}}{\text{1日処理能力 (m}^3\text{)}} \times 100$ | % |
| 有収率 | $\frac{\text{有収水量 (m}^3\text{)}}{\text{汚水量 (m}^3\text{)}} \times 100$ | % |
| 使用料単価 | $\frac{\text{下水道使用料 (円)}}{\text{有収水量 (m}^3\text{)}}$ | 円 |
| 処理原価 | $\frac{\text{汚水処理経費 (円)}}{\text{有収水量 (m}^3\text{)}}$ | 円 |
| 維持管理費に係る処理原価 | $\frac{\text{汚水処理経費中 維持管理費 (円)}}{\text{有収水量 (m}^3\text{)}}$ | 円 |
| 資本費に係る処理原価 | $\frac{\text{汚水処理経費中 減価償却費+企業債利息 (円)}}{\text{有収水量 (m}^3\text{)}}$ | 円 |
| 使用料単価 対 処理原価比率 | $\frac{\text{使用料単価 (円)}}{\text{処理原価 (円)}} \times 100$ | % |
| 職員給与費 対 下水道使用料比率 | $\frac{\text{汚水処理経費中 職員給与費 (円)}}{\text{下水道使用料 (円)}} \times 100$ | % |
| 職員給与費 対 汚水処理経費比率 | $\frac{\text{汚水処理経費中 職員給与費 (円)}}{\text{汚水処理経費 (円)}} \times 100$ | % |

公共下水道事業

| 比 較 | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 22年度 | 21年度 | 20年度 | 19年度 | 18年度 |
| 89.6 | 89.4 | 89.4 | 89.2 | 88.8 |
| 92.5 | 91.3 | 90.9 | 90.5 | 89.8 |
| 91.2 | 94.0 | 93.3 | 94.8 | 80.0 |
| 79.6 | 79.2 | 76.0 | 79.3 | 74.0 |
| 77.4 | 77.7 | 81.8 | 79.6 | 80.6 |
| 159.4 | 159.4 | 160.8 | 161.6 | 161.8 |
| 120.9 | 128.1 | 135.2 | 142.9 | 147.1 |
| 56.4 | 60.1 | 59.7 | 58.5 | 61.9 |
| 64.5 | 68.1 | 75.5 | 84.3 | 85.2 |
| 131.8 | 124.4 | 118.9 | 113.1 | 110.0 |
| 7.5 | 8.4 | 8.3 | 8.2 | 9.0 |
| 9.9 | 10.5 | 9.9 | 9.2 | 9.9 |

比 較 損 益 計 算 書

| 科 目 | 借 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|------------------------------|---------------|-------|---------------|-------|-------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 営 業 費 用 | 1,183,017,874 | 96.6 | 1,170,931,639 | 96.2 | 12,086,235 |
| 線 路 保 存 費 | 151,581,116 | 12.4 | 130,579,988 | 10.7 | 21,001,128 |
| 電 路 保 存 費 | 47,943,696 | 3.9 | 58,404,391 | 4.8 | △10,460,695 |
| 車 両 保 存 費 | 182,984,796 | 14.9 | 179,908,867 | 14.8 | 3,075,929 |
| 電 車 運 転 費 | 339,653,797 | 27.7 | 342,481,774 | 28.1 | △2,827,977 |
| 運 輸 管 理 費 | 187,250,857 | 15.3 | 187,064,556 | 15.4 | 186,301 |
| 一 般 管 理 費 | 114,326,468 | 9.3 | 141,957,109 | 11.7 | △27,630,641 |
| 減 価 償 却 費 | 159,277,144 | 13.0 | 130,534,954 | 10.7 | 28,742,190 |
| 営 業 外 費 用 | 41,049,200 | 3.4 | 46,730,084 | 3.8 | △5,680,884 |
| 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 32,323,135 | 2.6 | 39,057,382 | 3.2 | △6,734,247 |
| 雑 支 出 | 8,726,065 | 0.7 | 7,672,702 | 0.6 | 1,053,363 |
| 計 | 1,224,067,074 | 100.0 | 1,217,661,723 | 100.0 | 6,405,351 |
| 当 年 度 純 利 益 | 155,230,534 | | 67,565,576 | | 87,664,958 |
| 合 計 | 1,379,297,608 | | 1,285,227,299 | | 94,070,309 |
| 前 年 度 繰 越 欠 損 金 | 2,250,243,259 | | 2,320,243,259 | | |
| 当 年 度 未 処 理 欠 損 金 | 2,095,012,725 | | 2,252,677,683 | | |
| 資 本 剰 余 金 繰 入 額 | | | 2,434,424 | | |
| 翌 年 度 繰 越 欠 損 金 | | | 2,250,243,259 | | |

交通事業

| 科 目 | 貸 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|-------------|---------------|-------|---------------|-------|------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 営 業 収 益 | 980,700,835 | 71.1 | 980,275,960 | 76.3 | 424,875 |
| 運 輸 収 益 | 925,823,760 | 67.1 | 932,061,891 | 72.5 | △6,238,131 |
| 運 輸 雑 収 益 | 54,877,075 | 4.0 | 48,214,069 | 3.8 | 6,663,006 |
| 営 業 外 収 益 | 280,596,773 | 20.3 | 234,951,339 | 18.3 | 45,645,434 |
| 他 会 計 負 担 金 | 80,648,600 | 5.8 | 65,407,000 | 5.1 | 15,241,600 |
| 他 会 計 補 助 金 | 196,852,940 | 14.3 | 163,785,951 | 12.7 | 33,066,989 |
| 雑 収 益 | 3,095,233 | 0.2 | 5,758,388 | 0.4 | △2,663,155 |
| 特 別 利 益 | 118,000,000 | 8.6 | 70,000,000 | 5.4 | 48,000,000 |
| 他 会 計 補 助 金 | 118,000,000 | 8.6 | 70,000,000 | 5.4 | 48,000,000 |
| 合 計 | 1,379,297,608 | 100.0 | 1,285,227,299 | 100.0 | 94,070,309 |

比 較 貸 借 対 照 表

| 科 目 | 借 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|--------------------|-----------------|-------|-----------------|-------|---------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構 成 比 | 金 額 | 構 成 比 | |
| 固 定 資 産 | 2,133,162,221 | 95.3 | 2,196,863,356 | 93.5 | △63,701,135 |
| 軌道事業運送施設 有形固定資産 | 2,132,920,221 | 95.3 | 2,196,621,356 | 93.5 | △63,701,135 |
| 土 地 | 7,775,300 | 0.3 | 7,775,300 | 0.3 | 0 |
| 建 物 | 168,852,584 | 7.5 | 169,831,937 | 7.2 | △979,353 |
| 線 路 設 備 | 1,313,135,111 | 58.7 | 1,288,074,336 | 54.8 | 25,060,775 |
| 電 路 設 備 | 57,907,092 | 2.6 | 57,323,785 | 2.4 | 583,307 |
| そ の 他 構 築 物 | 427,092 | 0.0 | 436,294 | 0.0 | △9,202 |
| 車 両 | 382,336,821 | 17.1 | 445,766,088 | 19.0 | △63,429,267 |
| 機 械 及 び 装 置 | 194,620,174 | 8.7 | 219,089,890 | 9.3 | △24,469,716 |
| 工 具 ・ 器 具 及 び 備 品 | 7,866,047 | 0.4 | 8,323,726 | 0.4 | △457,679 |
| (減価償却累計額) | (3,937,835,755) | — | (3,803,133,701) | — | (134,702,054) |
| 投 資 | 242,000 | 0.0 | 242,000 | 0.0 | 0 |
| 出 資 金 | 242,000 | 0.0 | 242,000 | 0.0 | 0 |
| 流 動 資 産 | 105,383,338 | 4.7 | 153,575,590 | 6.5 | △48,192,252 |
| 現 金 預 金 | 18,475,005 | 0.8 | 25,868,927 | 1.1 | △7,393,922 |
| 未 収 金 | 31,657,797 | 1.4 | 84,674,061 | 3.6 | △53,016,264 |
| 貯 蔵 品 | 54,745,039 | 2.4 | 42,178,805 | 1.8 | 12,566,234 |
| 前 払 費 用 | 505,497 | 0.0 | 581,437 | 0.0 | △75,940 |
| 前 払 金 | — | — | 272,360 | 0.0 | △272,360 |
| 合 計 | 2,238,545,559 | 100.0 | 2,350,438,946 | 100.0 | △111,893,387 |

交通事業

| 科 目 | 貸 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|-------------------|---------------|-------|---------------|-------|--------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 流 動 負 債 | 1,084,877,316 | 48.5 | 1,323,096,812 | 56.3 | △238,219,496 |
| 一 時 借 入 金 | 960,000,000 | 42.9 | 1,210,000,000 | 51.5 | △250,000,000 |
| 未 払 金 | 114,069,576 | 5.1 | 100,577,802 | 4.3 | 13,491,774 |
| 前 受 金 | 6,977,975 | 0.3 | 8,053,675 | 0.3 | △1,075,700 |
| そ の 他 流 動 負 債 | 3,829,765 | 0.2 | 4,465,335 | 0.2 | △635,570 |
| 資 本 金 | 1,716,037,261 | 76.7 | 1,818,817,876 | 77.4 | △102,780,615 |
| 自 己 資 本 金 | 382,656,904 | 17.1 | 382,656,904 | 16.3 | 0 |
| 借 入 資 本 金 | 1,333,380,357 | 59.6 | 1,436,160,972 | 61.1 | △102,780,615 |
| 企 業 債 | 1,333,380,357 | 59.6 | 1,436,160,972 | 61.1 | △102,780,615 |
| 剰 余 金 | △562,369,018 | △25.1 | △791,475,742 | △33.7 | 229,106,724 |
| 資 本 剰 余 金 | 1,532,643,707 | 68.5 | 1,461,201,941 | 62.2 | 71,441,766 |
| 受 贈 財 産 評 価 額 | 146,571,042 | 6.5 | 146,571,042 | 6.2 | 0 |
| 国 庫 補 助 金 | 178,636,483 | 8.0 | 161,969,817 | 6.9 | 16,666,666 |
| 他 会 計 補 助 金 | 1,131,001,832 | 50.5 | 1,076,226,732 | 45.8 | 54,775,100 |
| 工 事 負 担 金 | 76,434,350 | 3.4 | 76,434,350 | 3.3 | 0 |
| 欠 損 金 | 2,095,012,725 | 93.6 | 2,252,677,683 | 95.8 | △157,664,958 |
| 当 年 度 未 処 理 欠 損 金 | 2,095,012,725 | 93.6 | 2,252,677,683 | 95.8 | △157,664,958 |
| 合 計 | 2,238,545,559 | 100.0 | 2,350,438,946 | 100.0 | △111,893,387 |

費 用 年 度 別 比 較 表

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | |
|------------------------------|---------------|-------|---------------|-------|
| | 金 額 | 構 成 比 | 金 額 | 構 成 比 |
| 営 業 費 用 | 1,183,017,874 | 96.6 | 1,170,931,639 | 96.2 |
| 職 員 給 与 費 | 595,442,640 | 48.6 | 619,401,933 | 50.9 |
| 給 料 ・ 手 当 等 | 397,113,837 | 32.4 | 410,255,305 | 33.7 |
| 報 酬 ・ 賃 金 | 100,906,960 | 8.2 | 111,876,124 | 9.2 |
| 法 定 福 利 費 | 97,421,843 | 8.0 | 97,270,504 | 8.0 |
| 退 職 給 与 金 | 27,098,887 | 2.2 | 41,841,121 | 3.4 |
| 経 費 | 383,658,347 | 31.3 | 367,711,789 | 30.2 |
| 修 繕 費 | 224,653,418 | 18.4 | 215,886,221 | 17.7 |
| 除 雪 費 | 28,285,910 | 2.3 | 27,944,298 | 2.3 |
| 乗 車 券 費 | 5,201,450 | 0.4 | 5,357,362 | 0.4 |
| 動 力 費 | 47,260,295 | 3.9 | 49,262,406 | 4.0 |
| 賃 借 料 | 8,174,859 | 0.7 | 8,729,177 | 0.7 |
| そ の 他 | 70,082,415 | 5.7 | 60,532,325 | 5.0 |
| 固 定 資 産 除 却 費 | 17,540,856 | 1.4 | 11,441,842 | 0.9 |
| 減 価 償 却 費 | 159,277,144 | 13.0 | 130,534,954 | 10.7 |
| 営 業 外 費 用 | 41,049,200 | 3.4 | 46,730,084 | 3.8 |
| 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 32,323,135 | 2.6 | 39,057,382 | 3.2 |
| 雑 支 出 | 8,726,065 | 0.7 | 7,672,702 | 0.6 |
| 合 計 | 1,224,067,074 | 100.0 | 1,217,661,723 | 100.0 |

交 通 事 業

| 対前年度比較 | | 指数(20年度=100) | |
|-------------|-------|--------------|---------|
| 増減額 | 増減率 | 22年度 | 21年度 |
| 12,086,235 | 1.0 | 103.2 | 102.1 |
| △23,959,293 | △3.9 | 98.3 | 102.2 |
| △13,141,468 | △3.2 | 99.5 | 102.8 |
| △10,969,164 | △9.8 | 84.4 | 93.6 |
| 151,339 | 0.2 | 111.3 | 111.2 |
| △14,742,234 | △35.2 | 713.2 | 1,101.2 |
| 15,946,558 | 4.3 | 98.1 | 94.0 |
| 8,767,197 | 4.1 | 93.3 | 89.7 |
| 341,612 | 1.2 | 134.4 | 132.8 |
| △155,912 | △2.9 | 87.3 | 89.9 |
| △2,002,111 | △4.1 | 87.3 | 91.0 |
| △554,318 | △6.4 | 103.1 | 110.0 |
| 9,550,090 | 15.8 | 114.6 | 99.0 |
| 6,099,014 | 53.3 | 188.5 | 122.9 |
| 28,742,190 | 22.0 | 116.6 | 95.5 |
| △5,680,884 | △12.2 | 70.8 | 80.6 |
| △6,734,247 | △17.2 | 64.7 | 78.2 |
| 1,053,363 | 13.7 | 109.2 | 96.0 |
| 6,405,351 | 0.5 | 101.6 | 101.1 |

経 営 分 析 表

| 項 目 | 算 式 | 単 位 |
|----------------|--|-----|
| 稼働率 | $\frac{\text{年間延使用車両(両)}}{\text{年間延在籍車両(両)}} \times 100$ | % |
| 1日1車当たり輸送人員 | $\frac{\text{年間輸送人員(人)}}{\text{年間延使用車両(両)}}$ | 人 |
| 1日1車当たり走行キロ | $\frac{\text{年間走行キロ(km)}}{\text{年間延使用車両(両)}}$ | k m |
| 1日1車当たり収入 | $\frac{\text{年間運輸収入(円)}}{\text{年間延使用車両(両)}}$ | 円 |
| 車キロ当たり収入 | $\frac{\text{年間運輸収入(円)}}{\text{年間走行キロ(km)}}$ | 円 |
| 車キロ当たり費用 | $\frac{\text{年間費用－受託工事費(円)}}{\text{年間走行キロ(km)}}$ | 円 |
| 運転手1人当たり年間走行キロ | $\frac{\text{年間走行キロ(km)}}{\text{年度末運転手数(人)}}$ | k m |
| 定期比率(人員) | $\frac{\text{定期乗車人員(人)}}{\text{年間輸送人員(人)}} \times 100$ | % |
| 定期比率(金額) | $\frac{\text{定期乗車料金(円)}}{\text{運輸収益(円)}} \times 100$ | % |
| 定期乗客1人当たり運輸収益 | $\frac{\text{定期乗車料金(円)}}{\text{定期乗車人員(人)}}$ | 円 |
| 乗務員1人当たり運輸収益 | $\frac{\text{運輸収益(円)}}{\text{年度末乗務員数(人)}}$ | 円 |
| 乗務員1人当たり輸送人員 | $\frac{\text{年間輸送人員(人)}}{\text{年度末乗務員数(人)}}$ | 人 |
| 職員給与費対運輸収益比率 | $\frac{\text{職員給与費(円)}}{\text{運輸収益(円)}} \times 100$ | % |
| 職員給与費対営業収益比率 | $\frac{\text{職員給与費(円)}}{\text{営業収益(円)}} \times 100$ | % |

交 通 事 業

| 比 | | 較 | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 22年度 | 21年度 | 20年度 | 19年度 | 18年度 |
| 72.7 | 77.6 | 75.2 | 73.8 | 71.2 |
| 688 | 647 | 705 | 733 | 765 |
| 118.3 | 123.0 | 123.3 | 124.9 | 129.3 |
| 109,087 | 102,888 | 108,924 | 115,133 | 120,675 |
| 922 | 837 | 883 | 921 | 933 |
| 1,220 | 1,093 | 1,079 | 1,145 | 1,108 |
| 25,735.5 | 28,569.4 | 28,622.3 | 26,532.5 | 25,807.2 |
| 6.6 | 6.5 | 6.1 | 6.0 | 6.3 |
| 5.9 | 5.8 | 5.6 | 5.4 | 5.6 |
| 141 | 141 | 142 | 142 | 141 |
| 23,739,071 | 23,899,023 | 25,281,516 | 24,449,365 | 24,081,632 |
| 149,634 | 150,271 | 163,534 | 155,733 | 152,710 |
| 64.3 | 66.5 | 61.5 | 60.5 | 59.7 |
| 60.7 | 63.2 | 58.5 | 57.9 | 57.2 |

比 較 損 益 計 算 書

| 科 目 | 借 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|----------------|----------------|-------|----------------|-------|---------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 函館病院医業費用 | 15,402,644,318 | 86.2 | 15,690,525,609 | 86.6 | △287,881,291 |
| 給 与 費 | 7,434,965,185 | 41.6 | 7,355,983,633 | 40.6 | 78,981,552 |
| 材 料 費 | 4,120,491,767 | 23.1 | 4,426,556,612 | 24.4 | △306,064,845 |
| 経 費 | 2,469,008,794 | 13.8 | 2,485,930,625 | 13.7 | △16,921,831 |
| 減価償却費 | 1,324,645,905 | 7.4 | 1,358,801,364 | 7.5 | △34,155,459 |
| 資産減耗費 | 827,000 | 0.0 | 10,263,001 | 0.1 | △9,436,001 |
| 研究研修費 | 52,705,667 | 0.3 | 52,990,374 | 0.3 | △284,707 |
| 恵山病院医業費用 | 714,489,934 | 4.0 | 674,280,070 | 3.7 | 40,209,864 |
| 給 与 費 | 477,768,034 | 2.7 | 434,418,652 | 2.4 | 43,349,382 |
| 材 料 費 | 71,701,291 | 0.4 | 59,908,406 | 0.3 | 11,792,885 |
| 経 費 | 106,832,763 | 0.6 | 107,977,069 | 0.6 | △1,144,306 |
| 減価償却費 | 57,372,661 | 0.3 | 69,846,987 | 0.4 | △12,474,326 |
| 資産減耗費 | — | — | 624,775 | 0.0 | △624,775 |
| 研究研修費 | 815,185 | 0.0 | 1,504,181 | 0.0 | △688,996 |
| 南茅部病院医業費用 | 578,919,787 | 3.2 | 577,369,128 | 3.2 | 1,550,659 |
| 給 与 費 | 356,045,642 | 2.0 | 350,623,431 | 1.9 | 5,422,211 |
| 材 料 費 | 78,963,331 | 0.4 | 75,941,778 | 0.4 | 3,021,553 |
| 経 費 | 118,334,431 | 0.7 | 113,574,590 | 0.6 | 4,759,841 |
| 減価償却費 | 23,786,495 | 0.1 | 28,850,637 | 0.2 | △5,064,142 |
| 資産減耗費 | 195,700 | 0.0 | 6,565,350 | 0.0 | △6,369,650 |
| 研究研修費 | 1,594,188 | 0.0 | 1,813,342 | 0.0 | △219,154 |
| 高等看護学院費用 | 140,939,832 | 0.8 | 130,716,348 | 0.7 | 10,223,484 |
| 給 与 費 | 105,938,257 | 0.6 | 97,177,345 | 0.5 | 8,760,912 |
| 経 費 | 17,062,414 | 0.1 | 16,702,036 | 0.1 | 360,378 |
| 減価償却費 | 14,736,905 | 0.1 | 14,764,797 | 0.1 | △27,892 |
| 資産減耗費 | 6,980 | 0.0 | — | — | 6,980 |
| 研究研修費 | 3,195,276 | 0.0 | 2,072,170 | 0.0 | 1,123,106 |
| 医業外費用 | 925,361,156 | 5.2 | 970,039,348 | 5.4 | △44,678,192 |
| 支払利息及び企業債取扱諸費 | 505,048,078 | 2.8 | 535,404,426 | 3.0 | △30,356,348 |
| 患者外給食材料費 | 840,904 | 0.0 | 1,079,323 | 0.0 | △238,419 |
| 繰延勘定償却 | 85,134,219 | 0.5 | 85,828,664 | 0.5 | △694,445 |
| 雑 損 失 | 334,337,955 | 1.9 | 347,726,935 | 1.9 | △13,388,980 |
| 特 別 損 失 | 108,625,016 | 0.6 | 72,748,928 | 0.4 | 35,876,088 |
| 修学資金貸付金返還義務消滅額 | 16,200,000 | 0.1 | 600,000 | 0.0 | 15,600,000 |
| 過年度損益修正損 | 89,430,016 | 0.5 | 72,148,928 | 0.4 | 17,281,088 |
| 固定資産売却損 | 2,995,000 | 0.0 | — | — | 2,995,000 |
| 合 計 | 17,870,980,043 | 100.0 | 18,115,679,431 | 100.0 | △244,699,388 |
| 当 年 度 純 利 益 | 406,864,916 | | △1,198,519,820 | | 1,605,384,736 |
| 合 計 | 18,277,844,959 | | 16,917,159,611 | | 1,360,685,348 |
| 前年度繰越欠損金 | 11,581,466,637 | | 11,351,214,114 | | |
| 当年度未処理欠損金 | 11,174,601,721 | | 12,549,733,934 | | |
| 資本剰余金繰入額 | | | 968,267,297 | | |
| 翌年度繰越欠損金 | | | 11,581,466,637 | | |

病院事業

| 科 目 | 貸 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|-----------|----------------|-------|----------------|-------|---------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 函館病院医業収益 | 15,035,874,950 | 82.3 | 14,114,203,757 | 83.4 | 921,671,193 |
| 入院収益 | 11,610,979,947 | 63.5 | 10,944,238,685 | 64.7 | 666,741,262 |
| 外来収益 | 3,224,303,800 | 17.6 | 2,976,262,067 | 17.6 | 248,041,733 |
| その他医業収益 | 200,591,203 | 1.1 | 193,703,005 | 1.1 | 6,888,198 |
| | | | | | |
| 恵山病院医業収益 | 532,246,299 | 2.9 | 523,171,782 | 3.1 | 9,074,517 |
| 入院収益 | 424,419,443 | 2.3 | 421,261,631 | 2.5 | 3,157,812 |
| 外来収益 | 97,090,570 | 0.5 | 91,859,894 | 0.5 | 5,230,676 |
| その他医業収益 | 10,736,286 | 0.1 | 10,050,257 | 0.1 | 686,029 |
| | | | | | |
| 南茅部病院医業収益 | 396,612,753 | 2.2 | 393,330,392 | 2.3 | 3,282,361 |
| 入院収益 | 252,218,234 | 1.4 | 258,496,519 | 1.5 | △6,278,285 |
| 外来収益 | 134,661,414 | 0.7 | 124,538,654 | 0.7 | 10,122,760 |
| その他医業収益 | 9,733,105 | 0.1 | 10,295,219 | 0.1 | △562,114 |
| | | | | | |
| 高等看護学院収益 | 72,106,800 | 0.4 | 63,568,000 | 0.4 | 8,538,800 |
| 高等看護学院収益 | 72,106,800 | 0.4 | 63,568,000 | 0.4 | 8,538,800 |
| | | | | | |
| 医業外収益 | 1,960,543,397 | 10.7 | 1,822,689,998 | 10.8 | 137,853,399 |
| 他会計負担金 | 1,222,527,167 | 6.7 | 1,175,885,771 | 7.0 | 46,641,396 |
| 他会計補助金 | 507,177,000 | 2.8 | 411,396,000 | 2.4 | 95,781,000 |
| 補助金 | 82,256,268 | 0.5 | 67,917,860 | 0.4 | 14,338,408 |
| 患者外給食収益 | 972,333 | 0.0 | 1,018,571 | 0.0 | △46,238 |
| その他医業外収益 | 147,610,629 | 0.8 | 166,471,796 | 1.0 | △18,861,167 |
| | | | | | |
| 特別利益 | 280,460,760 | 1.5 | 195,682 | 0.0 | 280,265,078 |
| 他会計補助金 | 280,000,000 | 1.5 | — | — | 280,000,000 |
| 過年度損益修正益 | 460,760 | 0.0 | 195,682 | 0.0 | 265,078 |
| | | | | | |
| 合 計 | 18,277,844,959 | 100.0 | 16,917,159,611 | 100.0 | 1,360,685,348 |

比 較 貸 借 対 照 表

| 科 目 | 借 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|---------------|------------------|-------|------------------|-------|-----------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 固 定 資 産 | 21,184,312,497 | 84.4 | 22,576,309,343 | 85.2 | △1,391,996,846 |
| 有 形 固 定 資 産 | 21,088,544,497 | 84.0 | 22,511,431,343 | 84.9 | △1,422,886,846 |
| 土 地 | 2,393,211,794 | 9.5 | 2,393,211,794 | 9.0 | 0 |
| 建 物 | 16,778,335,723 | 66.8 | 17,715,280,398 | 66.8 | △936,944,675 |
| 構 築 物 | 119,638,643 | 0.5 | 171,430,672 | 0.6 | △51,792,029 |
| 医 療 用 器 械 備 品 | 1,643,351,364 | 6.5 | 2,075,966,630 | 7.8 | △432,615,266 |
| そ の 他 器 械 備 品 | 142,254,223 | 0.6 | 143,789,099 | 0.5 | △1,534,876 |
| 車 両 | 5,245,750 | 0.0 | 5,245,750 | 0.0 | 0 |
| 放 射 性 同 位 元 素 | 6,507,000 | 0.0 | 6,507,000 | 0.0 | 0 |
| (減価償却累計額) | (16,614,148,214) | — | (15,325,118,168) | — | (1,289,030,046) |
| 投 資 | 95,768,000 | 0.4 | 64,878,000 | 0.2 | 30,890,000 |
| 投 資 有 価 証 券 | 2,000,000 | 0.0 | 2,000,000 | 0.0 | 0 |
| 長 期 貸 付 金 | 93,620,000 | 0.4 | 62,730,000 | 0.2 | 30,890,000 |
| 出 資 金 | 148,000 | 0.0 | 148,000 | 0.0 | 0 |
| 流 動 資 産 | 3,129,461,342 | 12.5 | 3,059,930,892 | 11.5 | 69,530,450 |
| 現 金 預 金 | 50,562,584 | 0.2 | 51,747,569 | 0.2 | △1,184,985 |
| 未 収 金 | 3,055,748,382 | 12.2 | 2,986,030,020 | 11.3 | 69,718,362 |
| 貯 蔵 品 | 23,150,376 | 0.1 | 22,153,303 | 0.1 | 997,073 |
| 繰 延 勘 定 | 785,234,922 | 3.1 | 870,139,230 | 3.3 | △84,904,308 |
| 控除対象外消費税額 | 785,234,922 | 3.1 | 870,139,230 | 3.3 | △84,904,308 |
| 合 計 | 25,099,008,761 | 100.0 | 26,506,379,465 | 100.0 | △1,407,370,704 |

病院事業

| 科 目 | 貸 | | 方 | | 対前年度増減額 |
|-------------------|----------------|-------|----------------|-------|----------------|
| | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| 固 定 負 債 | 3,226,100,000 | 12.9 | 3,226,100,000 | 12.2 | 0 |
| 企 業 債 | 2,926,100,000 | 11.7 | 2,926,100,000 | 11.0 | 0 |
| 他 会 計 借 入 金 | 300,000,000 | 1.2 | 300,000,000 | 1.1 | 0 |
| 流 動 負 債 | 4,271,535,494 | 17.0 | 5,515,889,243 | 20.8 | △1,244,353,749 |
| 一 時 借 入 金 | 2,900,000,000 | 11.6 | 4,110,000,000 | 15.5 | △1,210,000,000 |
| 未 払 金 | 1,317,081,708 | 5.2 | 1,353,281,035 | 5.1 | △36,199,327 |
| そ の 他 流 動 負 債 | 54,453,786 | 0.2 | 52,608,208 | 0.2 | 1,845,578 |
| 資 本 金 | 25,020,860,327 | 99.7 | 26,530,547,029 | 100.1 | △1,509,686,702 |
| 自 己 資 本 金 | 2,799,167,981 | 11.2 | 2,799,167,981 | 10.6 | 0 |
| 借 入 資 本 金 | 22,221,692,346 | 88.5 | 23,731,379,048 | 89.5 | △1,509,686,702 |
| 企 業 債 | 22,221,692,346 | 88.5 | 23,731,379,048 | 89.5 | △1,509,686,702 |
| 剰 余 金 | △7,419,487,060 | △29.6 | △8,766,156,807 | △33.1 | 1,346,669,747 |
| 資 本 剰 余 金 | 3,755,114,661 | 15.0 | 3,783,577,127 | 14.3 | △28,462,466 |
| 受 贈 財 産 評 価 額 | 43,263,264 | 0.2 | 43,263,264 | 0.2 | 0 |
| 補 助 金 | 2,471,956,692 | 9.8 | 2,469,943,974 | 9.3 | 2,012,718 |
| 他 会 計 負 担 金 | 937,672,365 | 3.7 | 960,863,458 | 3.6 | △23,191,093 |
| 他 会 計 補 助 金 | 132,861,840 | 0.5 | 139,356,977 | 0.5 | △6,495,137 |
| 寄 付 金 | 169,360,500 | 0.7 | 170,149,454 | 0.6 | △788,954 |
| 欠 損 金 | 11,174,601,721 | 44.5 | 12,549,733,934 | 47.3 | △1,375,132,213 |
| 当 年 度 未 処 理 欠 損 金 | 11,174,601,721 | 44.5 | 12,549,733,934 | 47.3 | △1,375,132,213 |
| 合 計 | 25,099,008,761 | 100.0 | 26,506,379,465 | 100.0 | △1,407,370,704 |

費 用 年 度 別 比 較 表

| 項 目 | 2 2 年 度 | | 2 1 年 度 | |
|---------------------------|----------------|-------|----------------|-------|
| | 金 額 | 構 成 比 | 金 額 | 構 成 比 |
| 医 業 費 用 | 16,696,054,039 | 93.4 | 16,942,174,807 | 93.5 |
| 職 員 給 与 費 | 7,906,755,281 | 44.2 | 7,683,339,233 | 42.4 |
| 給 料 ・ 手 当 等 | 6,054,103,024 | 33.9 | 5,973,651,100 | 33.0 |
| 報 酬 ・ 賃 金 | 675,326,851 | 3.8 | 613,268,030 | 3.4 |
| 法 定 福 利 費 | 1,177,325,406 | 6.6 | 1,096,420,103 | 6.1 |
| 退 職 給 与 金 | 362,023,580 | 2.0 | 457,686,483 | 2.5 |
| 材 料 費 | 4,271,156,389 | 23.9 | 4,562,406,796 | 25.2 |
| 薬 品 費 | 2,507,466,843 | 14.0 | 2,777,948,122 | 15.3 |
| 診 療 材 料 費 | 1,622,475,181 | 9.1 | 1,647,288,015 | 9.1 |
| 患 者 給 食 費 | 131,054,456 | 0.7 | 126,459,849 | 0.7 |
| 医 療 用 消 耗 備 品 費 | 10,159,909 | 0.1 | 10,710,810 | 0.1 |
| 経 費 | 2,694,175,988 | 15.1 | 2,707,482,284 | 14.9 |
| 委 託 料 | 1,599,045,358 | 8.9 | 1,663,064,276 | 9.2 |
| 光 熱 水 費 | 133,702,462 | 0.7 | 128,864,377 | 0.7 |
| 燃 料 費 | 198,724,065 | 1.1 | 182,560,593 | 1.0 |
| 修 繕 費 | 124,906,490 | 0.7 | 119,897,281 | 0.7 |
| そ の 他 | 637,797,613 | 3.6 | 613,095,757 | 3.4 |
| 減 価 償 却 費 | 1,405,805,061 | 7.9 | 1,457,498,988 | 8.0 |
| 資 産 減 耗 費 | 1,022,700 | 0.0 | 17,453,126 | 0.1 |
| 研 究 研 修 費 | 55,115,040 | 0.3 | 56,307,897 | 0.3 |
| 高等看護学院費用 | 140,939,832 | 0.8 | 130,716,348 | 0.7 |
| 医 業 外 費 用 | 925,361,156 | 5.2 | 970,039,348 | 5.4 |
| 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 505,048,078 | 2.8 | 535,404,426 | 3.0 |
| 患 者 外 給 食 材 料 費 | 840,904 | 0.0 | 1,079,323 | 0.0 |
| 繰 延 勘 定 償 却 | 85,134,219 | 0.5 | 85,828,664 | 0.5 |
| 雑 損 失 | 334,337,955 | 1.9 | 347,726,935 | 1.9 |
| 特 別 損 失 | 108,625,016 | 0.6 | 72,748,928 | 0.4 |
| 合 計 | 17,870,980,043 | 100.0 | 18,115,679,431 | 100.0 |

病院事業

| 対前年度比較 | | 指数（20年度＝100） | |
|--------------|-------|--------------|-------|
| 増減額 | 増減率 | 22年度 | 21年度 |
| △246,120,768 | △1.5 | 101.8 | 103.3 |
| 223,416,048 | 2.9 | 106.9 | 103.8 |
| 80,451,924 | 1.3 | 102.8 | 101.4 |
| 62,058,821 | 10.1 | 126.6 | 114.9 |
| 80,905,303 | 7.4 | 120.8 | 112.5 |
| △95,662,903 | △20.9 | 58.8 | 74.3 |
| △291,250,407 | △6.4 | 103.7 | 110.8 |
| △270,481,279 | △9.7 | 102.6 | 113.7 |
| △24,812,834 | △1.5 | 105.7 | 107.3 |
| 4,594,607 | 3.6 | 106.2 | 102.5 |
| △550,901 | △5.1 | 56.3 | 59.3 |
| △13,306,296 | △0.5 | 99.5 | 100.0 |
| △64,018,918 | △3.8 | 96.3 | 100.2 |
| 4,838,085 | 3.8 | 98.1 | 94.6 |
| 16,163,472 | 8.9 | 110.1 | 101.2 |
| 5,009,209 | 4.2 | 112.4 | 107.9 |
| 24,701,856 | 4.0 | 103.0 | 99.0 |
| △51,693,927 | △3.5 | 94.0 | 97.5 |
| △16,430,426 | △94.1 | 11.2 | 190.8 |
| △1,192,857 | △2.1 | 96.9 | 99.0 |
| 10,223,484 | 7.8 | 106.0 | 98.4 |
| △44,678,192 | △4.6 | 95.7 | 100.4 |
| △30,356,348 | △5.7 | 90.6 | 96.1 |
| △238,419 | △22.1 | 79.3 | 101.8 |
| △694,445 | △0.8 | 99.2 | 100.0 |
| △13,388,980 | △3.9 | 103.7 | 107.9 |
| 35,876,088 | 49.3 | 126.9 | 85.0 |
| △244,699,388 | △1.4 | 101.6 | 103.0 |

經 営 分 析 表

| 項 目 | 算 式 | 単 位 |
|---------------------------------|---|-----|
| 病 床 利 用 率 | $\frac{\text{年延入院患者数 (人)}}{\text{年延病床数 (床)}} \times 100$ | % |
| 一 般 病 床 利 用 率 | $\frac{\text{年延一般入院患者数 (人)}}{\text{年延一般病床数 (床)}} \times 100$ | % |
| 療 養 病 床 利 用 率 | $\frac{\text{年延療養入院患者数 (人)}}{\text{年延療養病床数 (床)}} \times 100$ | % |
| 結 核 病 床 利 用 率 | $\frac{\text{年延結核入院患者数 (人)}}{\text{年延結核病床数 (床)}} \times 100$ | % |
| 精 神 病 床 利 用 率 | $\frac{\text{年延精神病入院患者数 (人)}}{\text{年延精神病床数 (床)}} \times 100$ | % |
| 感 染 症 病 床 利 用 率 | $\frac{\text{年延感染症入院患者数 (人)}}{\text{年延感染症病床数 (床)}} \times 100$ | % |
| 入 院 外 来 患 者 比 率 | $\frac{\text{年延外来患者数 (人)}}{\text{年延入院患者数 (人)}} \times 100$ | % |
| 患者 1 人 1 日 当 た り 診 療 収 入 | $\frac{\text{診 療 収 益 (外来+入院) (円)}}{\text{年 延 患 者 数 (外来+入院) (人)}}$ | 円 |
| 入 院 患 者 1 人 1 日 当 た り 診 療 収 入 | $\frac{\text{入 院 診 療 収 益 (円)}}{\text{年 延 入 院 患 者 数 (人)}}$ | 円 |
| 外 来 患 者 1 人 1 日 当 た り 診 療 収 入 | $\frac{\text{外 来 診 療 収 益 (円)}}{\text{年 延 外 来 患 者 数 (人)}}$ | 円 |
| 患 者 1 人 1 日 当 た り 収 入 | $\frac{\text{医 業 収 益 (円)}}{\text{年 延 患 者 数 (人)}}$ | 円 |
| 患 者 1 人 1 日 当 た り 費 用 | $\frac{\text{医 業 費 用 (円)}}{\text{年 延 患 者 数 (人)}}$ | 円 |
| 患 者 1 人 1 日 当 た り 医 療 材 料 費 | $\frac{\text{薬 品 費 + 医 療 材 料 費 (円)}}{\text{年 延 患 者 数 (人)}}$ | 円 |
| 入 院 患 者 1 人 1 日 当 た り 給 食 費 | $\frac{\text{患 者 用 給 食 材 料 費 + 委 託 料 (円)}}{\text{年 延 入 院 患 者 数 (人)}}$ | 円 |
| 入 院 患 者 1 人 1 日 当 た り 給 食 材 料 費 | $\frac{\text{患 者 用 給 食 材 料 費 (円)}}{\text{年 延 入 院 患 者 数 (人)}}$ | 円 |
| 投 薬 薬 品 消 費 率 | $\frac{\text{投 薬 用 薬 品 費 (円)}}{\text{投 薬 料 収 入 (円)}} \times 100$ | % |
| 注 射 薬 品 消 費 率 | $\frac{\text{注 射 用 薬 品 費 (円)}}{\text{注 射 料 収 入 (円)}} \times 100$ | % |
| 医 療 材 料 消 費 率 | $\frac{\text{薬 品 費 + 医 療 材 料 費 (円)}}{\text{診 療 収 益 (円)}} \times 100$ | % |
| 医 療 材 料 費 対 医 業 費 用 比 率 | $\frac{\text{薬 品 費 + 医 療 材 料 費 (円)}}{\text{医 業 費 用 (円)}} \times 100$ | % |
| 職 員 給 与 費 対 診 療 収 益 比 率 | $\frac{\text{職 員 給 与 費 (円)}}{\text{診 療 収 益 (円)}} \times 100$ | % |
| 職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 | $\frac{\text{職 員 給 与 費 (円)}}{\text{医 業 収 益 (円)}} \times 100$ | % |

病院事業

| 比 | | 較 | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 22年度 | 21年度 | 20年度 | 19年度 | 18年度 |
| 75.6 | 74.3 | 72.2 | 72.6 | 75.8 |
| 82.1 | 79.5 | 74.8 | 81.9 | 83.6 |
| 65.4 | 70.3 | 66.2 | 68.4 | 83.7 |
| 6.5 | 15.1 | 14.1 | 21.4 | 19.7 |
| 67.5 | 67.0 | 82.3 | 50.2 | 58.1 |
| 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 147.5 | 146.3 | 146.5 | 141.0 | 148.3 |
| 27,037 | 25,985 | 23,767 | 21,317 | 19,823 |
| 52,226 | 50,216 | 46,204 | 39,035 | 36,332 |
| 9,959 | 9,426 | 8,452 | 8,748 | 8,689 |
| 27,417 | 26,361 | 24,208 | 21,681 | 20,168 |
| 28,673 | 29,713 | 29,534 | 26,501 | 24,555 |
| 7,110 | 7,780 | 7,194 | 6,632 | 6,366 |
| 1,213 | 1,223 | 1,249 | 1,189 | 1,172 |
| 557 | 546 | 548 | 551 | 563 |
| 109.7 | 108.0 | 90.7 | 81.9 | 75.5 |
| 176.0 | 170.8 | 148.1 | 81.2 | 90.3 |
| 26.3 | 29.9 | 30.3 | 31.1 | 32.1 |
| 24.8 | 26.2 | 24.4 | 25.0 | 25.9 |
| 50.2 | 51.9 | 56.1 | 56.4 | 55.1 |
| 49.5 | 51.1 | 55.0 | 55.5 | 54.1 |

各 会 計 財 務 分 析 表

| 項 目 | 年 度 | 比 率 | | | | |
|------------------|-----|---------|-------|-------|-------|-------|
| | | 水道事業 | 温泉事業 | 下水道事業 | 交通事業 | 病院事業 |
| 1 固定資産構成比率 | 22 | 93.4 | 96.9 | 99.0 | 95.3 | 84.4 |
| | 21 | 94.2 | 97.5 | 99.1 | 93.5 | 85.2 |
| | 20 | 94.5 | 97.6 | 99.3 | 93.7 | 85.8 |
| | 19 | 94.4 | 97.9 | 99.3 | 95.8 | 86.7 |
| | 18 | 95.1 | 97.5 | 99.3 | 90.6 | 86.8 |
| 2 流動資産構成比率 | 22 | 6.6 | 3.1 | 1.0 | 4.7 | 12.5 |
| | 21 | 5.8 | 2.5 | 0.9 | 6.5 | 11.5 |
| | 20 | 5.5 | 2.4 | 0.7 | 6.3 | 10.8 |
| | 19 | 5.6 | 2.1 | 0.7 | 4.2 | 9.8 |
| | 18 | 4.9 | 2.5 | 0.7 | 9.4 | 9.6 |
| 3 固定負債構成比率 | 22 | 60.0 | 99.0 | 45.3 | 59.6 | 101.4 |
| | 21 | 61.3 | 69.9 | 46.2 | 61.1 | 101.7 |
| | 20 | 62.6 | 67.7 | 47.0 | 70.0 | 102.4 |
| | 19 | 63.2 | 56.0 | 47.7 | 77.8 | 90.8 |
| | 18 | 63.2 | 60.0 | 48.3 | 76.9 | 94.3 |
| 4 自己資本構成比率 | 22 | 39.1 | △7.3 | 54.4 | △8.0 | △18.4 |
| | 21 | 37.7 | 23.4 | 53.5 | △17.4 | △22.5 |
| | 20 | 36.7 | 27.0 | 52.7 | △36.9 | △21.1 |
| | 19 | 36.3 | 32.5 | 52.0 | △53.5 | △13.7 |
| | 18 | 35.6 | 36.2 | 51.4 | △62.4 | △7.6 |
| 5 固定長期適合率 | 22 | 94.2 | 105.7 | 99.3 | 184.9 | 101.7 |
| | 21 | 95.2 | 104.5 | 99.4 | 213.8 | 107.6 |
| | 20 | 95.1 | 103.1 | 99.5 | 283.7 | 105.4 |
| | 19 | 94.8 | 110.6 | 99.6 | 395.2 | 112.4 |
| | 18 | 96.2 | 101.3 | 99.6 | 623.4 | 100.0 |
| 6 固 定 比 率 | 22 | 238.5 | — | 182.0 | — | — |
| | 21 | 249.8 | 417.2 | 185.4 | — | — |
| | 20 | 257.5 | 361.8 | 188.3 | — | — |
| | 19 | 259.9 | 301.0 | 190.9 | — | — |
| | 18 | 267.2 | 269.6 | 193.3 | — | — |
| 7 流 動 比 率 | 22 | 782.9 | 36.9 | 383.7 | 9.7 | 73.3 |
| | 21 | 573.4 | 36.9 | 302.7 | 11.6 | 55.5 |
| | 20 | 849.2 | 44.9 | 322.8 | 9.5 | 58.1 |
| | 19 | 1,230.0 | 18.3 | 261.0 | 5.5 | 42.9 |
| | 18 | 404.8 | 66.5 | 215.8 | 11.0 | 72.8 |
| 8 酸 性 試 験 比 率 | 22 | 782.7 | 36.9 | 375.6 | 4.6 | 72.7 |
| | 21 | 573.4 | 36.9 | 297.6 | 8.4 | 55.1 |
| | 20 | 849.2 | 44.9 | 316.6 | 6.7 | 57.4 |
| | 19 | 1,229.9 | 18.3 | 258.3 | 2.6 | 42.3 |
| | 18 | 404.8 | 66.5 | 213.2 | 8.4 | 72.0 |
| 9 現 金 預 金 比 率 | 22 | 545.1 | 3.4 | 176.1 | 1.7 | 1.2 |
| | 21 | 348.1 | 2.6 | 92.9 | 2.0 | 0.9 |
| | 20 | 456.5 | 4.3 | 8.5 | 1.7 | 0.9 |
| | 19 | 664.2 | 1.8 | 1.5 | 1.6 | 0.6 |
| | 18 | 190.6 | 4.1 | 1.4 | 4.9 | 1.7 |
| 10 負 債 比 率 | 22 | 155.5 | — | 83.8 | — | — |
| | 21 | 165.1 | 327.8 | 87.0 | — | — |
| | 20 | 172.4 | 270.6 | 89.6 | — | — |
| | 19 | 175.4 | 207.5 | 92.2 | — | — |
| | 18 | 181.0 | 176.6 | 94.6 | — | — |
| 11 自 己 資 本 回 転 率 | 22 | 35.4 | 226.9 | 7.7 | — | — |
| | 21 | 36.1 | 88.3 | 7.8 | — | — |
| | 20 | 37.5 | 73.4 | 8.0 | — | — |
| | 19 | 39.2 | 64.1 | 8.2 | — | — |
| | 18 | 40.4 | 54.8 | 8.5 | — | — |

| 算式 | 説明 |
|---|---|
| $\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$ | 総資産のうち固定資産が占める割合を示す。固定資産の増大は固定費の増加及び資金の固定化をもたらす。この比率の大きいことは公営企業の特徴であるが、小さい方が望ましい。 |
| $\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}} \times 100$ | 総資産のうち流動資産が占める割合を示す。この比率の大きいことが望ましい。 |
| $\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$ | 総資本のうち長期負債が占める割合を示す。企業の長期安定性を測定するために用い、この比率の小さい方が望ましい。 |
| $\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$ | 総資本のうち自己資本が占める割合を示す。この比率が高いほど企業の安定を増すことを示す。 |
| $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本+固定負債}} \times 100$ | 固定資産投資の安全性をみるもので、固定資産の調達が自己資本と固定負債の範囲内で行われているかを表し、100%以下であることが望ましい。 |
| $\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$ | 固定資産の調達資本の源泉とその運用形態から、自己資本の固定化の危険性を指示し、企業の長期信用能力を測定するのに用いる。常に100%以下であることが望ましい。なお、公営企業はこの比率より固定長期適合率を重視すべきである。 |
| $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 一年以内に現金化できる流動資産と支払を要する流動負債との比率で、短期の返済能力を表す。100%を下回ると、資金不足である。 |
| $\frac{\text{現金預金+未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 流動比率とともに短期債務に対する当座資産による支払能力を判断するのに用いる。理想比率は100%以上である。 |
| $\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$ | 企業の支払能力を測定するのに流動比率とともに用いられる。理想比率は20%以上である。 |
| $\frac{\text{流動負債+固定負債}}{\text{自己資本}} \times 100$ | 企業資本構成の安全度、特に他人資本の安全性を示すため、また比較的長期の支払能力を測定するのに用いる。安全率の限界は100%で、これ以下が望まれる。なお、固定負債比率と流動負債比率とに分けてみる場合は、流動負債比率の小なる方が資本安全性は大である。 |
| $\frac{\text{営業収益}}{\text{平均自己資本}} \times 100$ | 自己資本の利用能率を示すために用い、企業の財務状態の健全性、特に営業過多を判断する尺度とすべきで、比率が低いことは好ましくないが、あまり高いと営業過多を意味する。一般的には同種企業の平均的なものの2倍以上が営業過多を意味する。 |

| 項 目 | 年 度 | 比 率 | | | | |
|-------------------|-----|-------|--------|-------|-------|-------|
| | | 水道事業 | 温泉事業 | 下水道事業 | 交通事業 | 病院事業 |
| 1 2 総 資 本 回 転 率 | 22 | 13.6 | 23.8 | 4.1 | 42.7 | 61.9 |
| | 21 | 13.4 | 22.3 | 4.1 | 44.0 | 55.3 |
| | 20 | 13.7 | 21.9 | 4.2 | 49.4 | 47.1 |
| | 19 | 14.1 | 22.0 | 4.3 | 49.0 | 44.0 |
| | 18 | 14.4 | 22.0 | 4.3 | 49.4 | 43.5 |
| 1 3 固 定 資 産 回 転 率 | 22 | 14.5 | 24.5 | 4.2 | 45.3 | 73.0 |
| | 21 | 14.2 | 22.8 | 4.2 | 47.0 | 64.7 |
| | 20 | 14.5 | 22.4 | 4.2 | 52.1 | 54.6 |
| | 19 | 14.9 | 22.6 | 4.3 | 52.7 | 50.7 |
| | 18 | 15.2 | 22.8 | 4.4 | 53.3 | 50.5 |
| 1 4 流 動 資 産 回 転 率 | 22 | 219.2 | 875.5 | 444.7 | 757.4 | 515.9 |
| | 21 | 239.0 | 915.2 | 542.5 | 683.3 | 495.4 |
| | 20 | 246.7 | 973.8 | 634.4 | 938.6 | 456.9 |
| | 19 | 267.0 | 946.9 | 634.6 | 710.2 | 452.2 |
| | 18 | 259.7 | 628.7 | 630.6 | 668.0 | 423.9 |
| 1 5 総 資 本 利 益 率 | 22 | 0.4 | △33.2 | 0.4 | 6.8 | 1.6 |
| | 21 | 0.1 | △4.8 | 0.3 | 3.0 | △4.4 |
| | 20 | △0.2 | △7.0 | 0.2 | 7.2 | △9.4 |
| | 19 | △0.2 | △5.5 | 0.0 | 6.3 | △8.9 |
| | 18 | △0.1 | △5.2 | △0.1 | 7.8 | △8.1 |
| 1 6 自 己 資 本 利 益 率 | 22 | 1.0 | △316.9 | 0.8 | — | — |
| | 21 | 0.2 | △18.9 | 0.5 | — | — |
| | 20 | △0.5 | △23.6 | 0.4 | — | — |
| | 19 | △0.7 | △15.9 | 0.1 | — | — |
| | 18 | △0.3 | △12.9 | △0.1 | — | — |
| 1 7 営 業 収 支 比 率 | 22 | 115.9 | 97.0 | 159.2 | 82.9 | 95.6 |
| | 21 | 113.0 | 84.7 | 153.2 | 83.7 | 88.7 |
| | 20 | 111.4 | 77.3 | 156.9 | 90.3 | 82.0 |
| | 19 | 112.5 | 82.3 | 159.3 | 88.7 | 81.8 |
| | 18 | 112.1 | 82.3 | 155.1 | 92.8 | 82.1 |
| 1 8 経 常 収 支 比 率 | 22 | 103.8 | 94.8 | 111.7 | 103.0 | 101.3 |
| | 21 | 101.4 | 82.7 | 107.4 | 99.8 | 93.8 |
| | 20 | 99.5 | 76.1 | 105.4 | 106.6 | 85.2 |
| | 19 | 99.0 | 80.5 | 101.6 | 105.3 | 84.9 |
| | 18 | 98.2 | 81.3 | 98.9 | 108.2 | 84.8 |
| 1 9 総 収 支 比 率 | 22 | 103.0 | 42.3 | 111.1 | 112.7 | 102.3 |
| | 21 | 100.6 | 82.7 | 106.6 | 105.5 | 93.4 |
| | 20 | 98.8 | 76.1 | 104.6 | 112.5 | 84.8 |
| | 19 | 98.3 | 80.4 | 100.8 | 110.7 | 84.6 |
| | 18 | 99.3 | 81.3 | 98.3 | 113.9 | 85.9 |
| 2 0 利 子 負 担 率 | 22 | 2.3 | 1.3 | 2.4 | 1.2 | 1.6 |
| | 21 | 2.3 | 1.7 | 2.5 | 1.4 | 1.6 |
| | 20 | 2.5 | 1.5 | 2.8 | 1.6 | 1.7 |
| | 19 | 3.1 | 1.7 | 3.1 | 1.7 | 1.7 |
| | 18 | 3.2 | 1.7 | 3.2 | 1.5 | 1.7 |
| 2 1 累 積 欠 損 金 比 率 | 22 | — | 353.8 | — | 213.6 | 70.0 |
| | 21 | — | 192.7 | — | 229.8 | 83.5 |
| | 20 | — | 166.1 | — | 223.9 | 90.6 |
| | 19 | — | 126.3 | — | 230.3 | 79.8 |
| | 18 | — | 103.4 | — | 241.3 | 64.1 |
| 2 2 不 良 債 務 比 率 | 22 | — | 18.4 | — | 99.9 | 7.2 |
| | 21 | — | 18.6 | — | 119.3 | 16.3 |
| | 20 | — | 13.1 | — | 123.3 | 16.2 |
| | 19 | — | 41.5 | — | 139.5 | 29.6 |
| | 18 | — | 6.1 | — | 160.9 | 8.0 |

| 算 式 | 説 明 |
|--|---|
| $\frac{\text{営業収益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ | 企業に使用された総資本の運用率を測定し総括的な経営活動の能力をみるのに用いる。企業能率の向上を図るため、この比率を高めることが必要である。 |
| $\frac{\text{営業収益}}{\text{平均固定資産}} \times 100$ | 固定資産の利用度を測定するのに用いる。企業の種類により特殊性を有するが、回転度の高いことが望まれる。低いことは過大投資を意味する。 |
| $\frac{\text{営業収益}}{\text{平均流動資産}} \times 100$ | 流動資産の利用、使用効率を測定するのに用い高いほど運用形態が良い。 |
| $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$ | 企業の収益性を総合判断するのに用い、経營業績の程度を示すもので、高いほど良い。 |
| $\frac{\text{当年度純利益}}{\text{平均自己資本}} \times 100$ | 自己資本の収益力を測定するのに用いる。この比率は通常大きいほどよいが、自己資本過小に基づく場合は、資本の安全性財務流動性が害される恐れがある。 |
| $\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$ | 当期の営業費用に対する営業収益の割合で、営業活動の能率を表す。100%未満であることは、営業損失が発生していることを意味する。 |
| $\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$ | 当期の経常費用に対する経常収益の割合で、企業活動の能率を表す。100%未満であることは、経常損失が発生していることを意味する。 |
| $\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益} + \text{特別利益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用} + \text{特別損失}} \times 100$ | 当期の総費用に対する総収益の割合で、事業活動の能率を表す。100%未満であることは、純損失が発生していることを意味する。 |
| $\frac{\text{支払利息}}{\text{平均負債}} \times 100$ | 企業における全ての負債に関し、利子負担の割合をみるに用い、この比率が高いほど企業経営が圧迫されるので健全性を確保するには最小の負担にする必要がある。 |
| $\frac{\text{累積赤字}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}} \times 100$ | 累積赤字額と営業収益との比で、この比率が表示されていることは、経営の悪化を意味し、その程度を知るのに用いる。 |
| $\frac{\text{流動負債} - (\text{流動資産} - \text{繰越財源})}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}} \times 100$ | 不良債務額と営業収益との比で表示され、この比率が表示されていることは、財政状態が不健全な姿であることを意味し、この比率が高いほど流動負債の焦げ付きにより運転資金は不足しており、経営の悪化を表わしている。この比率を重視するのは公営企業の特徴である。 |